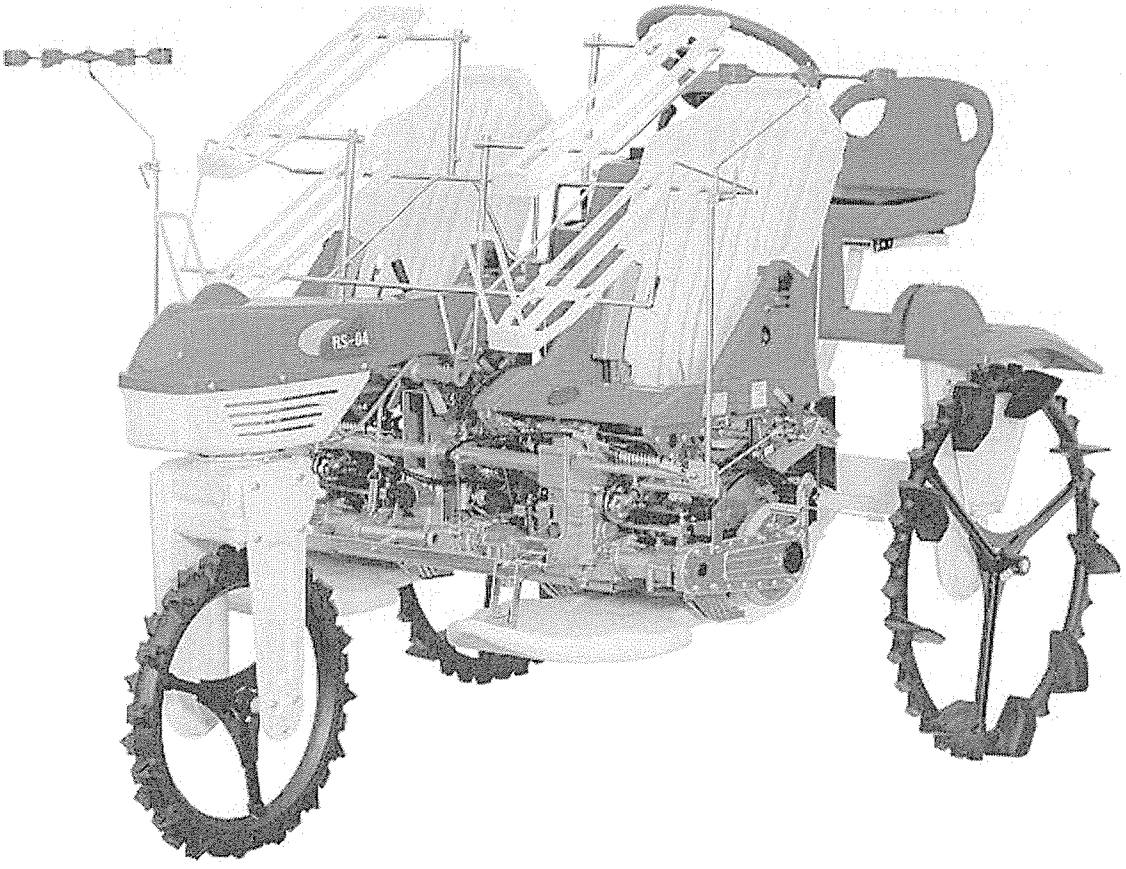
使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

共立 ポット成苗田植機

RS-04〔乗用型〕

取扱説明書



株式会社やまびこ

田植機重要安全ポイント

1.ほ場まで移動するときは、トラック等にのせて運搬します。

2.燃料を補給するときは、火気厳禁とします。
エンジンを停止し、冷機状態で行ないます。

3.エンジンを始動するときは、
主変速レバーを「中立」・副変速レバーを「PTO」・ブレーキペダルを
ロックし、周囲の安全を確認してから行ないます。

4.田植機を移動するときは、運転者以外乗車せず、
左右に転倒しないよう低速で行ないます。

5.トラックに積み降ろしするときは、
乗って後進で、積み込みします。
強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板を使用します。
スピードを落としアユミ板に直角に上り・下りします。

6.ほ場に出入りするときは、
乗って後進で、ほ場から上がります。
スピードを落としあぜに直角に移動します。

7.田植機を点検整備するときは、必ず安全な場所で
エンジンを止め、植付部をフックで固定します。

8.補助者と共同作業を行なうときは、合図をし、安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは
上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい
事項を⚠を付けて説明しております。
よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

- このたびは、本田植機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- この田植機は水稲の田植えをするためのものであって、他の用途に使用しないでください。
- 使用目的以外の作業や改造はしないでください。
- この取扱説明書は、田植機を使用する際に、ぜひ守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 田植機を初めてご使用になるときはもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも入念に読み、内容を充分理解された上で、安全確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに購入先にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容及び、イラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますが、あらかじめご了承ください。
- もし、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく購入先にご相談ください。
- 本取扱説明書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
- なお、 の表示があるラベルが破損したり、はがれた場合はお買い上げの購入先に連絡し、必ず所定の位置に貼ってください。
- 本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

表示	重要度
 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性のあるものを示しております。
注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるもの、物的損害をこうむる恐れがあるものを示しております。
	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　次

安全のポイント ---------- 1
非特殊自動車としての取り扱い ---------- 1
安全な作業をするために ---------- 1
安全表示ラベルについて ---------- 8
使用上のポイント ---------- 10
保障とサービスについて ---------- 14
各部の名称と取り扱い ---------- 15
各部の名称 ---------- 15
各部の取り扱い ---------- 17
作業前点検 ---------- 24
給油・注油箇所の点検と補給 ---------- 24
ペダル・レバーの点検 ---------- 27
運転のしかた ---------- 28
エンジンの始動と停止のしかた ---------- 28
発進・停止・駐車のしかた ---------- 30
移動・運搬のしかた ---------- 32
ほ場への出入りのしかた ---------- 35
作業のしかた ---------- 36
ほ場と苗の準備 ---------- 36
ほ場の準備 ---------- 36
苗の準備 ---------- 37
植付作業前の準備 ---------- 39
植付株間の決めかた ---------- 39
替ギヤー交換のしかた ---------- 39
植付深さの調節のしかた ---------- 40
苗支持板の調節のしかた ---------- 40
植付作業の手順 ---------- 41
油圧感度調節のしかた ---------- 43
フロート姿勢の調節 ---------- 43
ほ場での植えかた ---------- 44
旋回のしかた ---------- 44
筋付マーカーの使いかた ---------- 45
苗の補給・空箱収納のしかた ---------- 45
植えじまいのしかた ---------- 46
残り苗の取り出しかた ---------- 47
植付部の水洗いのしかた ---------- 48
安全クラッチが作動したとき ---------- 49
湿田での脱出のしかた ---------- 49

目　次

点検整備 ---------- 50

定期点検 ---------- 50
洗車時の注意 ---------- 50
定期点検一覧表 ---------- 51
給油・注油点検一覧表 ---------- 52
燃料・オイルの点検・補給・交換 ---------- 52
燃料の排出 ---------- 53
変速ミッションオイル ---------- 53
植付ミッションオイル ---------- 54
燃料フィルタポットの点検・掃除 ---------- 54
エアクリーナエレメントの点検・掃除 ---------- 55
点火プラグの点検・掃除・調整 ---------- 55
燃料ホースの点検・交換 ---------- 56
変速ミッション駆動ベルトの点検 ---------- 56
オイルフィルターの交換 ---------- 57
車輪の点検 ---------- 58
電装部の各配線コードの点検・交換 ---------- 58
植付作業後の手入れ ---------- 59
毎日の作業後 ---------- 59
長期格納時 ---------- 59

不調時の処置 ---------- 61

サービス資料 ---------- 63

主要諸元 ---------- 63
標準附属品 ---------- 64
主な消耗品一覧 ---------- 65
注文部品の紹介 ---------- 67

索引 ---------- 69

安全のポイント

本章では、田植機を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。充分に熟読して、安全な作業を行なってください。

非特殊自動車としての取り扱い

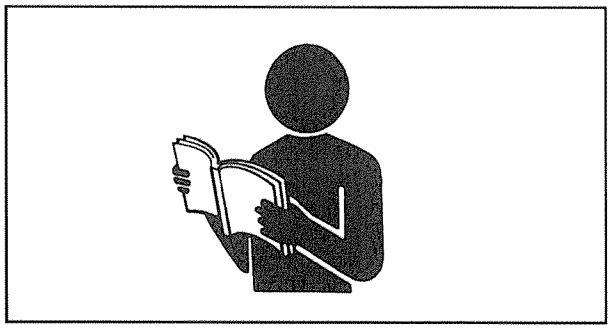
この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として道路走行車両の型式認定を受けておりません。したがって、一般道路を走行することは違法行為になります。
移動する場合は、トラックなどにのせて運搬してください。
トラックの荷台から田植機が、幅方向にはみ出した状態で運搬すると、違法行為となりますので注意してください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

(1) はじめに

この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業するための第一歩です。

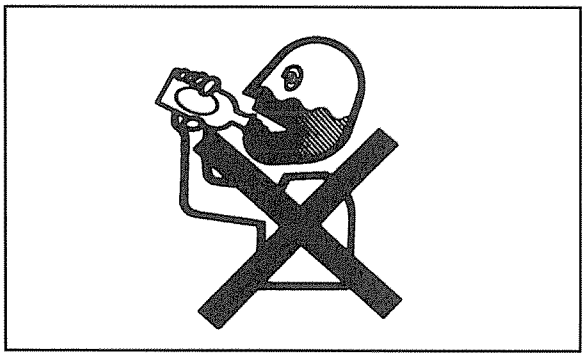


(2) 体調について

①飲酒時や過労ぎみのときは作業を行なってはいけません。このようなときに作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。作業を行なうときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

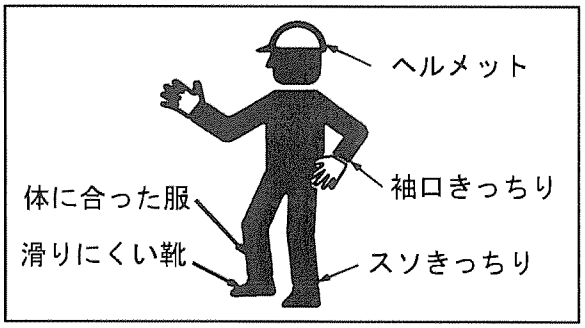
②妊娠している人、18才未満の人は運転しないでください。

③初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。



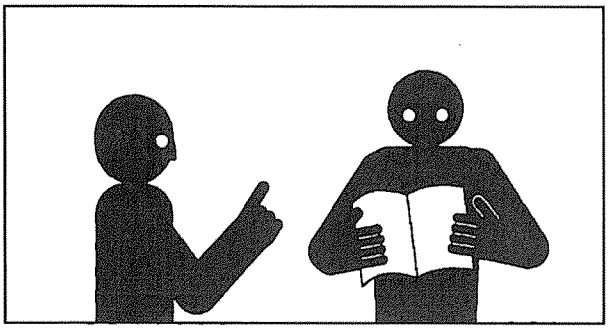
(3) 服装について

作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は、回転部に巻き込まれやすく危険です。ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。



■人に機械を貸すときは

田植機を人に貸すときは、取り扱いの方法をよく説明し使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が田植機の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

(1) 無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

(2) 日常点検について

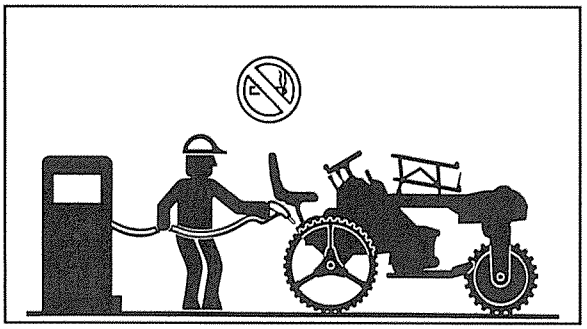
作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検・注油は必ず行なってください。特にブレーキおよび主変速レバーの点検は忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり主変速レバーの操作が効かなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(3) 安全カバー類の装着確認

田植機を運転する前に、安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業を行なうと回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になります。

(4) 燃料補給時は火気厳禁

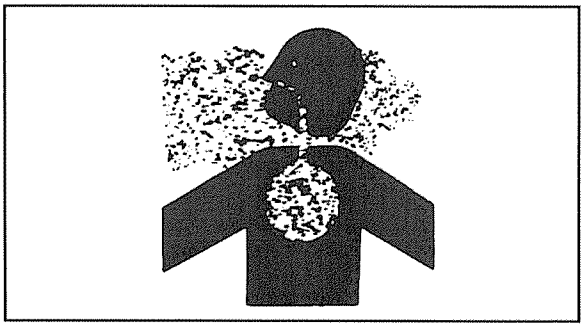
燃料を補給するときエンジンは必ず停止し、くわえタバコなどは絶対にしないでください。田植機の周囲に火の気を近付けず、火気厳禁で行なってください。守らなかった場合、火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

(1) 室内では充分に換気を

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて換気を充分に行なってください。換気を怠ると、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



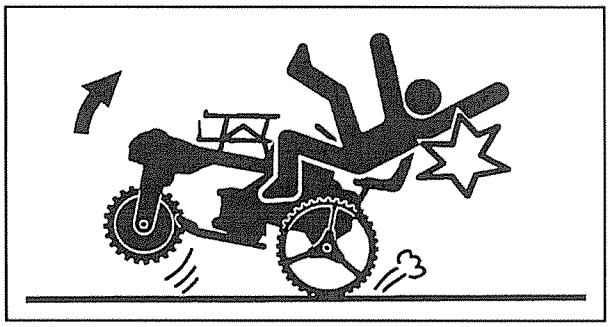
(2) エンジンの始動は周囲を確認してから

①エンジンを始動するときは、主変速レバーや副変速レバー、その他のレバーの位置と周囲の安全を確認してから行なってください。特に子供には充分注意してください。確認を怠ると、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

②エンジンを始動するときは、エンジンやマフラー等の上や周囲に、燃えやすいものがないことを充分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

(3) 急発進は危険

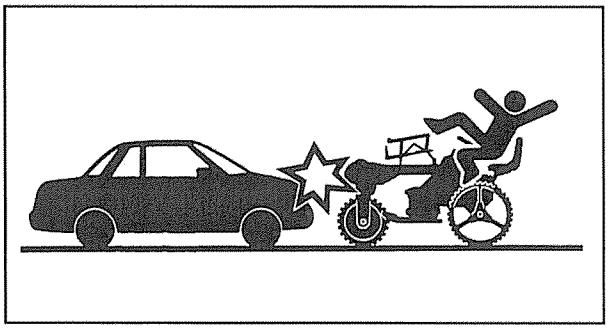
発進するときは周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■移動するときの注意

(1) 一般道路での自走禁止

この田植機は、道路走行車両の型式認定を受けておりません。したがって一般道路を走行することは違法行為になります。ほ場への移動は、必ずトラック等にのせて運搬してください。



(2) 正しい運転姿勢で

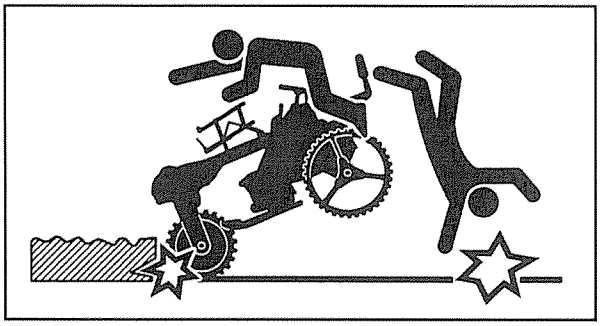
ハンドルやレバー、ペダルは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因となります。

(3) ほ場の外でのブレーキの使いかた

ほ場の外でブレーキを使う場合、急停止は大変危険です。必ず主変速レバーを「中立」位置に戻してからブレーキペダルを踏み込んでください。

(4) 同乗禁止

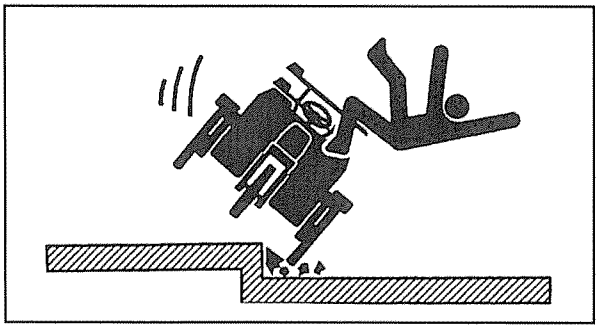
どのような場合でも絶対に運転者以外の人を乗せないでください。転落事故を引き起こす原因となります。



(5) ゆっくり移動

①カーブ、曲り角では早めにスピードを落としてください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。

②凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた安全な速度で移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。



(6) 路肩に注意

両側が傾斜している所を移動するときは、速度を落として充分注意して移動してください。路肩がくずれて転倒事故につながる恐れがあります。

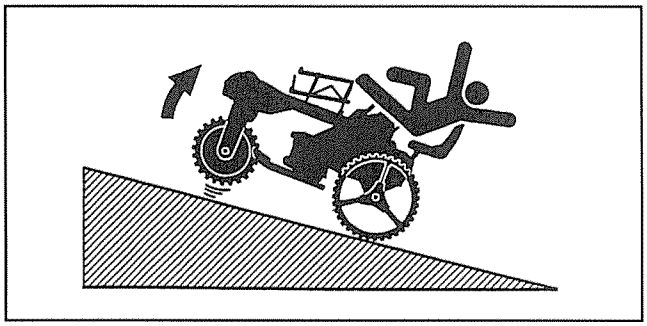
(7) 坂道に注意

①坂の手前で一旦停止し、副変速レバーを「作業」に切換えてから、坂道を走行してください。急発進は禁物です。

②坂を上るときは低速でゆっくりと上り、下るときはエンジンブレーキを使用してゆっくりと下ります。フットブレーキの多用はブレーキを傷めるとともにスリップや転倒の原因となり大変危険です。

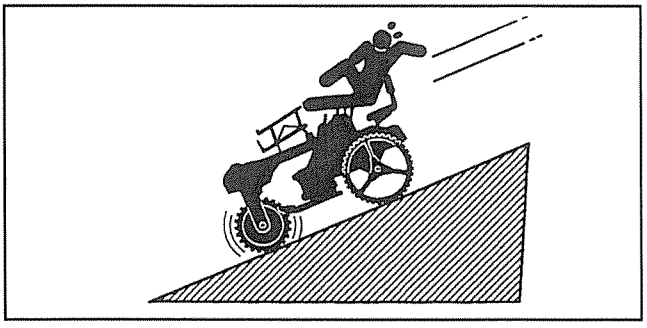
③停止するときはブレーキペダルは踏み込まないで、必ず主変速レバーを操作してください。

④坂が急で前進で上ると前が浮き上がる恐れがある場合は、後進で上るようにしてください。



⑤坂の途中で副変速レバーを「PTO」にしないでください。転倒事故につながる恐れがあります。

⑥坂の途中で危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたいときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。ペダルの踏み込みが足らない場合は暴走する恐れがあり、大変危険です。

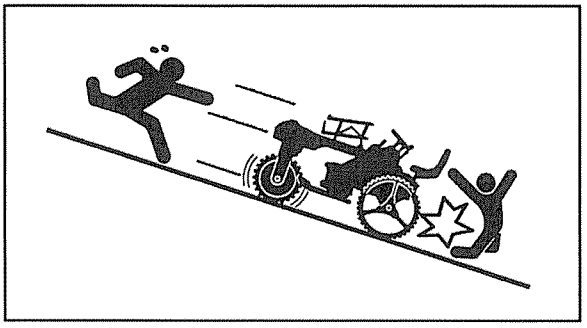


(8) 田植機から離れるときは

①田植機から離れるときはエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて車輪止めをしてください。

②止める場所は広く平たんな地面の硬い場所を選んでください。田植機が自然に動きだす恐れがあり、大変危険です。

③下に草やワラがある場所や、燃えやすい物の近くには田植機を置かないでください。マフラー等の熱で発火する恐れがあり、火災の原因になります。



■夜間作業の禁止

この田植機はライトを装備しておりません。夜間作業は危険なので帰り時間等を配慮し、作業は早めに切り上げてください。暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

■移動・運搬時の注意

(1) トラックへの積み降ろし

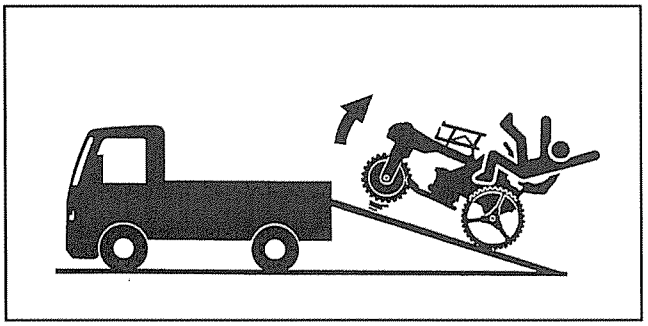
①積み降ろし作業を行なうときは、トラックのエンジンを止めて、駐車ブレーキをかけ、車輪止めをして行なってください。これを怠ると積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

②積み降ろし作業は、誘導者を付けて周囲の安全を充分確認して行なってください。また田植機の直前や直後には絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり、大変危険です。

③アユミ板は基準以上のものを使用し、田植機の重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。

＜アユミ板の基準＞
○長さ：車の荷台の高さの4倍以上 ○幅　：30cm以上 ○数量：3枚 ○強度：1枚の強度が400kg以上の質量に耐えうるもの ○すべり止めのあるもの

④アユミ板のフックは荷台に段差がないようにまた、ずれないよう確実に掛けてください。
⑤アユミ板からの脱輪に注意してください。
⑥前進でアユミ板を上ると大変危険です。必ず後進で積み込み、前進で降ろしてください。これを怠ると転落事故の原因になり、大変危険です。



⑦副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーでゆっくり操縦してください。積み降ろしは低速で行なってください。途中で絶対に副変速レバーを「PTO」にしないでください。これを怠ると転落事故の原因になり、大変危険です。
⑧途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱいに踏んでください。
⑨万一に備えて田植機の周囲には人を近付けないでください。

(2) 運搬するとき

①トラック等で運搬するときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し必ず田植機をロープで荷台に固定してください。また運搬中は不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。田植機が移動して大変危険です。
②長距離を運搬する場合は、安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。
③ジャリ道や凹凸の激しい道はゆっくり走行してください。

■作業中の注意

気象条件などに注意して、作業実施の判断・作業方法や装備（服装）の選択に充分配慮してください。

(1) 作業中は、周囲の人に注意（特に子供が近づくのは危険）

作業中は、作業者以外の人を田植機に近付けてはいけません。田植機自体や作業による飛散物等で傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業開始時は、声をかけあって

作業を開始するときは周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声をかけあって行なってください。これを怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) あぜごえ時の注意

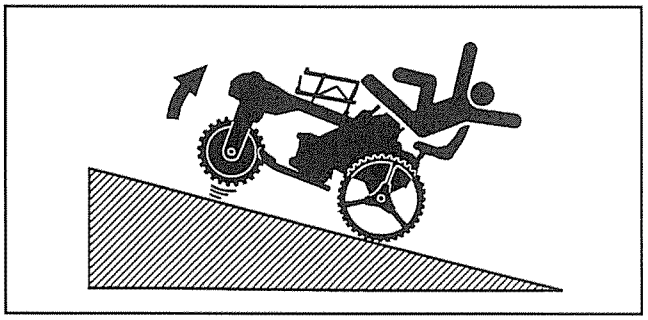
機械をあぜに対して直角に向けて止め、副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーを低速でゆっくりあぜを越えてください。あぜに対して斜めになったり、高速であぜ越えを行なうとスリップや横転の原因となり、大変危険です。

(4) アユミ板を使ってほ場の出入り

①あぜが高い所でのほ場の出入りには、必ずアユミ板を使用して後進で上ってください。使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。

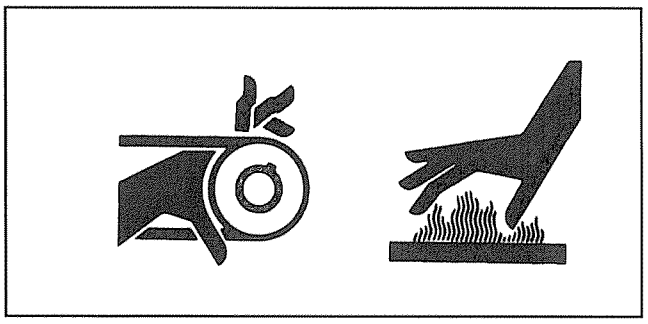
②あぜに対して機械を直角に止め、3枚のアユミ板が機械の車輪に合い、平行になっていることを確認してください。

③ハンドルをまっすぐにして、ゆっくりと上ってください。このとき脱輪に注意してください。



(5) 回転部・過熱部には手を触れない

作業中は、植付爪、苗受等の回転部やエンジン、マフラー等の過熱部などの危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



点検・整備時の注意

(1) 定期点検について

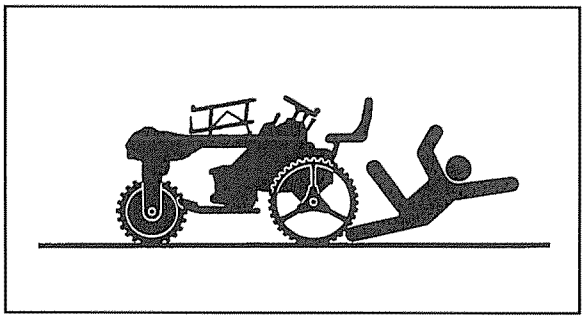
取扱説明書にしたがって定期点検をしてください。これは田植機を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業を行なうために必要です。

(2) 点検・整備は明るく広い場所で

点検・整備するときは、明るく平たんな広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 点検・整備時はエンジンを停止

点検・整備するときは必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部をフックで固定して行なってください。これらを怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。

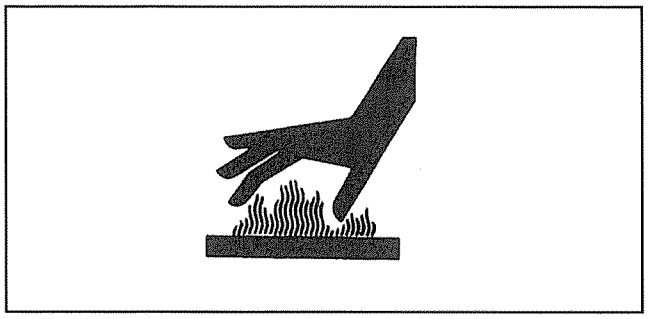


(4) 点検・整備は適正な工具で

点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行なってください。まにあわせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし、大変危険です。

(5) 過熱部分は冷めてから

①エンジンを停止してすぐに点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。これを怠るとやけどなどの原因になります。



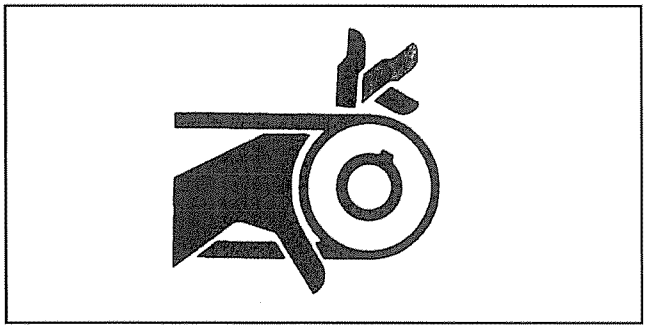
②点検・整備をするときは、マフラー等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。これを怠ると作業中に発火し、火災を引き起こす恐れがあります。

(6) 田植機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。田植機の故障や事故の原因になり大変危険です。

(7) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。外したままエンジンを始動すると、回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になります。



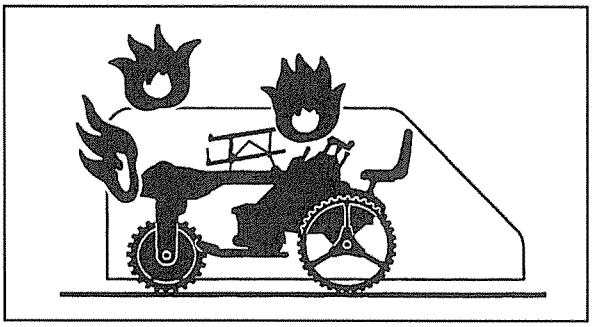
■保管時の注意

(1) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し、田植機の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因にもなり大変危険です。

(2) シートカバーは田植機が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにシートカバーをかけると火災の原因になり大変危険です。



■廃棄物の取り扱い注意

(1) 廃棄物のたれ流し禁止

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや河川・湖沼・海洋への投棄はしないでください。

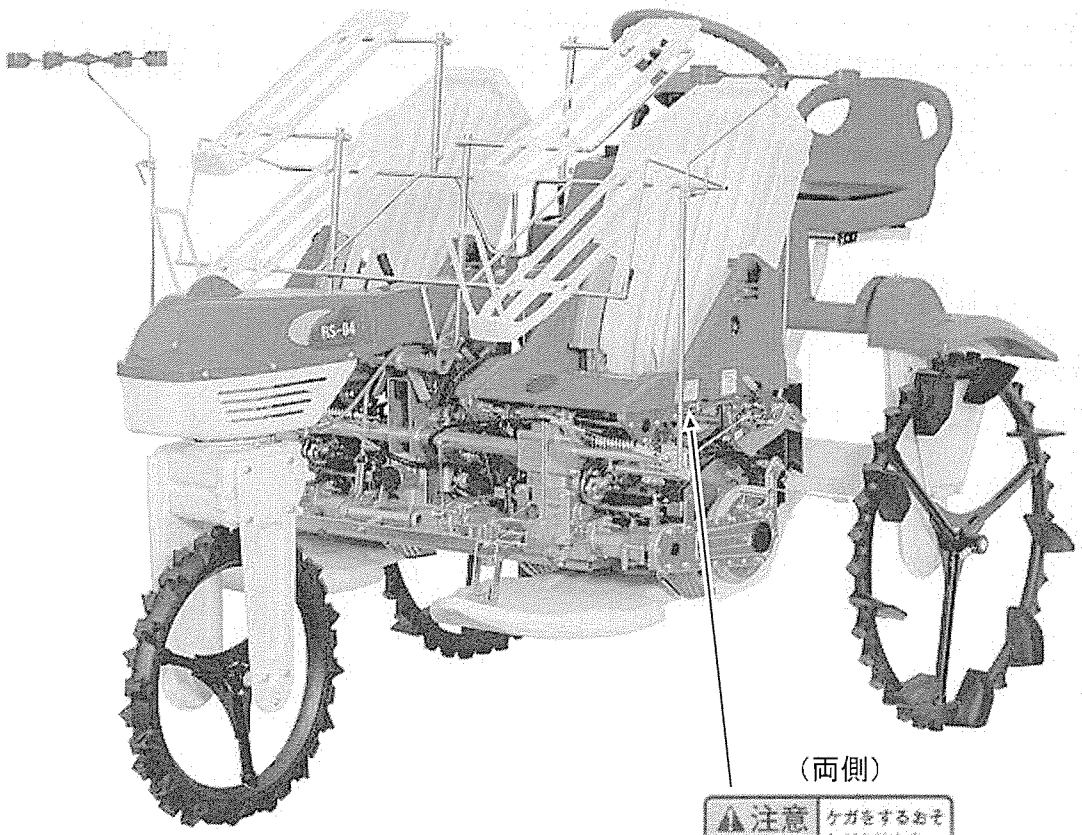
(2) 廃棄・焼却時は相談を

廃油・燃料・フィルター・ゴム類・その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則にしたがって処理してください。

安全表示ラベルについて

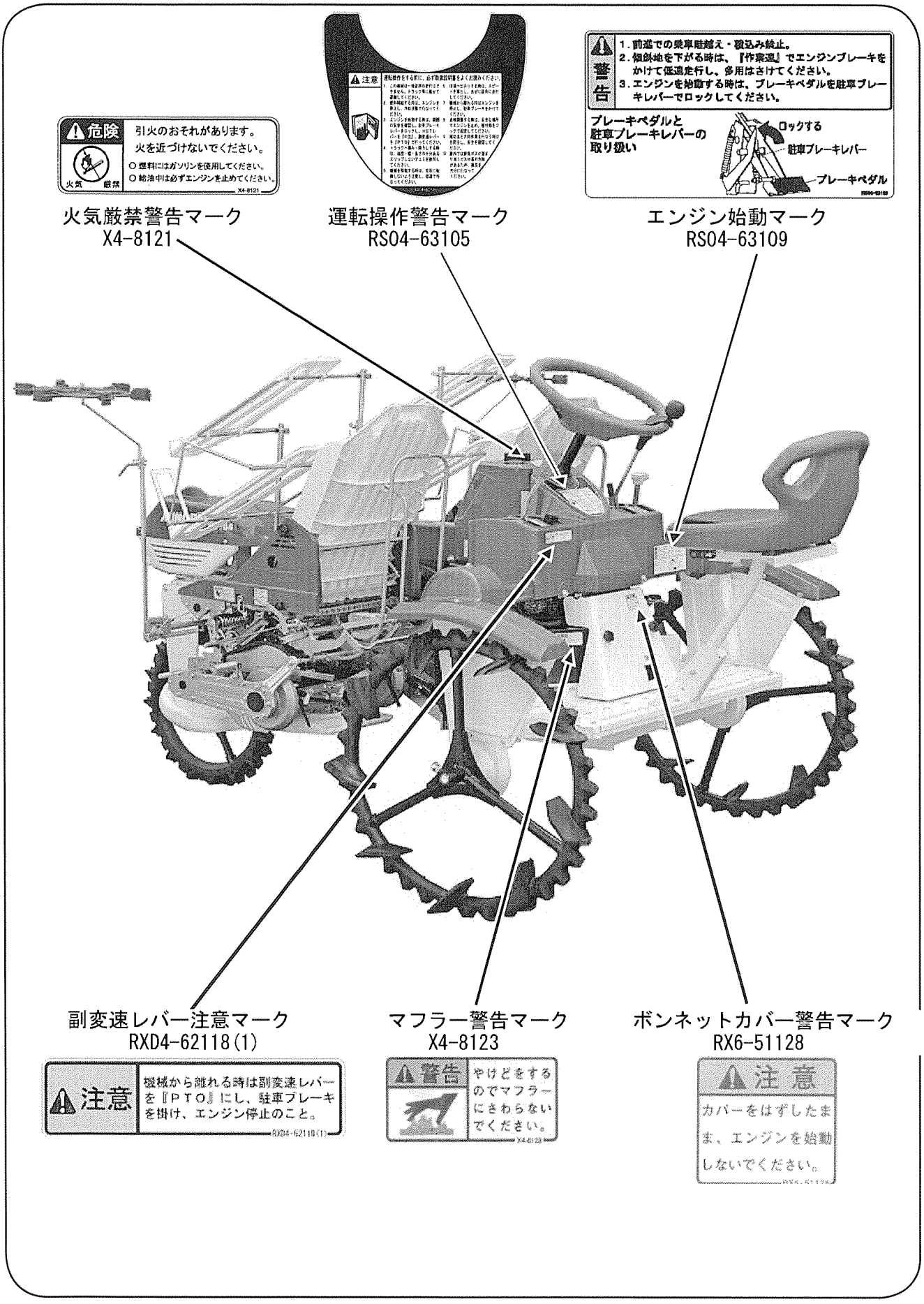
●本田植機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの指示にしたがってください。
●安全表示ラベルが破損したり、はがれたり、読めなくなった場合は、購入先に連絡し必ず所定の位置に貼ってください。
●泥などがついた場合は、きれいにふきとり、いつでも読めるようにしてください。
●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルも購入先にご注文ください。

安全表示ラベル貼付位置



植付部警告マーク
X4-8124

安全表示ラベル貼付位置



使用上のポイント

本田植機が使用できる耕盤の深さは25cmまでです。

泥炭地、基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では、田植機を使用できなかったり、早期破損の原因となったりします。また、本田植機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗やほ場、機械の準備をしていただくことが大切です。

苗について

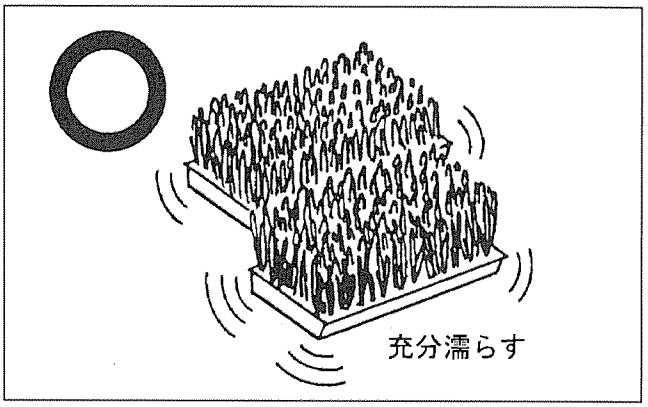
(1) 苗は使用する前にポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けをします。特に根張りの良い苗は充分濡らしておきます。濡らしかたが不足すると、苗の押出し不良・ロック板の作動不良・縦送り・横送り不良の原因となります。

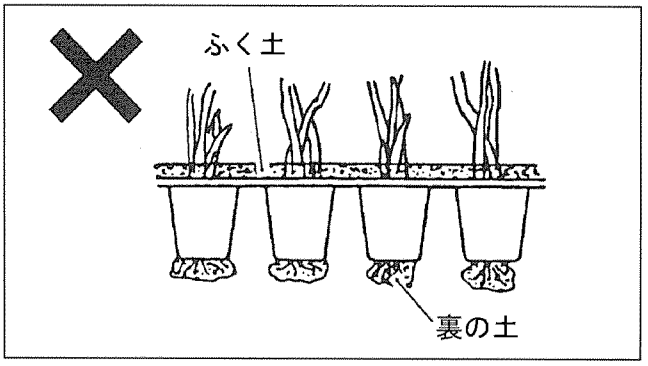
(2) 濡らして使用することが絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットにくずれ易い土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。

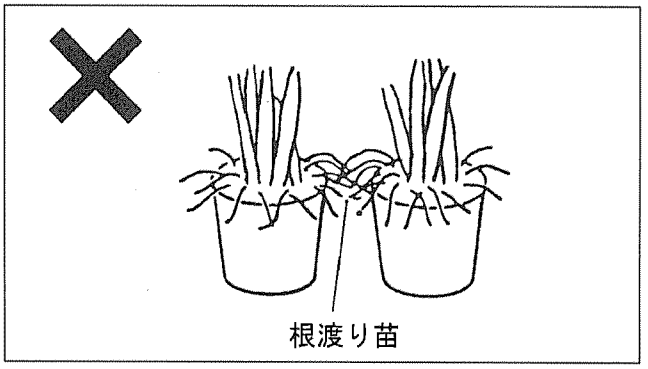
(3) 苗箱の上面に余分なふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。

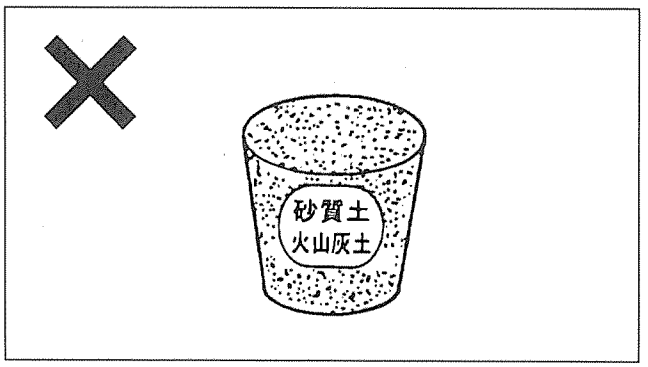
(4) 根渡りさせないよう、育苗の段階から注意してください。(詳しくは「育苗のてびき」を参照) 根渡り苗は植え付けができないことがあります。

(5) 育苗に使用する培土は適度な弾力とねばりのある培土を使用してください。砂質土・火山灰土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。培土に関しては、購入先にご相談ください。

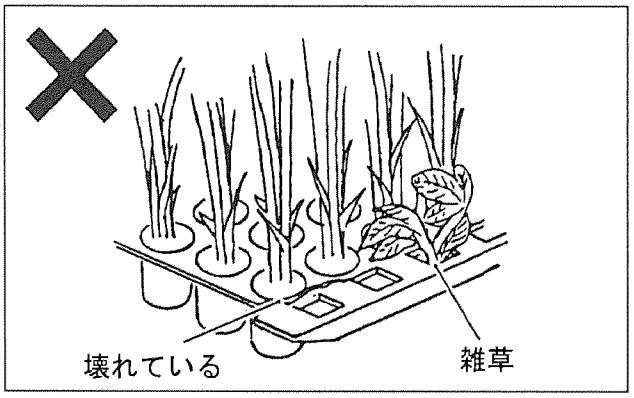




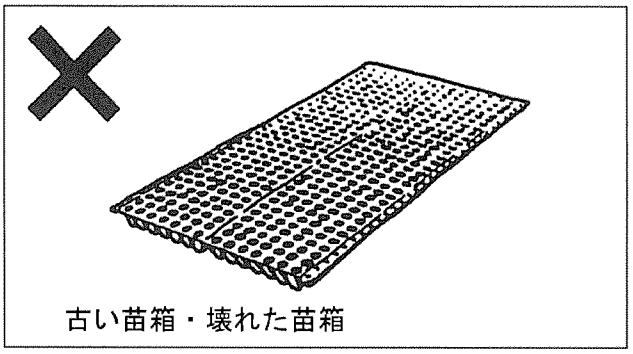




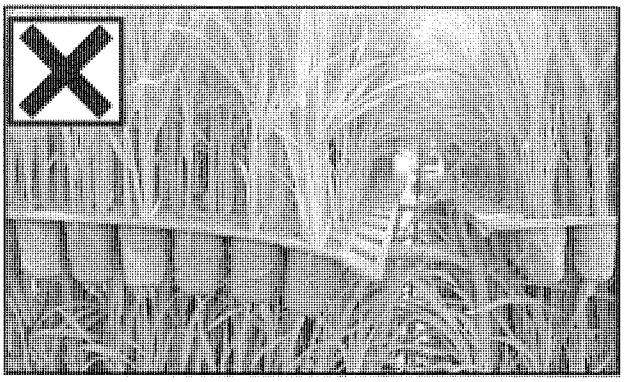
(6) 箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



(7)10 年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



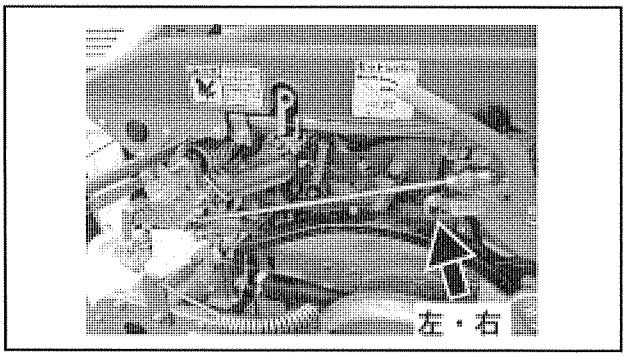
(8) 育苗のとき、苗箱のふちを変形させないよう注意してください。ふちが変形してしまった苗箱は破損していなくても、使わないでください。苗箱送りが確実に行えず、 連続欠株の原因になります。



■注油

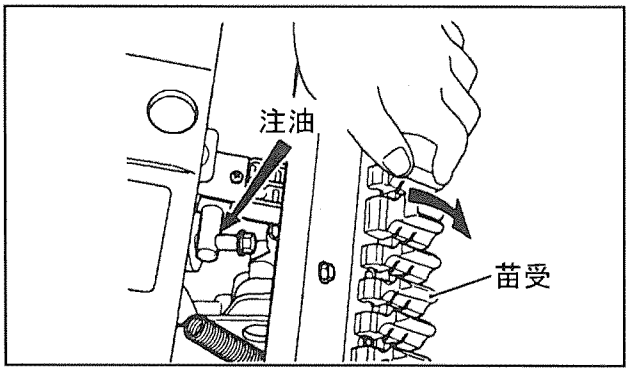
作動不良・消耗を防ぐため毎日使用前に注油してください。

①縦送り爪下左・右



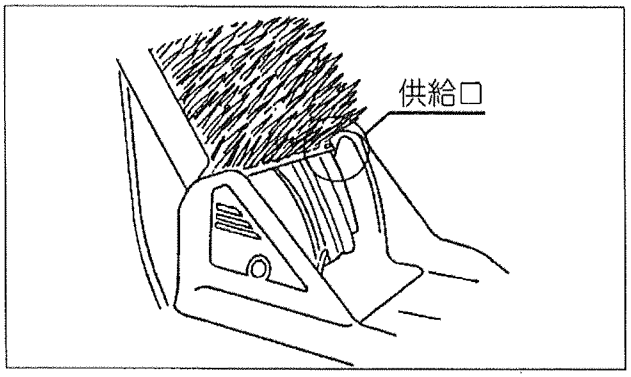
②上下送りバネ軸

苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方向に押さえて注油してください。



■苗のセット

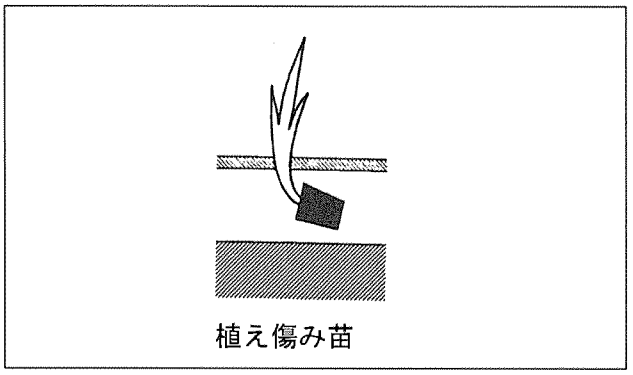
(1) 植付中は、必ずベルが鳴ってから苗箱を確実に供給口にセットしてください。
(2) ベルが鳴る前に苗を供給すると、苗のセット位置がずれて、植付不調・苗箱の破損の原因になります。
(3) ストッパー爪に当たって苗箱が止まったときは無理に押し込まないで下さい。



■植え痛みの注意

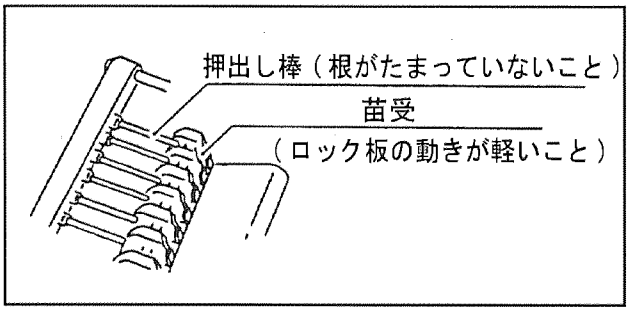
(1) 次のような条件のとき、植え痛み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。
- ●貧弱な苗
- ●根張りが悪い苗
- ●ガイド板が変形している。（広くなったとき）
- ●苗支持板が変形・欠落している。

(2) 植付状態を確認しながら作業をしてください。



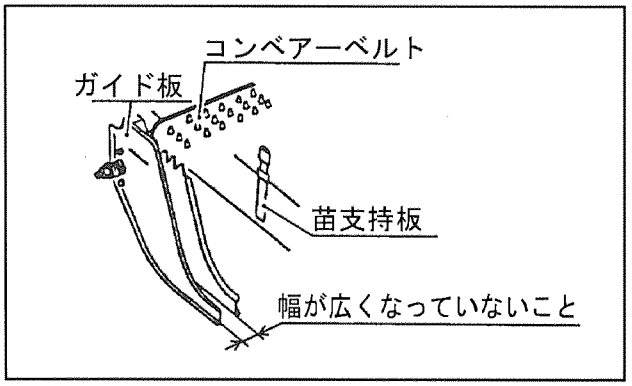
■植付部の水洗い

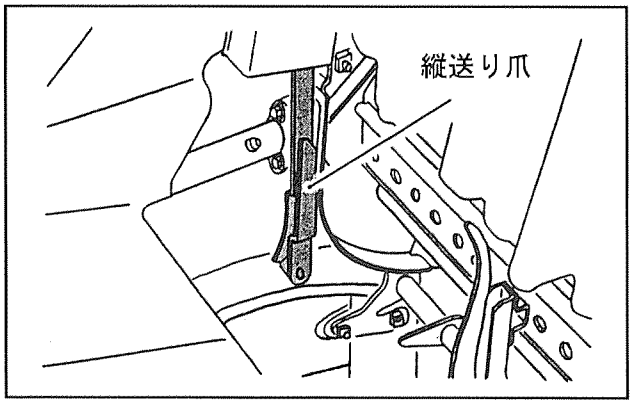
(1) 苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。
(2) 休憩・食事のとき・ほ場を変えるときなどには必ず洗ってください。

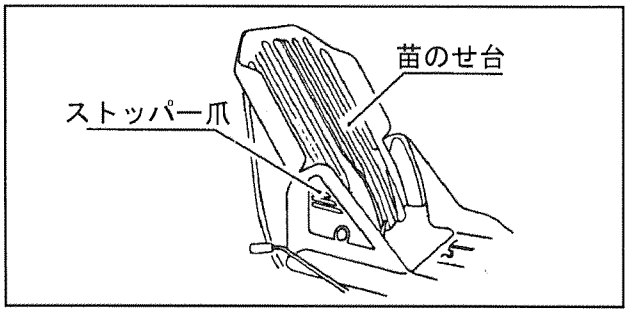


重要

- **●ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え痛みの原因となるので、きれいに洗ってください。（変形している場合は修正、または交換してください。）**
- **●苗支持板を変形させないように注意してください。植付不調になります。**

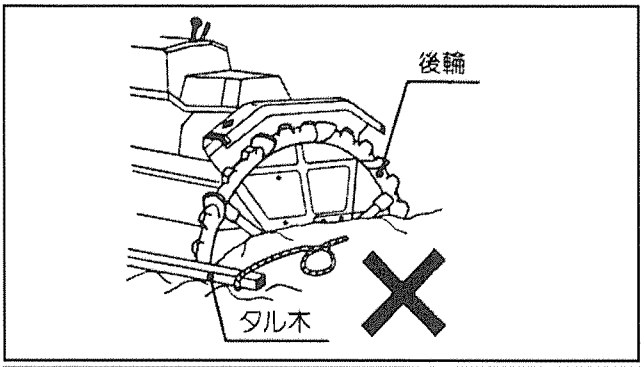


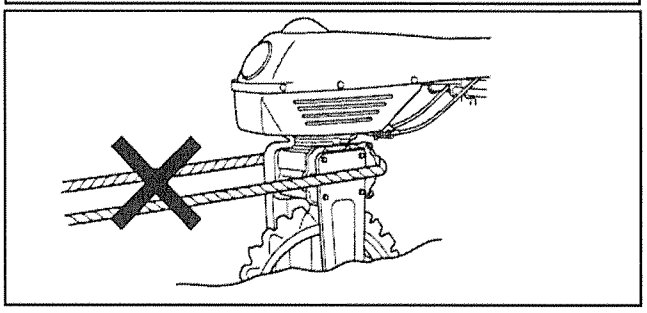




■湿田での脱出のしかた

(1) 予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
(2) 車輪に負担をかけないよう、植付クラッチレバーを「下」、油圧感度調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りている状態にします。
(3) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひきます。
(4) 主変速レバーを「低」から「高」繰り返し操作して、ゆっくりと自力で脱出させてください。





重要

●深いほ場で沈んで、田植機から異音がしたり、車輪がスリップして前進できなくなった場合は、絶対に田植機をトラクター等で引っ張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。

保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

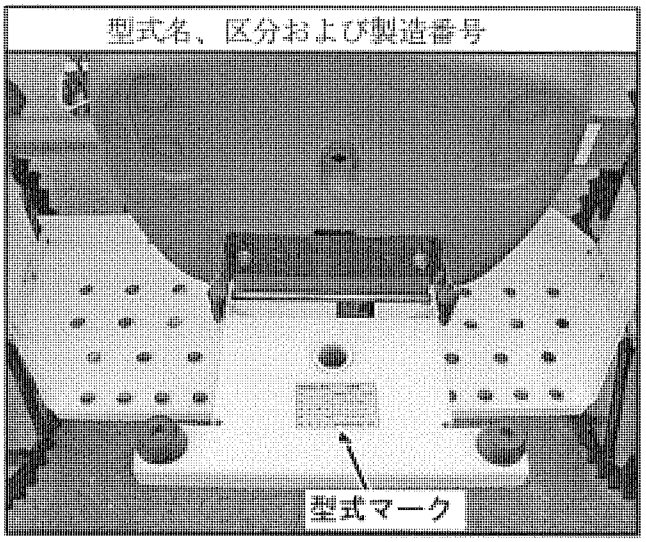
■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、購入先にお気軽にご相談ください。

その際　(1) 型式名、区分および製造番号
　　(2) エンジン番号
　　をあわせてご連絡ください。

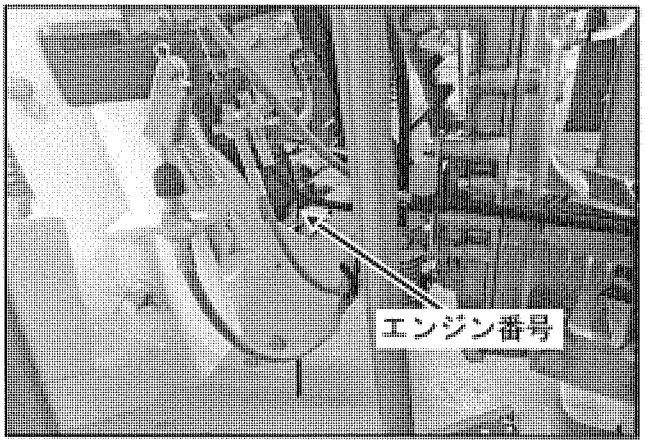
（型式マーク）

農業機械の種類	
型　　式	
区　　分	
製 造 番 号	



⚠警 告

機械の改造は危険ですので、絶対にしないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



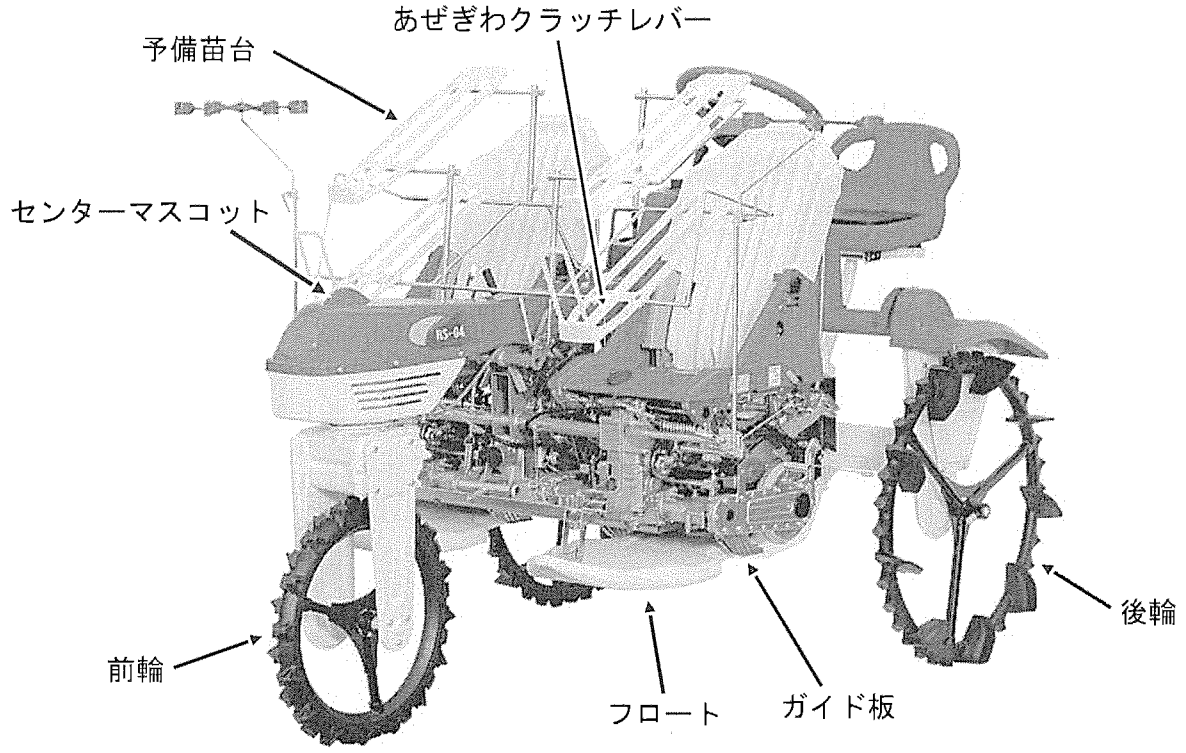
■補修用部品供給年限について

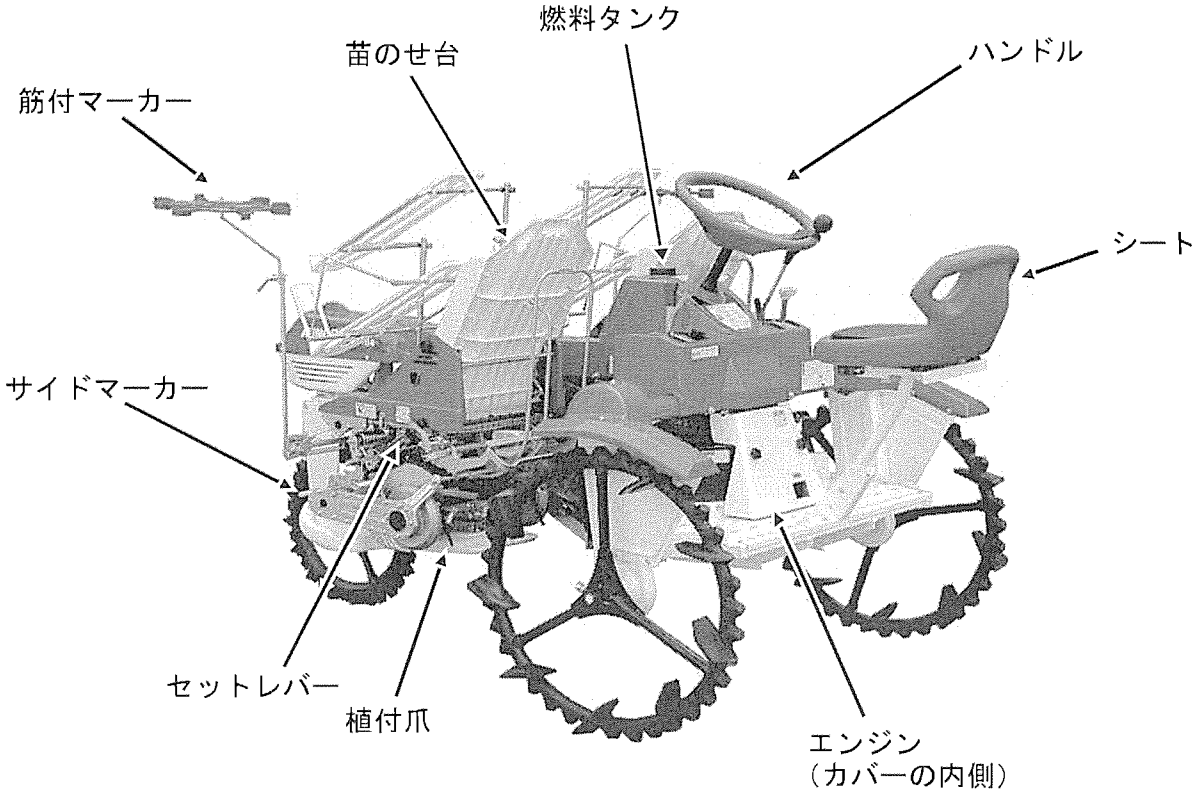
この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

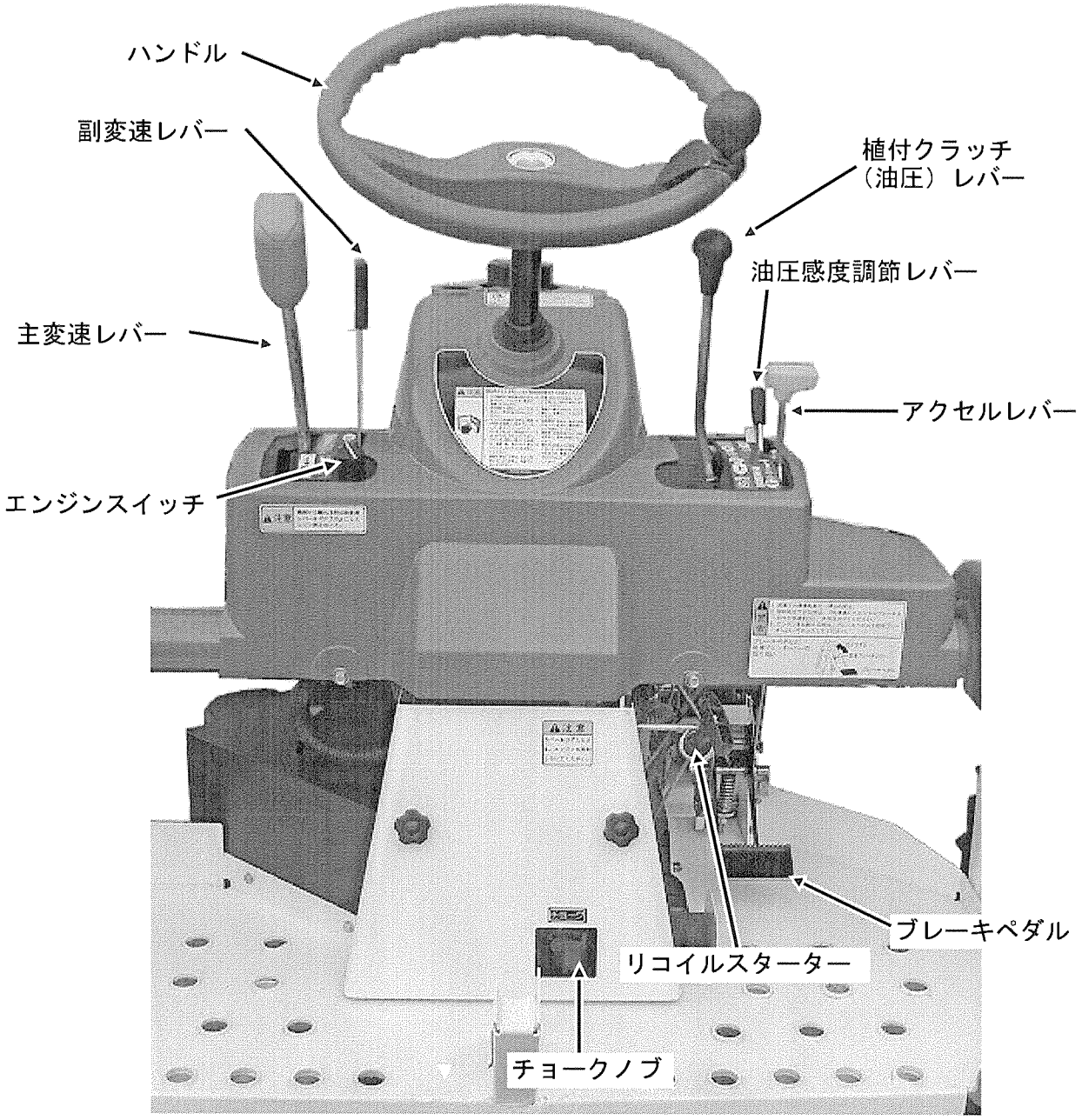
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と取り扱い

各部の名称



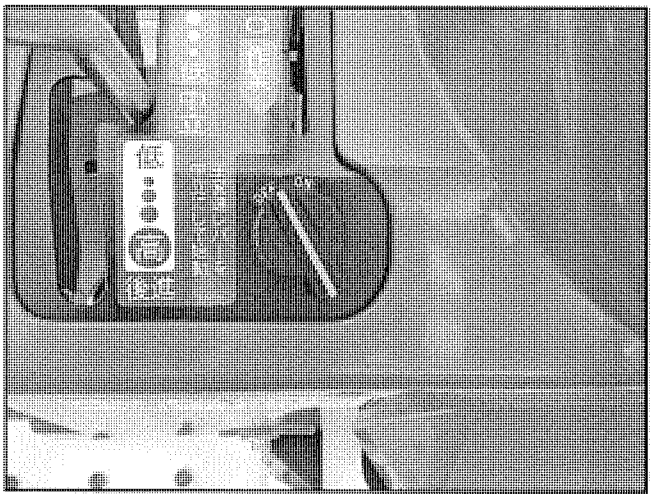



ハンドル
副変速レバー
植付クラッチ
（油圧）レバー
油圧感度調節レバー
主変速レバー
アクセルレバー
エンジンスイッチ
ブレーキペダル
リコイルスターター
チョークノブ

各部の取り扱い

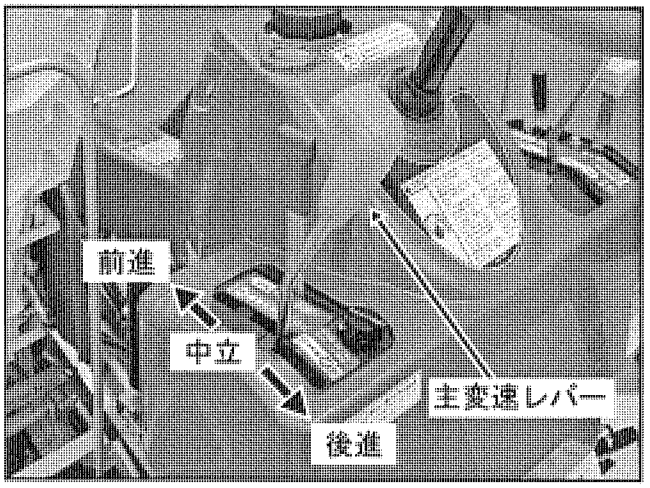
■エンジンスイッチ

ON　……リコイルスターターでエンジンの始動ができます。
OFF　……エンジンが停止します。



■主変速レバー

(1) 前進・後進・停止（中立）の操作及び走行速度の調節を行なうレバーです。前進方向に6段階、後進方向に4段階の変速ができます。
(2) 通常の走行を停止するときは、ブレーキペダルを踏み込まないで、主変速レバーの操作で行ないます。

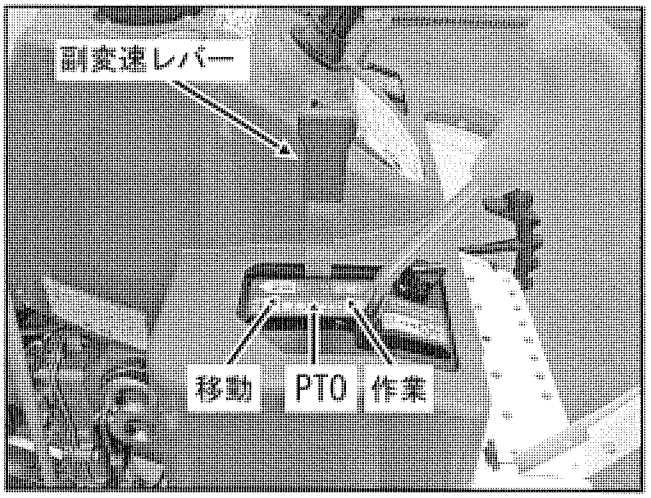


重要

- **エンジン始動時は主変速レバーを「中立」にしないと始動しません。**
- **主変速レバーは、エンジンに大きな負荷のかかる条件では高速側から自動的に低速側に戻る場合があります。**
- **植付部が接地した状態で、後進側に操作しないでください。植付部が破損する恐れがあります。**

■副変速レバー

(1)「移動」・「PTO」・「作業」位置の切換えを行なうレバーです。
(2) **作業**……植付作業時・低速移動時に使用します。
PTO……植付部のみ動きます。
移動……高速移動時に使用します。



⚠注意

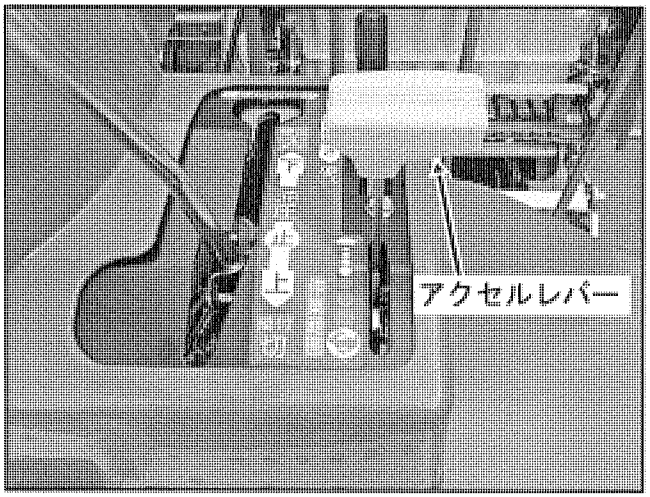
田植機から離れるときは副変速レバーを「ＰＴＯ」にし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してください。
これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

重要

- ●副変速レバーの操作は、主変速レバーを「中立」にして田植機が完全に停止してから操作してください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。
- ●変速機の構造上、副変速レバーの切換えができない場合があります。切換わらない場合は、エンジン始動中に主変速レバーを前方または後方に操作したのち「中立」に戻し、再度副変速レバーの切換えを行なってください。

■アクセルレバー

(1) レバーを後方に引く([🐇]方向)とエンジン回転数が上がり、前方に押す([🐢]方向)とエンジン回転数が下がります。
(2) ほ場条件によるエンジン負荷に応じて適当位置に固定して使用します。
(3) ブレーキペダルを踏むと、急発進防止のためレバーが自動的に前方に押され([🐢]方向)エンジン回転数が下がります。



重要

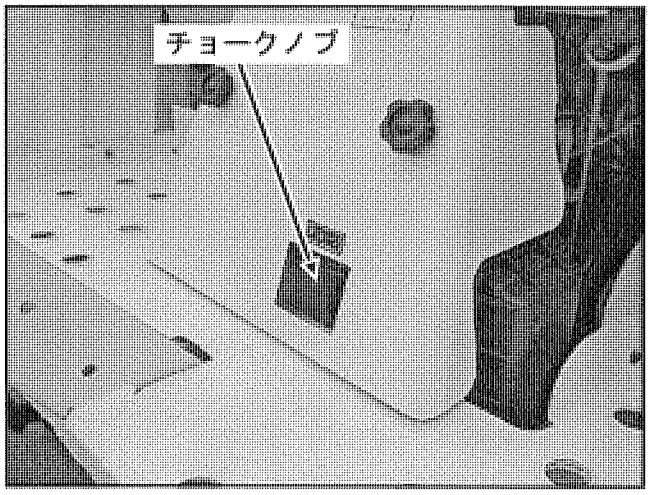
- ●ほ場での作業時には、アクセルレバーを作業範囲で使用します。

■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、チョークノブをいっぱいに引きます。エンジン始動後は、すぐにチョークノブを戻してください。

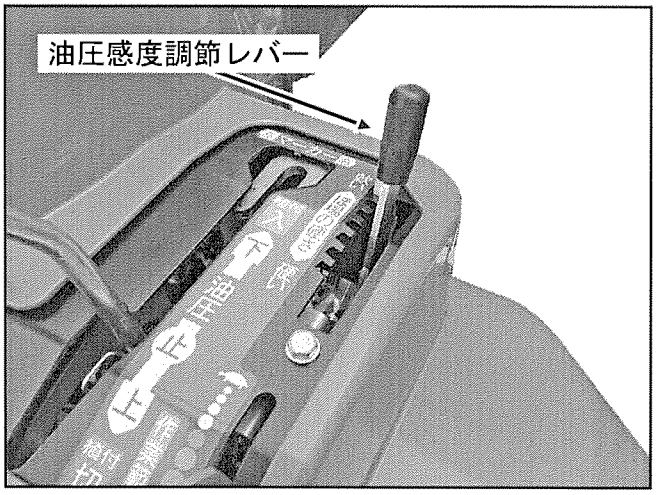
重要

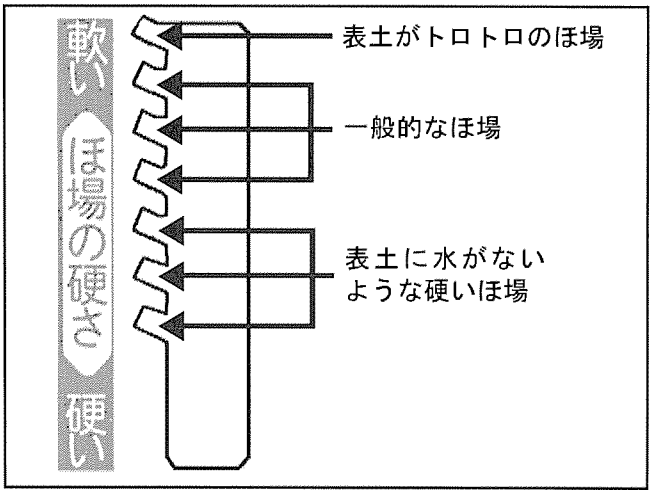
●始動時以外は使用しないでください。



■油圧感度調節レバー

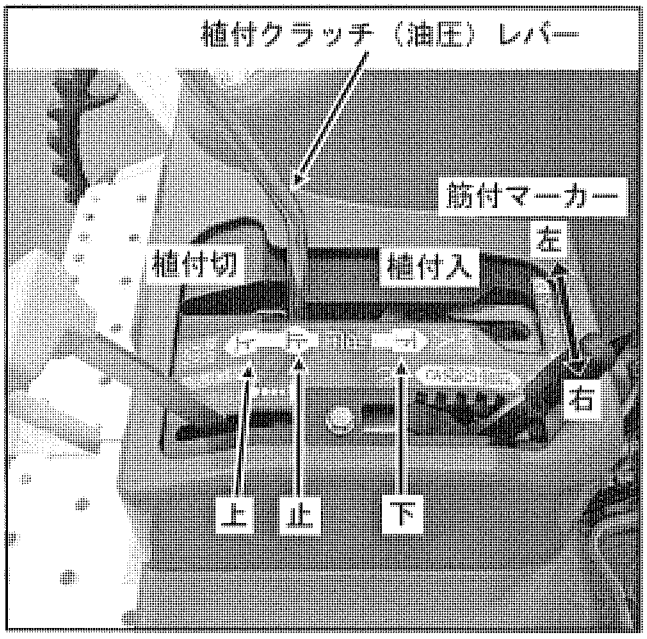
(1) フロートが泥押ししたり、浮き上がりのないように、ほ場条件に合わせて調節します。
(2) レバーを後方にするとフロートがほ場表面を強く押しつけるようになり、前方にするとフロートが浮き上がりやすくなります。





■植付クラッチ（油圧）レバー

(1) 植付部の上昇・下降と植付部への動力伝達の断続、および筋付マーカーの上げ・下げを行なうレバーです。
(2) 植付クラッチレバーを「下」にすると植付部が下降し、植付クラッチは「入」になります。
(3) 植付クラッチレバー「下」位置のとき、左右に操作すると、操作した側の筋付マーカーが下がります。
(4) 植付クラッチレバーを「上」にすると、筋付マーカーが上がり、植付部が上昇するとともに、植付クラッチは「切」になります。植付部がいっぱいまで上昇すると、植付クラッチレバーは自動的に「止」になります。
(5) 植付部が上昇中に植付クラッチレバーを「止」にすると、植付部を任意の高さで止められます。



重要

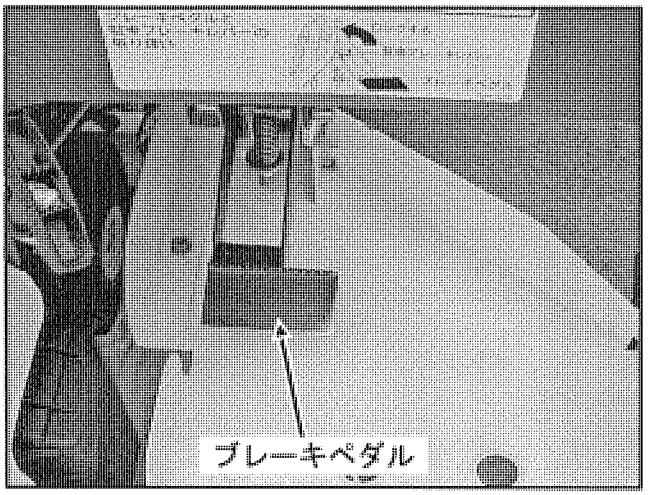
- **植付クラッチレバーを「止」にしておいても、植付部がわずかずつ下降することがありますので取扱上ご注意ください。**
- **植付クラッチレバーを「植付切」にしたら手をレバーから離してください。エンジン回転数が低い場合、エンジンが停止することがあります。**

■ブレーキペダル

(1) ブレーキと主クラッチの断続を行なうペダルです。通常の走行停止をするときは主変速レバーの操作で行ない、緊急停止時に使用します。
(2) アクセルレバーと連動しており、踏むとアクセルレバーが前方に押され、エンジン回転数が下がります。

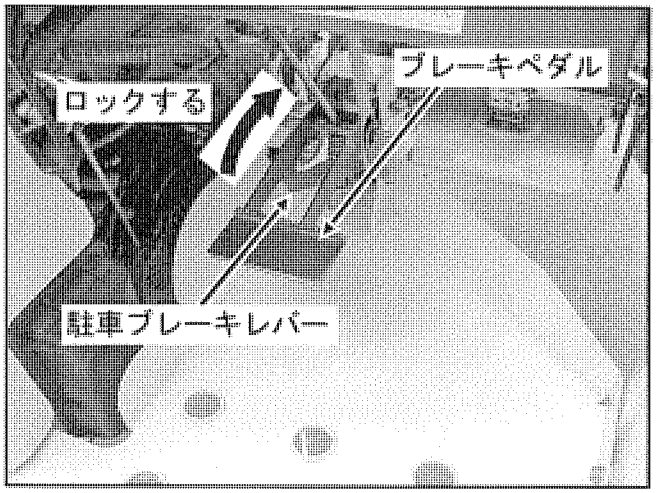
重要

- **ブレーキペダルを踏み込んだ状態ではアクセルレバーを操作できません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。**



■駐車ブレーキレバー

(1) 田植機を駐車しておくためのレバーです。
(2) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。
(3) ロック状態でブレーキペダルを踏み込むと、ロックが解除されます。



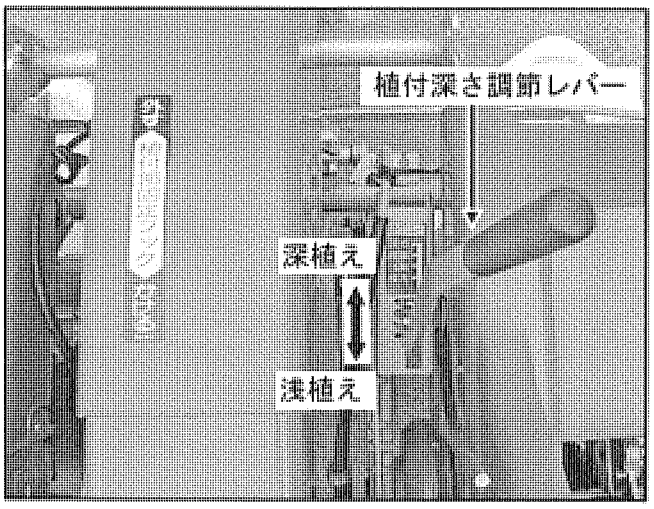
重要

●走行するときは、駐車ブレーキレバーのロックを解除してください。

> **⚠注意**
>
> 駐車時には必ず駐車ブレーキレバーをロックしてください。
> これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

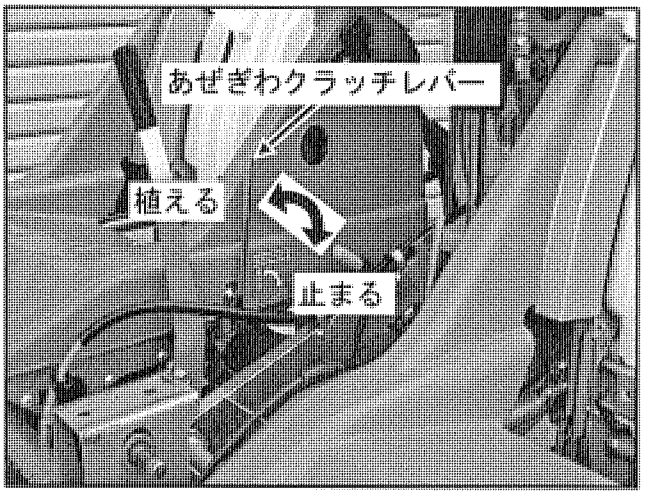
■植付深さ調節レバー

(1) 苗の植付深さを調節するレバーです。
(2) レバーを前の溝にセットすると深植え、後の溝にセットすると浅植えになります。



■あぜぎわクラッチレバー

(1) 2条ごとの植え付けを停止させるレバーです。
(2) 植え終わりとなる前工程での植付条数の調整や、変形ほ場での植え付け時に使用します。



■セットレバー

(1) このレバーを後方に倒すと、植付中の苗箱を上方向に取り出せます。
(2) また１回だけ前後に動かすと、苗箱を１列ずつ送ることができます。

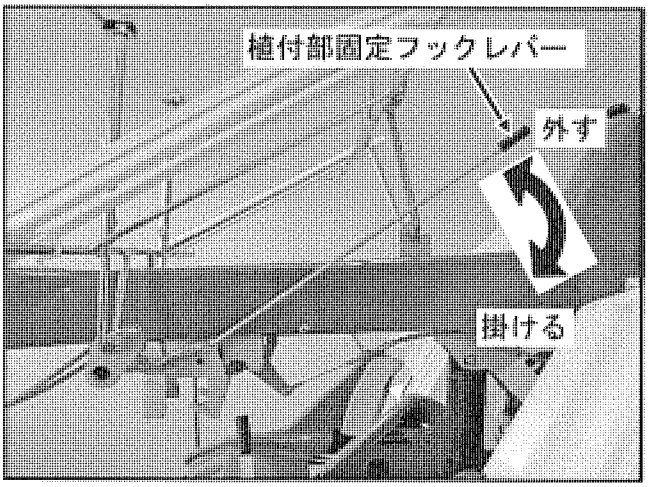
重要

●植え付けをするときは、確実にレバーを前方に戻してから行なってください。
●セットレバーの操作は押出し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。



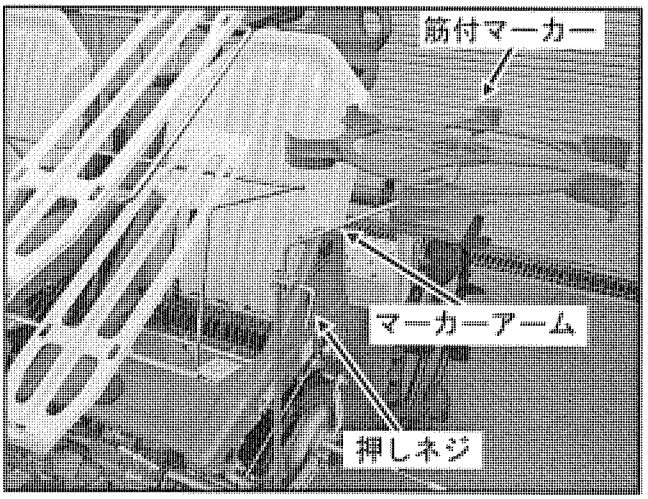
■植付部固定フックレバー

(1) 移動時・点検整備時・保管時等に植付部が下降しないようフックを掛けます。
(2) 田植作業時はレバーを外します。



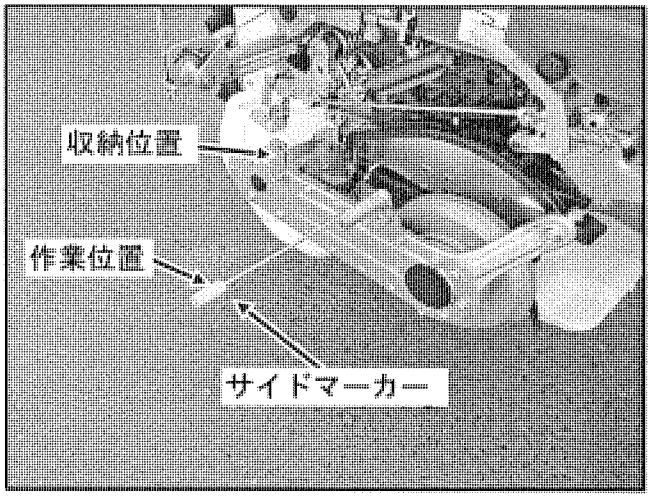
■筋付マーカー

(1) 次工程を植え付けるとき、適正な隣接条間を保つための目標となる線をほ場表面に引きます。
(2) 移動時には押しネジをゆるめて筋付マーカーを内側に、作業時には外側に向けて使用します。押しネジはマーカーアームの切りかきを確実に締め付けてください。



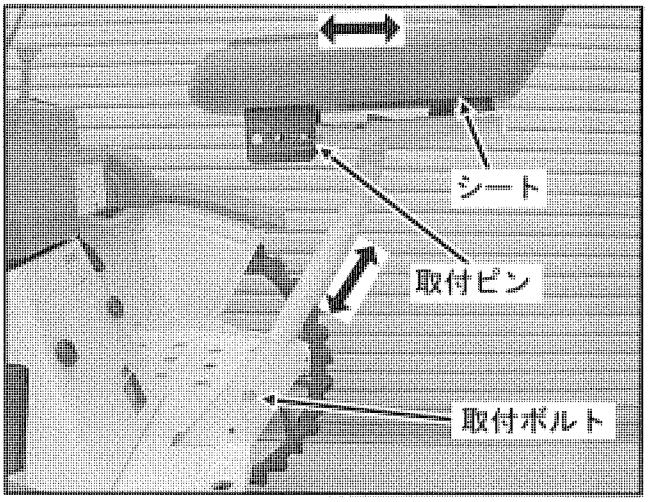
■サイドマーカー

(1) あぜや隣接条との距離を適正に保つために使用します。
(2) 移動時にはサイドマーカーを収納してください。障害物に接触して破損する恐れがあります。



■シート

(1) 作業しやすい前後位置になるように、シートの取付ピン位置を変更して調節してください。
(2) 作業しやすい高さ位置になるように、取付ボルト位置を変更して調節してください。



作業前点検

故障を未然に防ぐには、田植機の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行なってください。

警 告

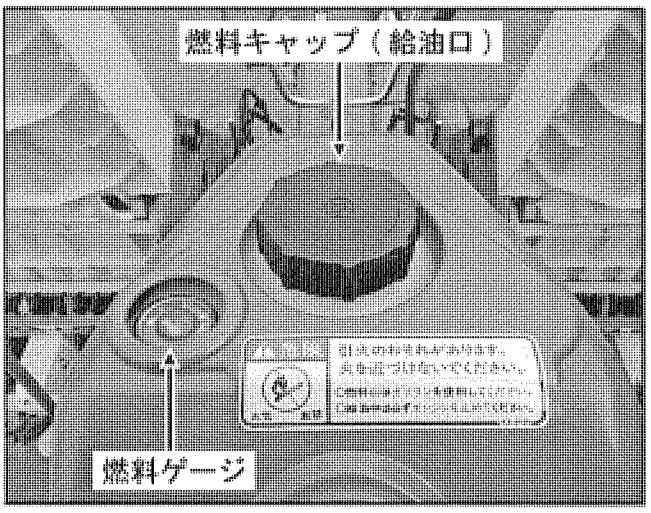
給油・注油および点検整備をするときは、次のことを守ってください。
(1) 田植機を平たんな広い場所に置いてください。
(2) エンジンを停止してください。
(3) 駐車ブレーキをかけてください。
(4) 植付部を下ろすか、植付部固定フックレバーで固定してください。
(5) エンジンなどの過熱部分を充分冷やしてください。
(6) くわえタバコなど火気厳禁で行なってください。
(7) 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
(8) ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて、安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。
(9) 取り外したカバー類は、点検後に必ず取り付けてください。

給油・注油箇所の点検と補給

■燃料（無鉛ガソリン）の給油

(1) 燃料ゲージの指針が「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。
(2) 燃料を給油するときは、平たんな場所でエンジンを止め、燃料キャップを外して、必ず燃料こしあみを通して無鉛ガソリンを給油します。

燃料の種類	燃料タンクの容量
自動車用無鉛ガソリン	約 5L



危 険

燃料給油時には引火の恐れがありますので、火気を近付けないでください。

警 告

(1) 燃料を補給するときは、エンジンを停止し、過熱部分が充分冷えてから行なってください。燃料のつぎこぼしなどにより火災の原因になり大変危険です。
(2) 燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。エンジンを作動するとき、引火し火災の原因となり大変危険です。
(3) ガソリンの保管は消防法で定められている金属製のガソリン専用容器を使用してください。

重要

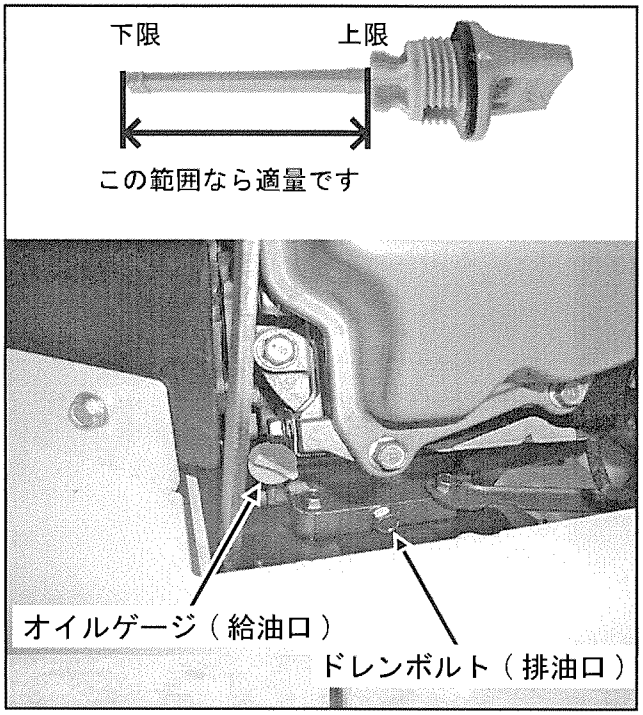
●燃料は自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。
　○燃料タンク内に１ヶ月以上放置した燃料
　○樹脂製タンクに長期間保管した燃料
　○ゴミや水など異物の混ざった燃料
　○変色のひどい燃料
　○くさった古い燃料
●１ヶ月エンジンを始動しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因になります。
●給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

■エンジンオイルの点検と補給

毎日作業前には田植機を水平な所に置き、エンジンオイル量、汚れを点検してください。

⚠注 意

エンジンオイルの点検・補給は必ずエンジンスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、充分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。



●点検と補給

(1) オイルゲージを外し、上限と下限の間に油量があることを点検します。
(2) 下限以下の場合は、補給してください。
(3) オイルは API 分類 SE 級以上の 10W-30 オイルを使用してください。

オイルの種類	オイル容量
SE 級以上　10W-30	約　0.6L

重要

●「上限」以上、オイルを補給しないでください。

●交換のしかた

(1) 給油栓を外してからドレンボルトを外し、オイルを排出してください。
(2) ドレンボルトを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを確実に締め付けてください。

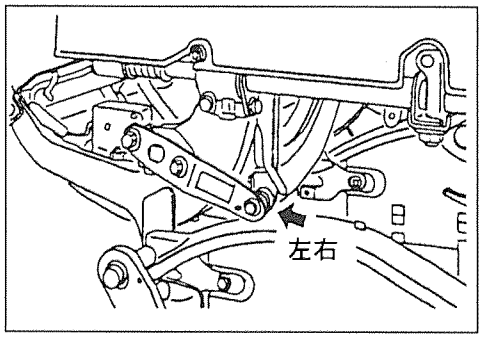
重要

●指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因になります。
●エンジンオイル補給後は、エンジンを始動させた後、いったんエンジンを停止させてオイルがオイルゲージ範囲内にあることを確認してください。

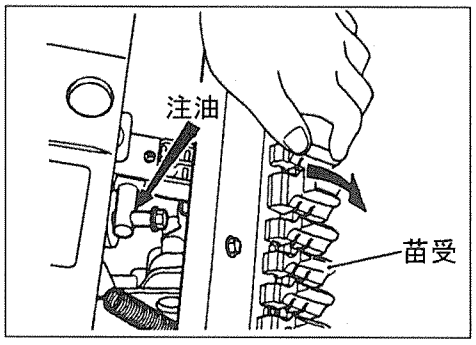
■注油箇所

(1) 次の箇所は毎日注油してください。

①縦送り爪下 (4 ヶ所)



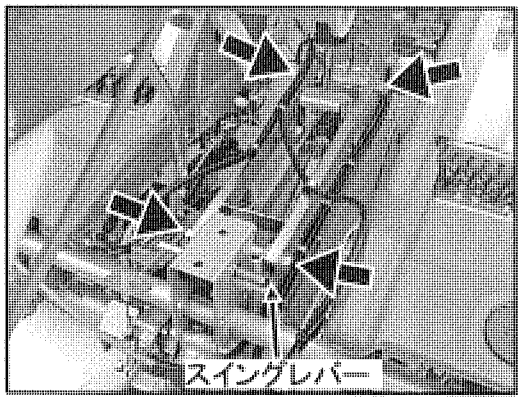
②上下送りバネ軸 (2 ヶ所)



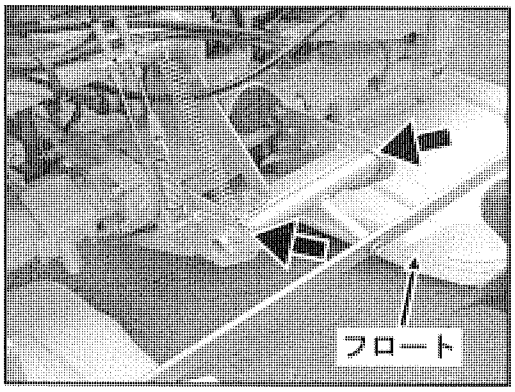
苗受を上げた状態にして、手で苗受を
下方向に押えて注油してください。

(2) 次の箇所はシーズン毎にグリス・油を注油してください。

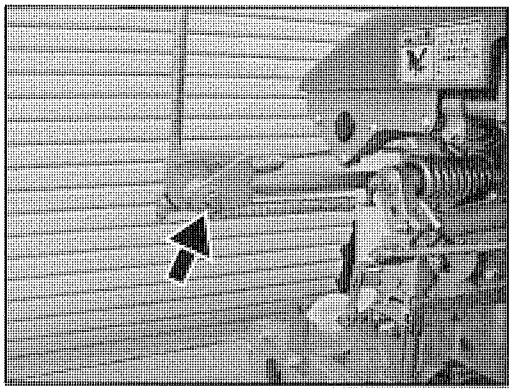
①スイングレバー支点 (8 ヶ所)



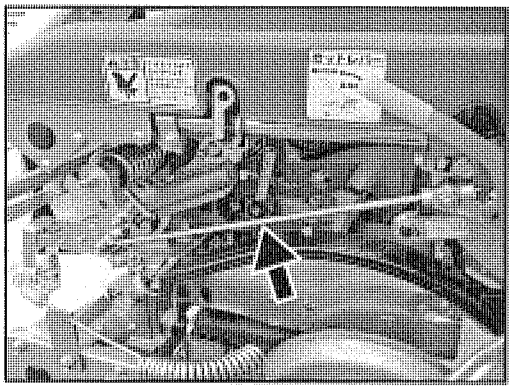
②フロート取付フレーム (2 ヶ所)



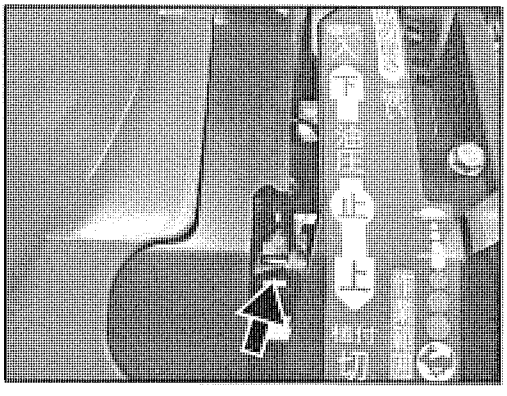
③筋付マーカー支点 (2 ヶ所)



④苗受ローラーの外周 (グリス 2 ヶ所)



⑤植付レバー座軸部 (グリス 1 ヶ所)

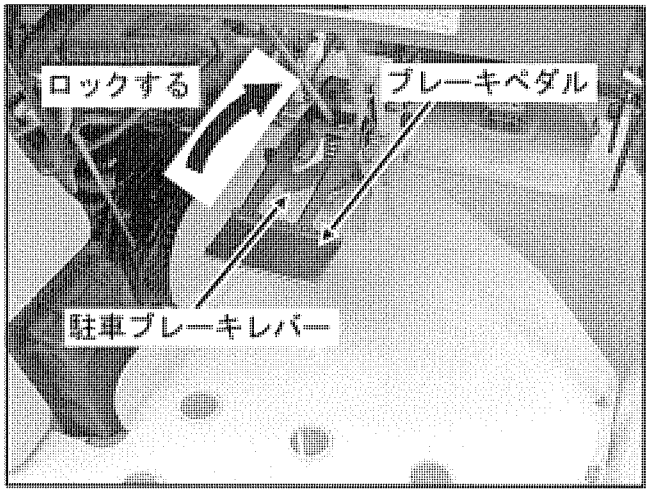


ペダル・レバーの点検

異常がある場合は、購入先に連絡してください。

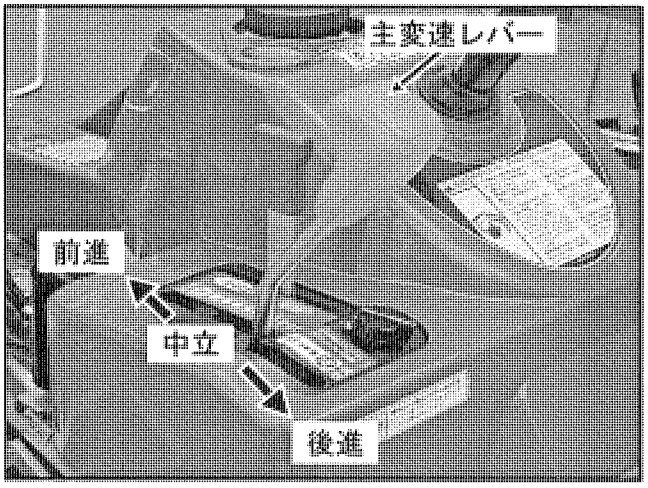
■ブレーキペダルの点検

ブレーキペダルを駐車ブレーキレバーでロックしたとき、田植機が動かないことを点検してください。



■主変速レバーの点検

(1) エンジンを始動します。
(2) 副変速レバーを「PTO」にします。
(3) 植付部をフックに吊った状態で植付クラッチレバーを「下」方向に操作して「植付入」にします。
(4) 主変速レバーを前進側に操作し、植付部が動き始めることを確認します。
(5) 主変速レバーを「中立」に戻し、植付部が停止することを確認します。



警告

ブレーキペダル・主変速レバーの点検を怠ると、田植機が停止できず思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

運転のしかた

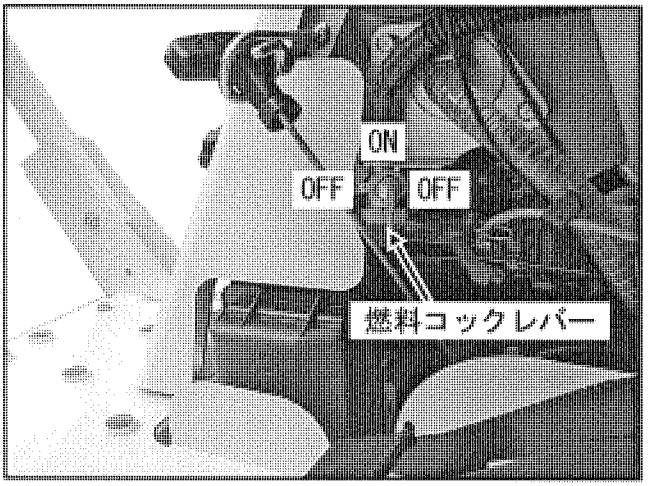
警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取り付けてあることを確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を充分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動するときは、各レバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に声をかけ、合図してください。
(5) 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
(6) ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて、安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

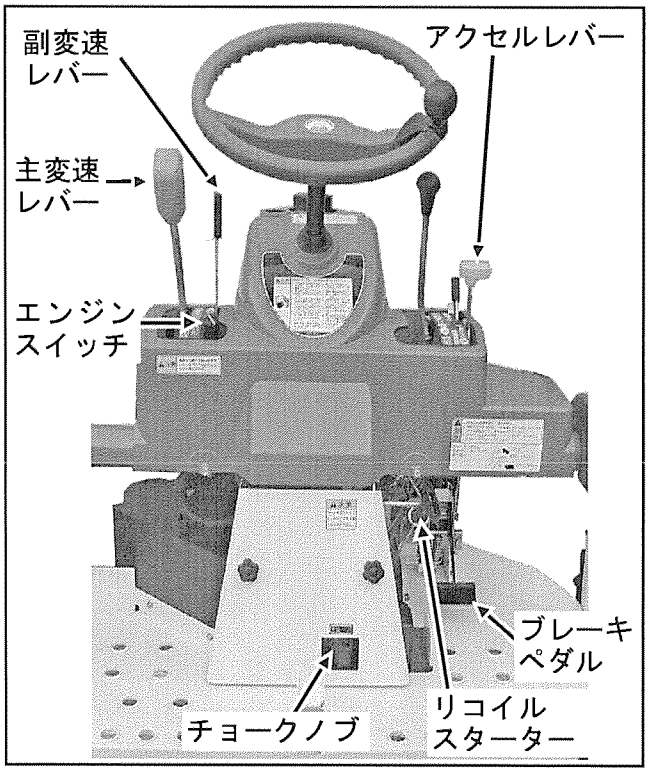
(1) 燃料コックレバーの矢印を「ON」の位置にあわせます。
(2) ブレーキペダルがロックされていることを確認します。(21 ページ参照)
(3) 主変速レバーを「中立」、副変速レバーを「PTO」にします。



重要

- ブレーキペダルをロックしないとエンジンが始動しにくい場合があります。
- 主変速レバーを「中立」にしないとエンジンは始動しません。

(4) エンジンスイッチを「ON」にします。
(5) チョークノブを引きます。
(6) リコイルスターターを勢いよく引っ張ります。
(7) エンジン始動したら、エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークノブを押し込んだ後、約５分間は負荷をかけずに暖気運転を行なってください。



重要

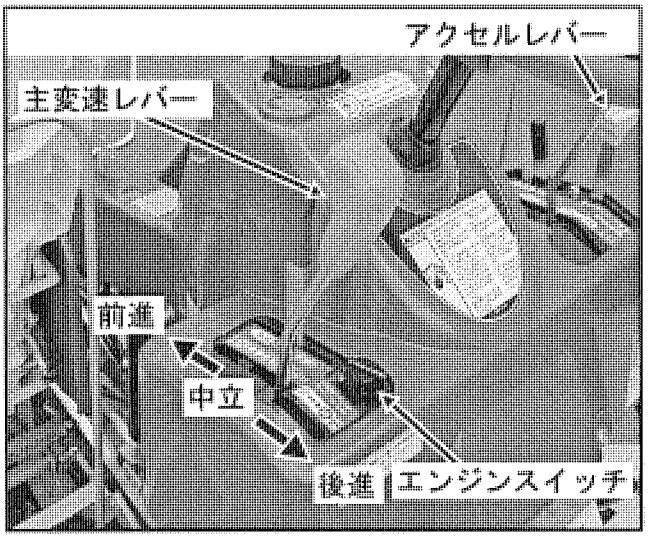
- オイルを各部に充分行き渡らせるため、必ず暖気運転は行なってください。始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。
- 燃料キャップのエアー抜きがつまっていると始動不良になりますので清掃してください。
- エンジン高温時にエンジンを始動するとパンと音が鳴ることがありますが、機械使用上問題はありません。

■ならし運転について

(1) 新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが、田植機の各部の部品はならし運転されていません。田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、田植作業は過負荷にならないよう注意し行なってください。
(2) 毎年使用前には、必ず５～10分程度エンジンを最低回転でならし運転をしてから使用してください。

■エンジンの停止

(1) 主変速レバーを「中立」にします。
(2) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転数を下げます。
(3) エンジンスイッチを「切」にしてエンジンを停止します。



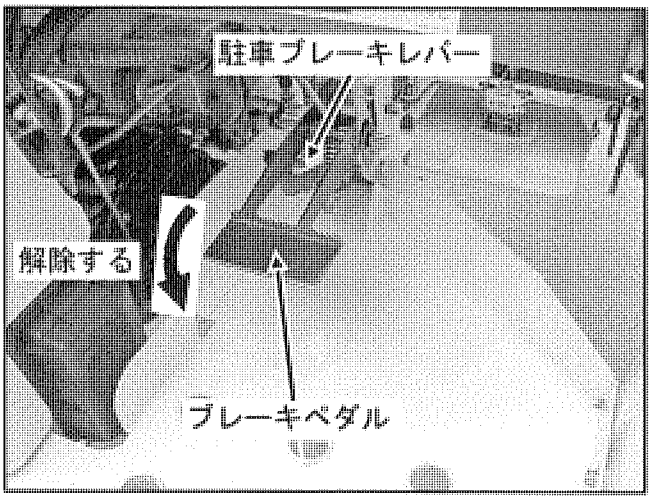
重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- エンジン高温時にエンジンを切るとアフターバーン（パンと音が鳴る）が発生することがありますが、機械使用上問題ありません。エンジンを約１分間程度最低回転で運転した後にエンジンを切ることにより、アフターバーンは発生しにくくなります。

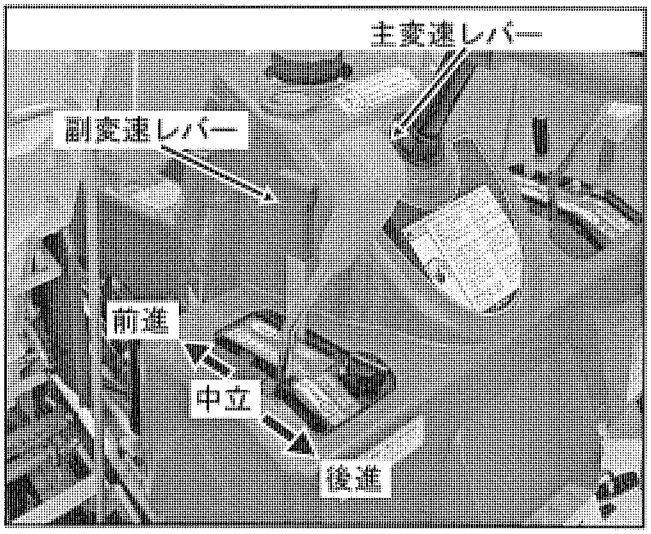
発進・停止・駐車のしかた

■発進のしかた

(1) エンジンを始動します。(28 ページ参照)
低温始動時には、充分に暖気運転を行なってください。充分でないと、発進時にエンストする場合があります。
(2) 走行場所に合わせて副変速レバーをセットします。
(3) ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。
(4) 主変速レバーを中立位置より前方に押すと前進し、後方に引くと後進します。



注意
急発進は危険ですので周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進してください。



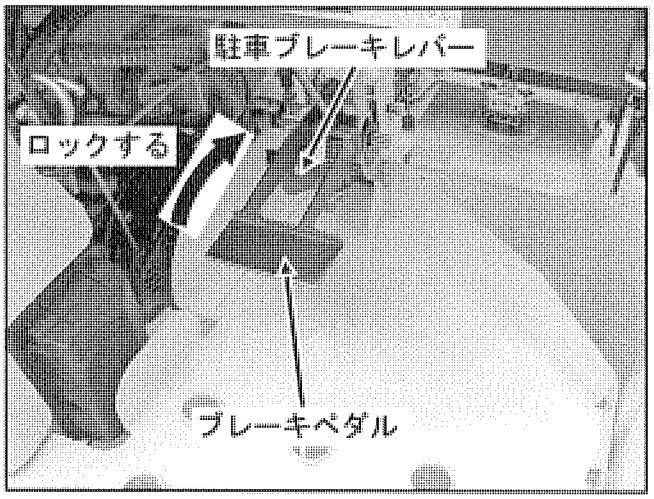
■停止のしかた

(1) 通常の停車時は主変速レバーを「中立」にします。
(2) 急停車する場合は、ブレーキペダルを踏み込んでください。

警告
急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。

■駐車のしかた

(1) 主変速レバーを「中立」にします。
(2) エンジンを停止します。
(3) 副変速レバーを「PTO」にします。
(4) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。



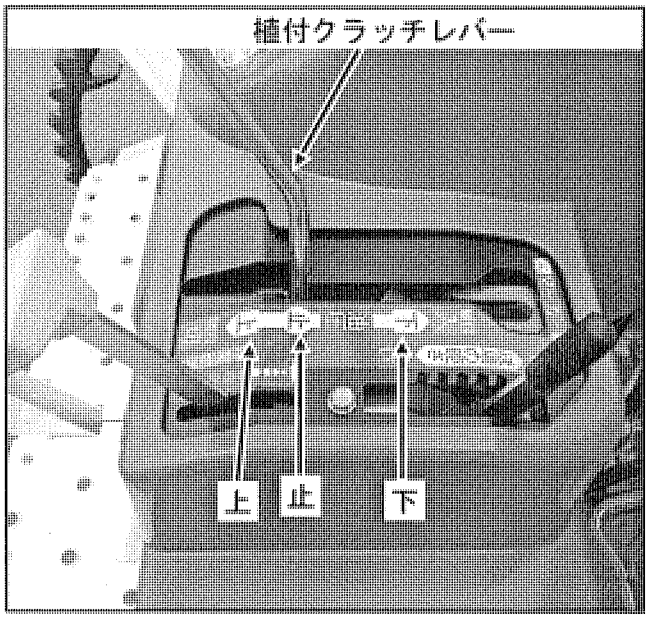
注意

(1) 田植機を離れるときは、平たんで安全な場所におき、植付部を植付部固定フックで固定し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。
(2) 坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキを掛け、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

移動・運搬のしかた

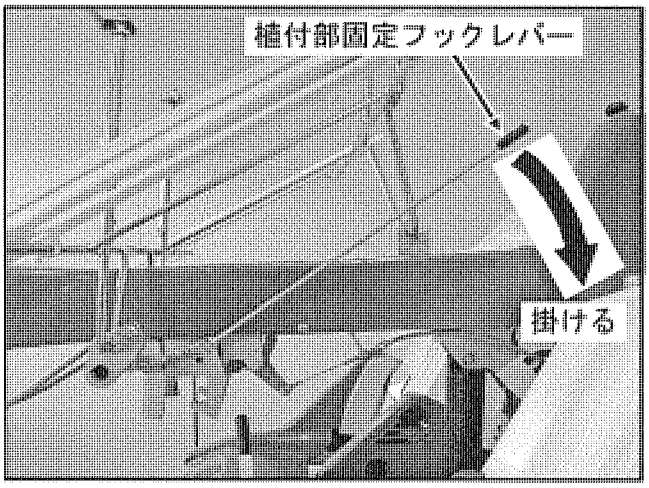
■移動のしかた

(1) 植付クラッチレバーを「上」にして植付部をいっぱい上げ、筋付マーカーも上げます。
(2) 植付部固定フックレバーを「掛ける」にします。
(3) 植付クラッチレバーを「下」にして植付部固定フックで植付部を吊り下げ、植付クラッチレバーを油圧「止」にします。
(4) サイドマーカーを収納します。
(5) 押しネジをゆるめて筋付マーカーを内側に向け、押しネジを締め付けます。
(6) 移動場所に合わせて副変速レバーで速度を選びます。
(7) 駐車ブレーキレバーのロックが外れていることを確認してから、主変速レバーをゆっくり操作して発進します。



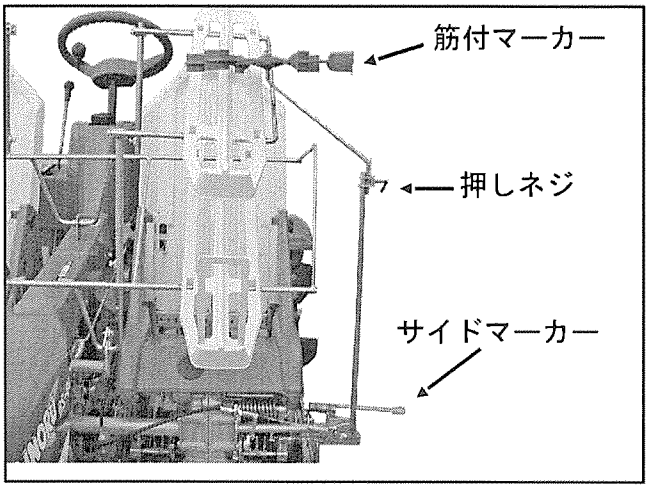
重要

- 植付部を下降した状態で走行すると、植付部やフロートが破損する恐れがあります。
- この田植機は、道路走行車両の型式認定を受けておりませんので、法令により公道は走行できません。したがって、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。



警告

(1) 移動するときは、運転者以外は絶対に人を乗せないでください。
(2) 移動するときはエンジン回転を落とし、主変速レバーもなるべく低速で行なってください。特に凹凸の激しい場所・ 地面の軟弱な場所・傾斜地等では慎重に移動してください。
これを怠ると、転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。



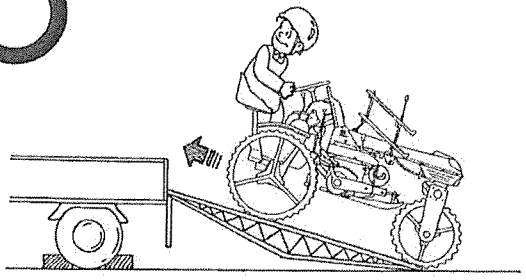
■トラックへの積み降ろし

警告

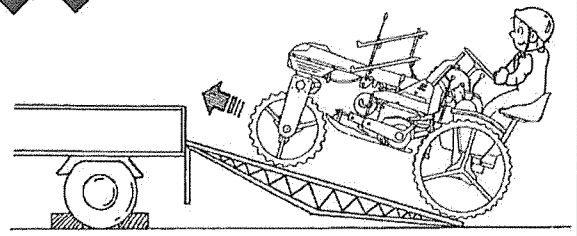
(1) 積み降ろしは平たんな場所を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けて、車輪止めをしてください。
(2) アユミ板はフックが付いているもので、充分な強度、幅、長さのある基準にあったすべり止め付きのものを使用し、田植機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
(3) アユミ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。
(4) 積み込みは後進、低速で行なってください。
(5) 共同作業者は、アユミ板を走行中の田植機から離れてください。
(6) 平たんな場所を選び、できるだけ誘導者の立会いのもとに行なってください。また、田植機の周辺に人を近付けないでください。
(7) アユミ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏み込むと機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。
(8) 荷台上では駐車ブレーキをかけ、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。

(1) 植付クラッチレバーを「上」にして植付部をいっぱい上げ、筋付マーカーも上げます。
(2) 植付部固定フックレバーを「掛ける」にします。
(3) 植付クラッチレバーを「下」にして植付部固定フックで植付部を吊り下げ、植付クラッチレバーを油圧「止」にします。
(4) サイドマーカーを収納します。
(5) 押しネジをゆるめて筋付マーカーを内側に向け、押しネジを締め付けます。
(6) 副変速レバーを「作業」にします。
(7) 主変速レバーをゆっくり操作して、積み込むときは「後進」、降ろすときは「前進」で低速走行してください。

○ 後進で積み込みします。



× 前進での積み込み禁止。

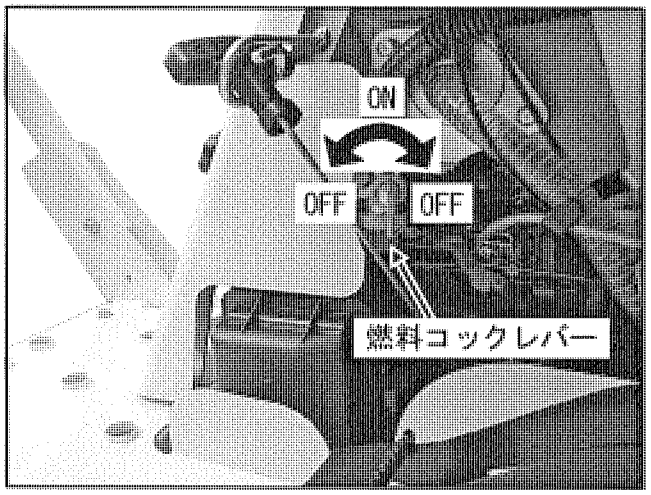


＜アユミ板の基準＞

○長さ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅　：30cm以上
○数量：3枚
○強度：1枚の強度が400kg以上の質量に耐えうるもの
○すべり止めのあるもの

■運搬中の固定のしかた

(1) 荷台に乗り終わるとエンジンを停止し、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。
(2) 副変速レバーを「作業」にします。
(3) 燃料コックレバーの矢印を「OFF」にします。
(4) 前輪を荷台の後部に引きつけてロープで固定します。
(5) 後輪をロープでたすき掛けして固定します。
(6) 植付部が跳ね上がらないように軽くロープ掛けします。
(7) 筋付マーカーをヒモ等で固定します。

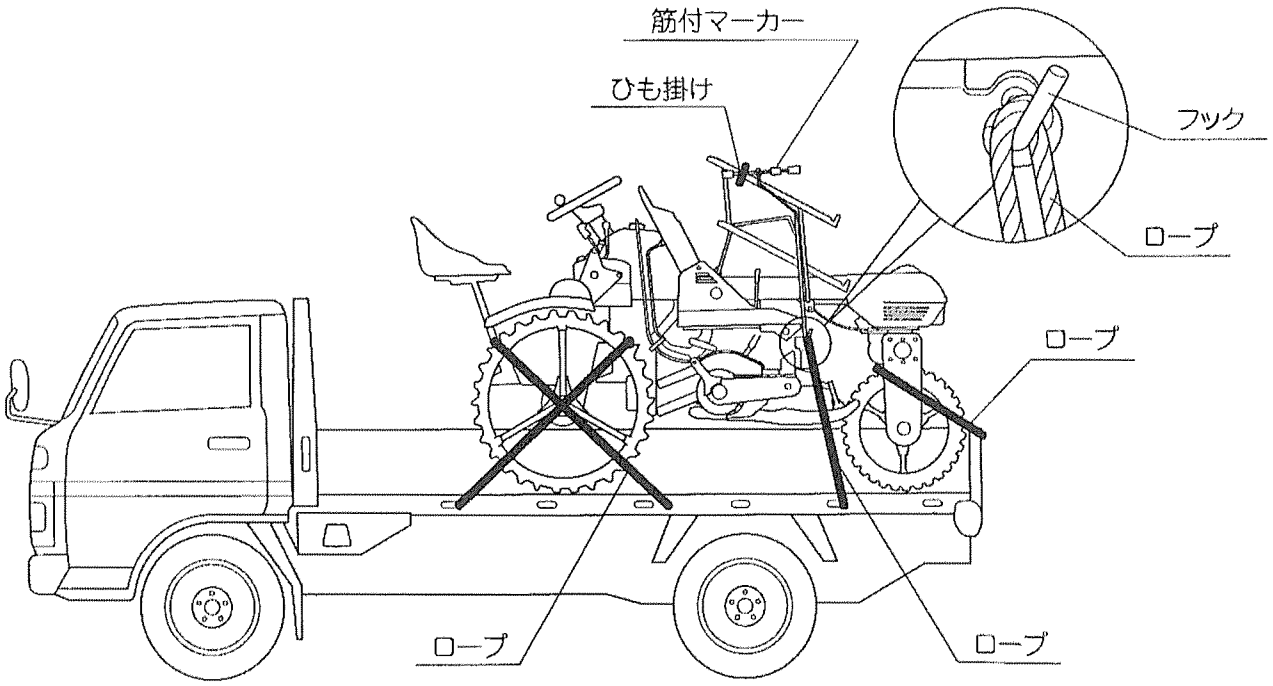


重要

- 悪路はゆっくりと運搬してください。
- 植付部は強い力でロープ掛けしないでください。

⚠注意

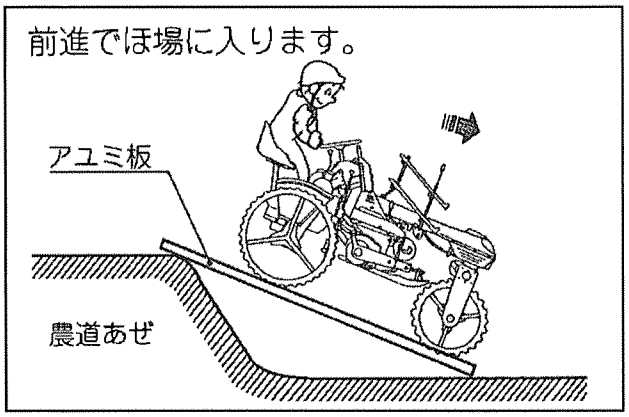
燃料コックレバーを「OFF」にしないと、トラック輸送時に燃料もれの原因になり危険です。必ず「OFF」にしてください。



ほ場への出入りのしかた

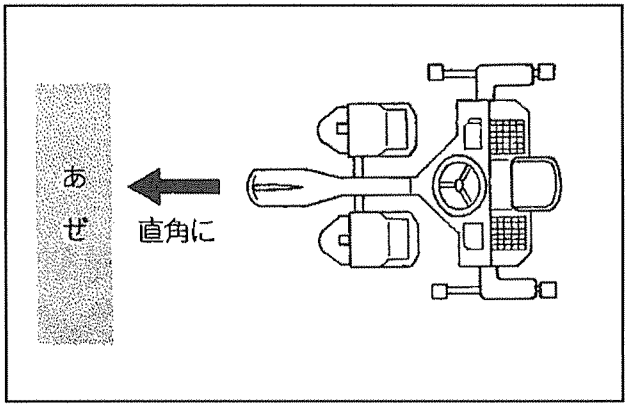
警告

(1) ほ場との高低差が大きい場合は、アユミ板を使用してください。
(2) ほ場への出入りの際には、予備苗台および苗のせ台には苗をのせないでください。また田植機に荷物を積まないでください。



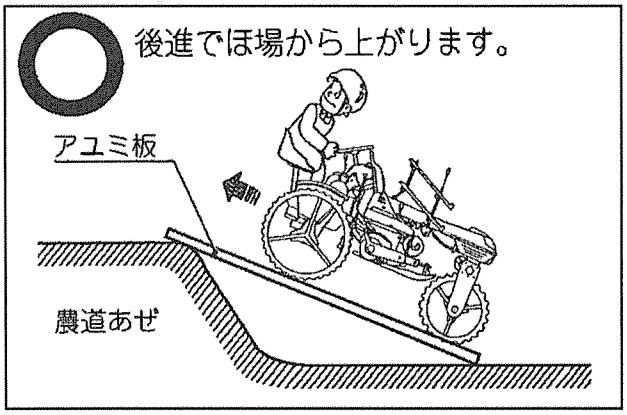
■ほ場への入りかた

(1) 植付部を植付部固定フックに掛けて行ないます。(22 ページ参照)
(2) 副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーをゆっくり操作して、前進でゆっくりとほ場に入ってください。



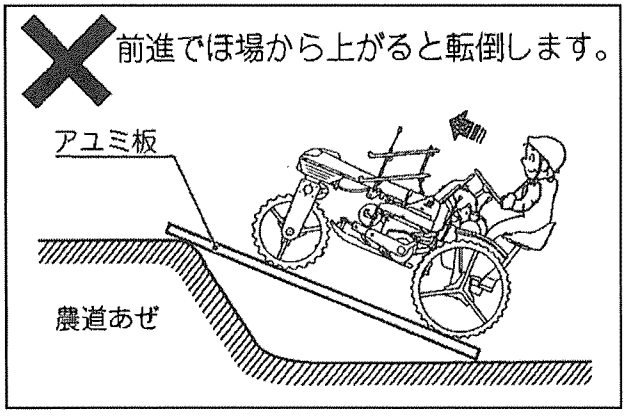
警告

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、アクセルレバー・主変速レバーを低速にして、必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。
斜めになるとスリップや横転の原因となり大変危険です。



■ほ場からの出かた

(1) 植付部を植付部固定フックに掛けて行ないます。(22 ページ参照)
(2) 副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーをゆっくり操作して、後進でゆっくりとほ場から出てください。



作業のしかた

本田植機が使用できる耕盤の深さは 25cm までです。

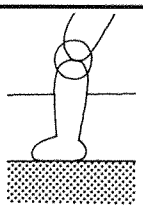
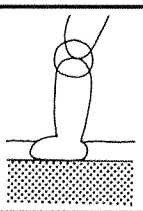
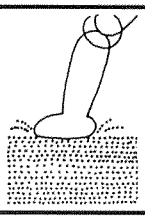
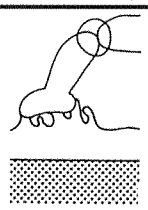
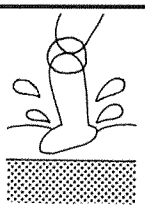
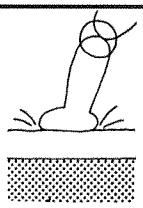
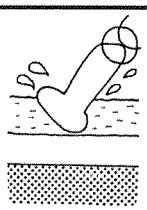
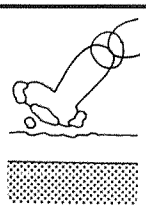
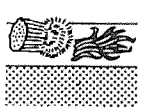
泥炭地、基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかったり、田植機の早期破損の原因となります。また、本田植機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗・ほ場・田植機の準備をしていただくことが大切です。

ほ場と苗の準備

本田植機が使用できる耕盤の深さは 25 cmまでですが、苗やほ場の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

■ほ場の準備

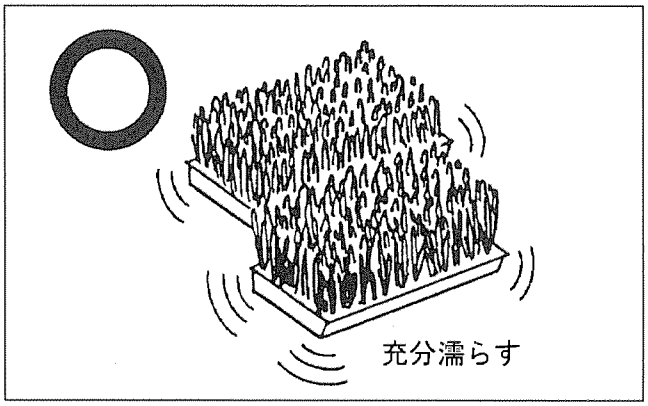
ほ場づくりは、作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄の指導機関（JA「農協」や普及センターなど）や経験者に相談して、作物に適したほ場づくりをしてください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）			
深さ		①耕盤までの深さが 30 cm以上ある深いほ場。		②耕盤までの深さが 10 cm以下の浅いほ場。
土質		①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほど硬いほ場）。		②強粘土質のほ場。 （歩くのが困難な粘いほ場）
硬さ		①代かき直後のほ場、又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。		②代かき後、日数がたって硬くなったほ場、又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水深		①水深の平均が 3 cmを越える水の多いほ場。		②水気がなく、車輪に泥がまとわりつくようなほ場。
夾雑物		①裏作跡などで、刈り株・排わら又は雑草が充分腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場。		

■苗の準備

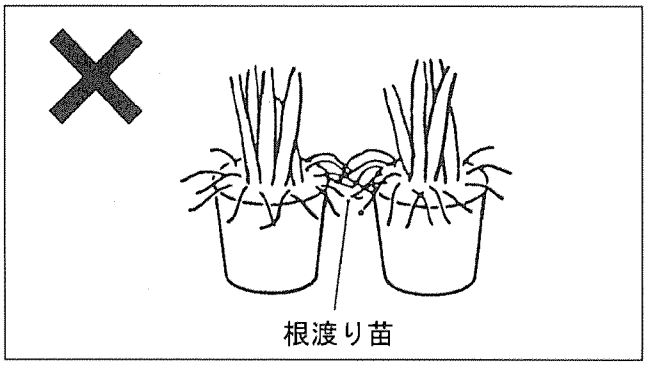
重要

●苗は使用する前に必ず、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けをします。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。濡らしかたが不足すると、苗の押出し不良・ロック板の作動不良・縦送り・横送り不良となります。
濡らして使用する場合が絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれ易い土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。

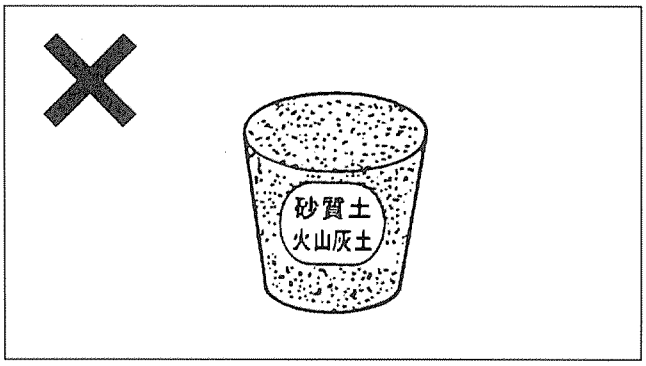


●特に次のような苗では、田植機による植え付けができない場合があります。

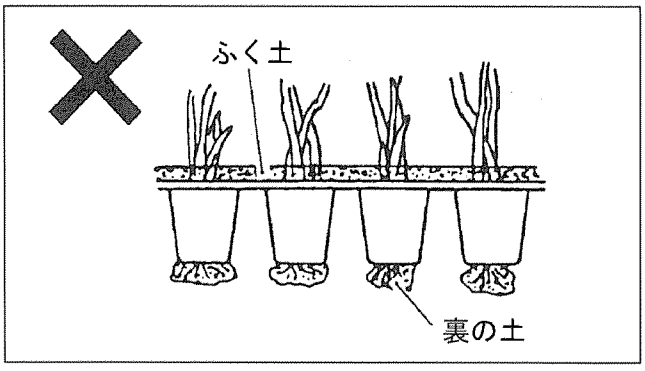
①根渡り苗は植え付けできないことがあります。



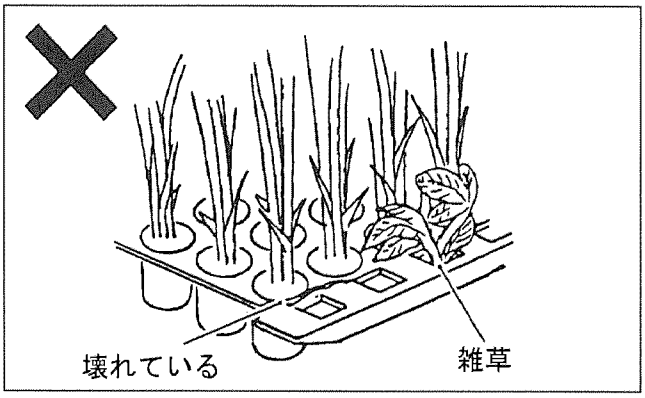
②土は適度な弾力とねばりのある培土を使用して下さい。砂質土・火山灰土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。培土に関しては、購入先にご相談ください。



③苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。

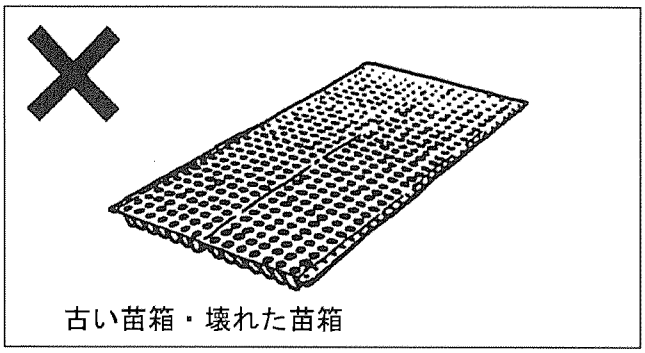


④箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



⑤苗取り・運搬・苗の補給時などには特に苗箱の角や耳部を破損させないよう、取り扱いには充分注意して行なってください。

⑥10年以上経過した古い苗箱や、新しくても保管状態の良くない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時・苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。古い苗箱は、計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



⑦育苗のとき、苗箱のふちを変形させないよう注意してください。ふちが変形してしまった苗箱は破損していなくても、使わないでください。苗箱送りが確実に行えず、 連続欠株の原因になります。



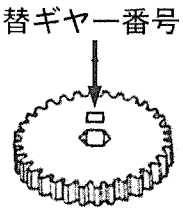
植付作業前の準備

■植付株間の決めかた

替ギヤーの交換により植付株間が変更できます。▭印が標準装備の株間です。その他の株間は注文部品（67 ページ参照）が必要となります。

標準装備の株間

株間（cm）		16	18	20	22	24	26	30
植付株数（株/3.3 ㎡）		63	56	50	45	41	38	33
苗箱数（10a 当たり）		42	38	34	31	28	26	23
替ギヤー番号	上	16	10	5	19	4	27	13
	下	17	3	6	7	7	28	14

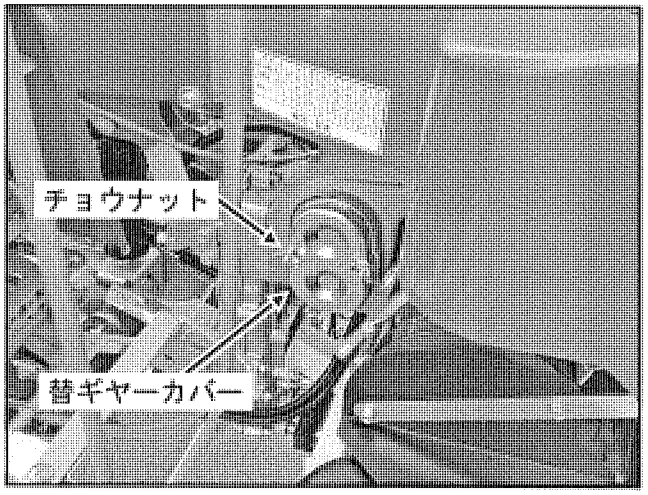


重要

- 表中の株間は、標準車輪での一般的なスリップを想定して算出しています。
  ほ場条件（土質・深さ・水の有無）および植付速度によりスリップ率は変化しますので、植付作業を開始して希望の株間になっていることを確認してから連続作業をしてください。
- 表中の苗箱数は、ほ場の条件によっていくぶん異なりますので、10a 当り 2 ～ 3 枚程度の予備苗を準備することをおすすめします。

■替ギヤーの交換のしかた

(1) 副変速レバーを「PTO」にします。
(2) エンジンを停止します。
(3) チョウナットを外して替ギヤーカバーを外し、希望の植付株間のギヤーと交換します。
(4) 替ギヤーにグリスを塗り、替ギヤーカバーをしっかりと取り付けます。



警告

替ギヤーの交換をするときはエンジンを止め、冷機状態で行なってください。
これを怠ると傷害事故の原因となります。

■植付深さの調節のしかた

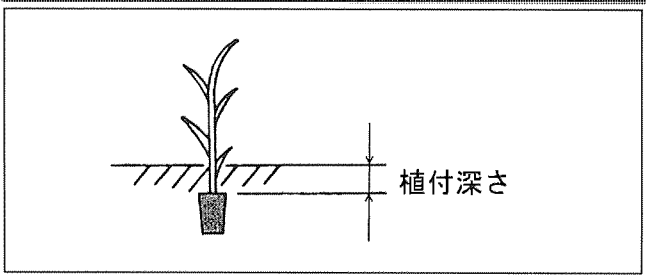
植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは４段階に選べます。

> **⚠注 意**
>
> 植付深さの調節はエンジンを停止して行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

重要

- ●調節するときは、植付部を表土から浮かして行なってください。
- ●植付深さは必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- ●浅植えになるほど、良いほ場条件が必要です。特に「極浅」は表土がトロトロの所や水深 3cm 以上の所では、浮き苗・ころび苗になり使用できません。





■苗支持板の調節のしかた

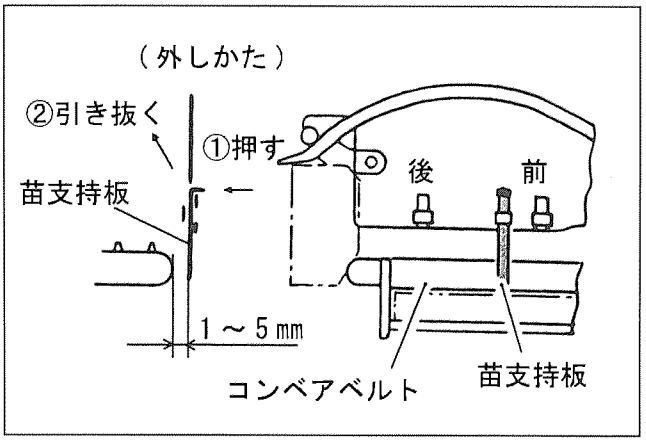
苗支持板は植付爪で苗を取るわずかの間、苗を支持する役目をしています。

(1) 苗丈が８cm以下の場合は前の位置にします。
(2) 苗丈が 25 cm以上の場合は後の位置にします。

> **⚠注 意**
>
> 苗支持板の調節はエンジンを停止し、手袋をして行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

重要

- ●苗支持板を何かに引掛けたりして大きく変形させた場合は、外して直してください。変形していると植付姿勢が悪くなります。

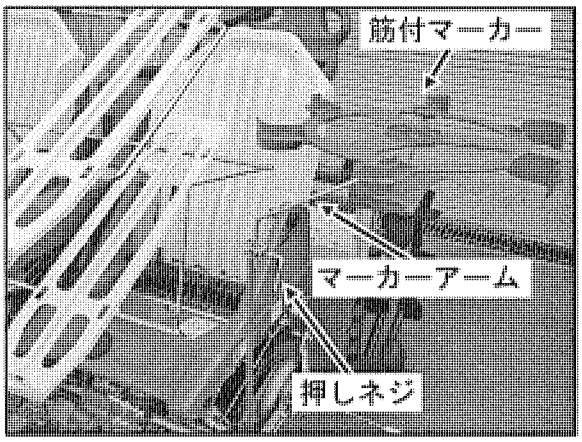


植付作業の手順

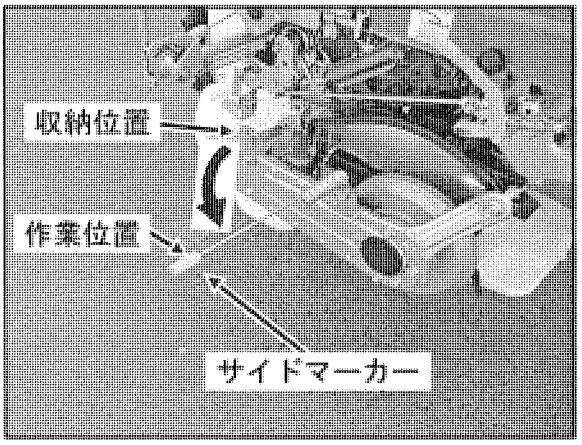
警告

(1) 補助者と共同作業を行なうときは、お互いに充分注意・合図をし合って安全に作業を行なうようにしてください。
(2) 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。
(3) 後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないように充分注意してください。
(4) 機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗の補給時など）、主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進する恐れがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。
(5) 異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
(6) 小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
(7) 運転席を離れるとき、運転操作をしないときは主変速レバーを「中立」、副変速レバーを「PTO」にしてエンジンを停止してください。

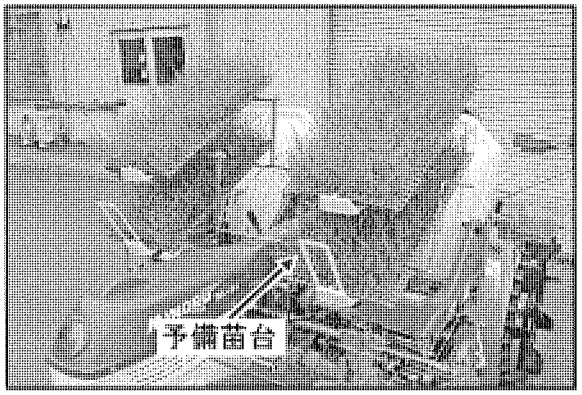
(1) ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。
(2) 筋付マーカーの押しネジをゆるめ、筋付マーカーを外側に向けてマーカーアームの切りかきを押しネジで確実に締め付けます。



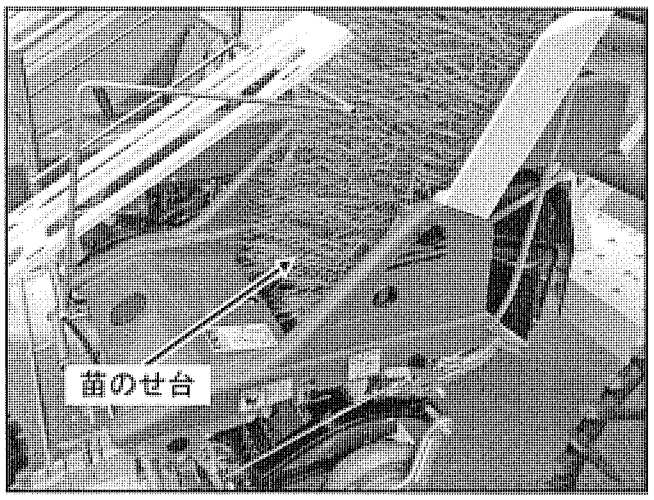
(3) サイドマーカーを左右とも作業位置にします。



(4) あぜぎわで予備苗台に苗をのせます。
苗は上の段からのせ、下の段から使ってください。これを怠ると苗の葉先が傷んだり、ポットから苗が抜け落ちることがあります。



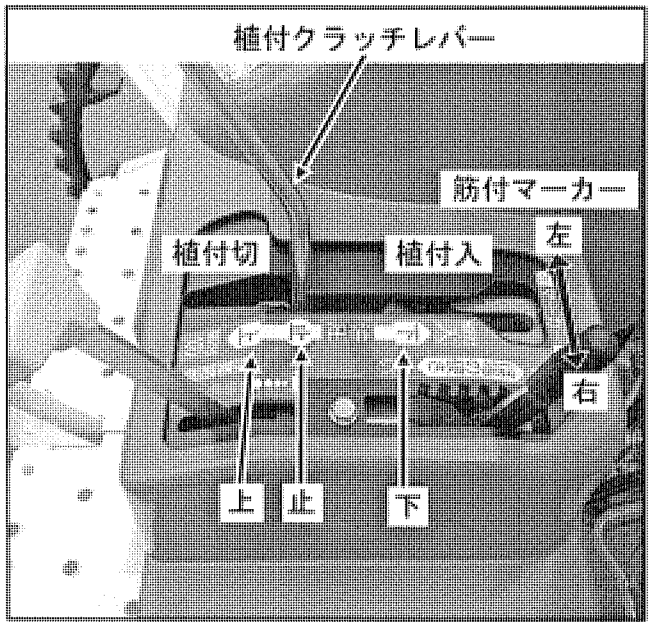
(5) 植付部の苗のせ台に苗箱をのせます。



重要

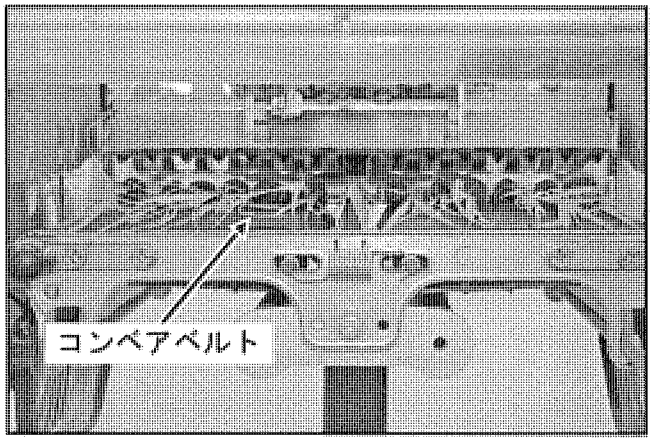
- **植付部の状態によって苗箱が苗のせ台の上方で止まったり奥まで入ったりしますが、上方で止まったときに無理に押し込まないでください。植え付け不調の原因になります。**

(6) 副変速レバーを「作業」、主変速レバーを操作して植え付けを始める所へ移動してください。
(7) 副変速レバーを「PTO」にします。
(8) 植付部固定フックを外し、植付クラッチレバーを「下」にするとフロートが接地して植付クラッチが入ります。
(9) 植付クラッチレバーを「左」または「右」に操作して植え進む側の筋付マーカーを下げます。
(10) 主変速レバーを「前進」側にすると植付部が回って苗箱が自動的に送り込まれます。コンベアベルトの上に苗がのった時に、主変速レバーを「中立」にして副変速レバーを「作業」にします。
(11) 主変速レバーを「前進」側へ操作して試し植えを行ないます。
(12) 植え付け状態を確認して「油圧感度調節レバー」と「植付深さ」を適正位置にします。



重要

- **植付作業を開始して、各調節が希望する値になっていることを確認してから連続作業を行なってください。**
- **ほ場の状態・苗の条件によって植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最もよい速度を選んでください。**
- **次のような条件のとき、植え傷み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業してください。**
  ①貧弱な苗
  ②根張りが悪い苗
  ③ガイド板が変形している（広くなったとき）
  ④苗支持板が変形・欠落している。
- **ほ場の出入り口等、不整地では絶対に植付部を下げないでください。また、ほ場内でエンジンを停止するときは必ず植付部を上昇させ植付部固定フックをかけておいてください。機体が前後に傾いたり、エンジンが停止した状態で植付部を下げると、フロート支持部が破損する恐れがあります。**



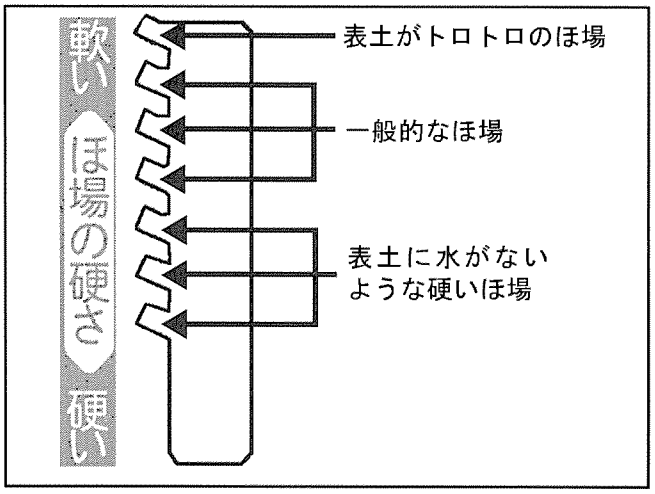
■油圧感度調節のしかた

(1) 感度は油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより７段階に選べます。
(2) フロートが泥を押す場合はレバーを前方に移動させます。
(3) フロートでほ場の凹凸をならし切れなかったり、フロートが浮く場合はレバーを後方に移動させます。



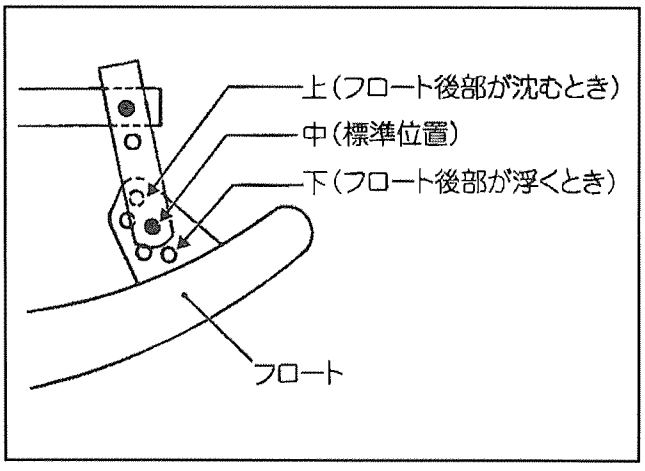
重要

●フロートの泥押しをさけるため油圧感度調節レバーをいちばん「軟い」にすると、ころび苗が出る場合があります。この場合は植付深さ調節レバー（40 ページ参照）を１段「深植え」側に動かしてください。



■フロート姿勢の調節

(1) ほ場条件によりフロート前部で泥を押したり、フロート後部が浮いて浅植え、ころび苗になる場合、フロート取付ピンを下の穴に取り付けてフロート姿勢を前上がりにします。
(2) ほ場条件により機体が後ろ下がりになりフロートが前上がりになると、フロートの感度が鈍くなったり、フロート後部が沈むようになるので、上の穴に取り付けてフロート姿勢を前下がりにします。

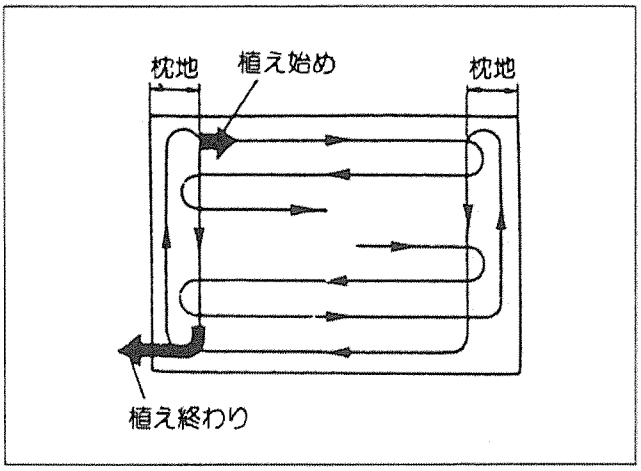


重要

●フロート取付ピンは、必ず左右同じ穴位置に取り付けてください。

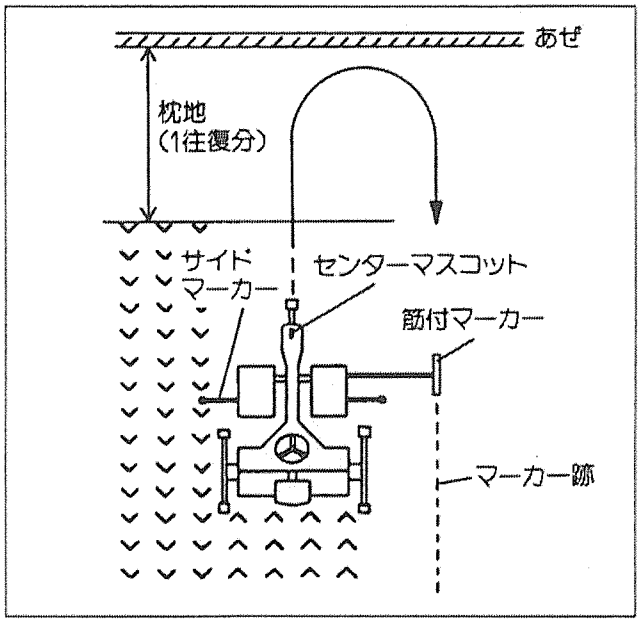
■ほ場での植えかた

枕地は、あらかじめ１往復（8 条）分を残して植え付けると能率的です。



■旋回のしかた

(1) あぜに近付いたらスピードを下げ、植付クラッチレバーを「上」にし、ハンドルを操作して旋回します。
(2) 旋回後、サイドマーカーとセンターマスコットで条間を合わせて、植付クラッチレバーを「下」にします。
(3) 植付クラッチレバーを左右に操作して、次に植える側の筋付マーカーを下げます。
(4) センターマスコットと１工程前に筋付マーカーでつけたマーカー跡を合わせて植え進みます。



重要

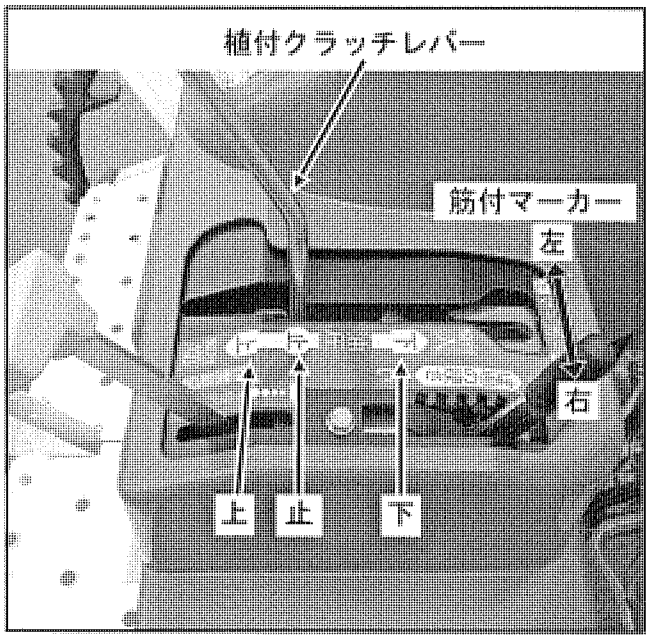
●耕盤の不安定なほ場での後進はできるだけさけ、やむなく行なう場合は主変速レバーを「低速」にし、ゆっくり後進すると前輪の沈み込みが少なくなります。

■筋付マーカーの使いかた

(1) 植付クラッチレバーを「下」にした後、左右に操作すると操作した側の筋付マーカーが下がります。
(2) 植付クラッチレバーを「上」にすると上がり、あぜぎわや枕地で筋付マーカーを使用しない場合に上がった状態で保持されます。

重要

- 水が多くて筋がつかない場合は、植えた側へ下ろすとサイドマーカーとしても使用できます。

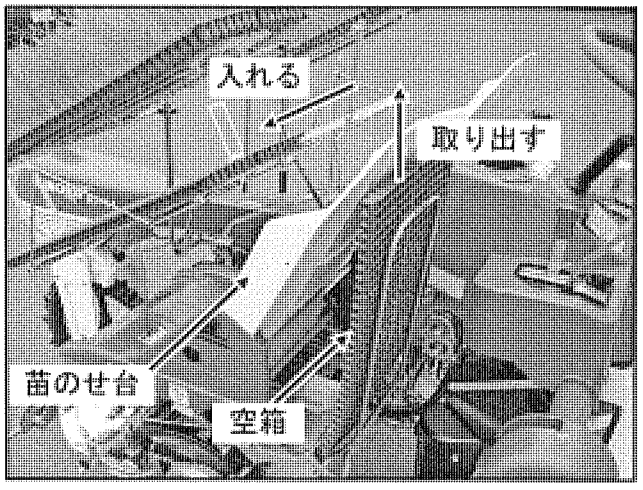


■苗の補給・空箱収納のしかた

植え付けの途中でベルが鳴ったら主変速レバーを「中立」にし、苗のせ台に苗を補給します。その後、空箱を取り出して、予備苗台の下の段に入れます。

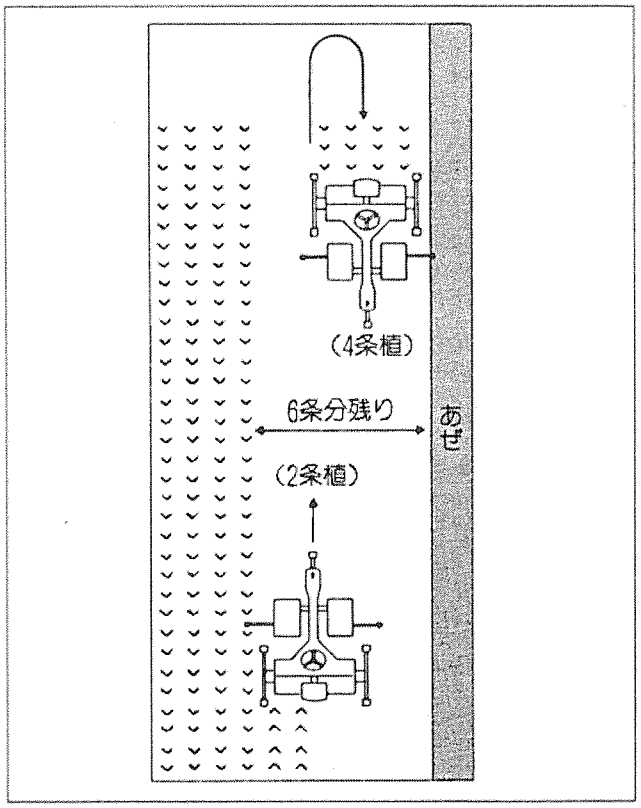
重要

- 苗の補給はベルが鳴ってから行ないます。（ベルは残り苗７列と４列のときに２回鳴ります。）
- ベルが鳴る前に苗の補給を行なうと、植付不調・苗箱の破損の原因となります。
- 苗箱を確実に苗のせ台にセットしてください。



■植えじまいのしかた

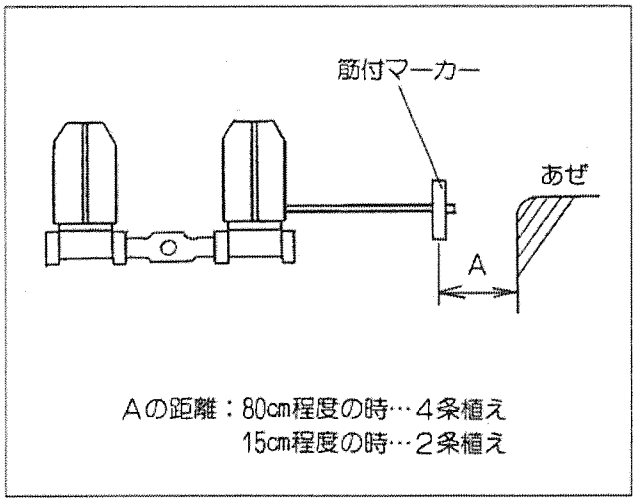
(1) 植え付けの最終工程（あぜぎわでの植え付け）を田植機の条数に合わせるためには、前工程で植付条数の調整をする必要があります。



(2) 最終工程での植え付け条数の決めかた

①旋回後、サイドマーカーで条合わせした後、筋付マーカーを出して植付条数を決めます。

②あぜぎわクラッチレバーを「止まる」にすると２条ごとの植え付けを停止することができます。

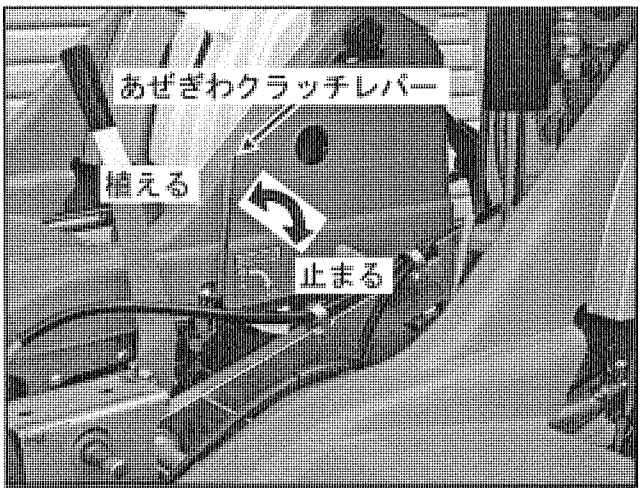


⚠注意

あぜぎわクラッチレバーの操作を行なうときは必ずエンジンを停止してください。

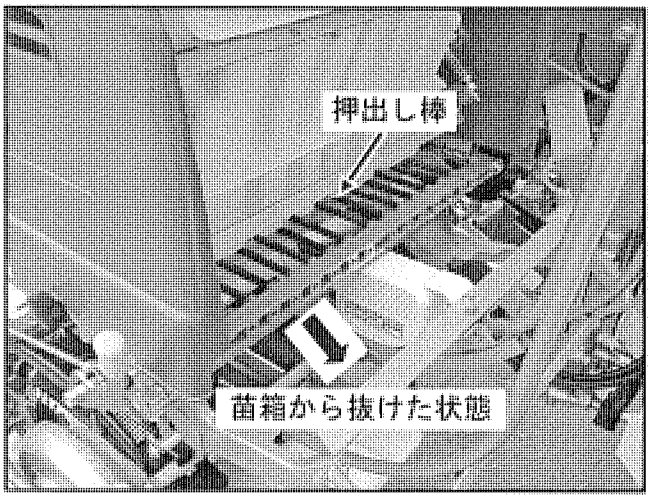
重要

●あぜぎわクラッチを「止まる」の操作後、送り途中の苗を14株程度植え付ける場合があります。また「植える」の操作後、植付爪に苗が出てくるまで待ってから植え付けを行なってください。

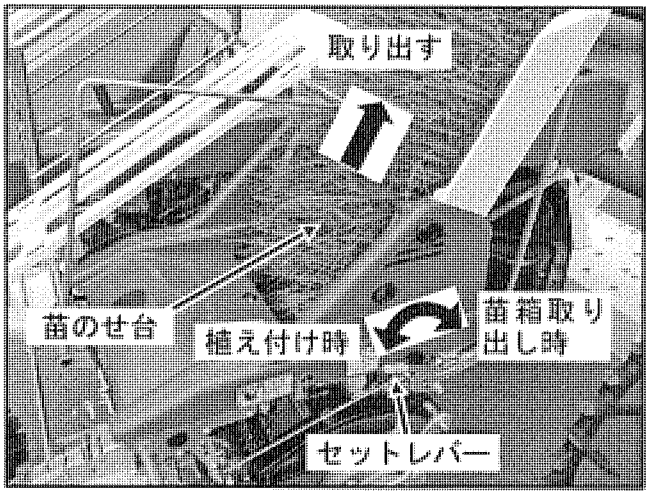


■残り苗の取り出しかた

(1) 植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合は、押出し棒が苗箱から抜けた状態にして必ずエンジンを停止してください。



(2) セットレバーを後方に倒し、苗箱を苗のせ台にそわせて引っ張り上げます。



(3) 残り苗が少なく上に引っ張れない場合は、セットレバーを前後に動かして苗箱を送り、空箱ガイドから取り出します。



重要

- **セットレバーの操作は、押出し棒が苗箱から抜けている状態で行なってください。苗箱が破損する恐れがあります。**
- **残り苗の取り出しが終わったら、セットレバーは必ず植え付け時の位置に戻してください。**

■植付部の水洗いのしかた

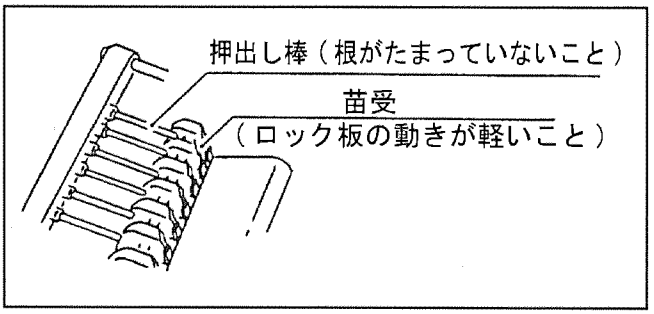
苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。

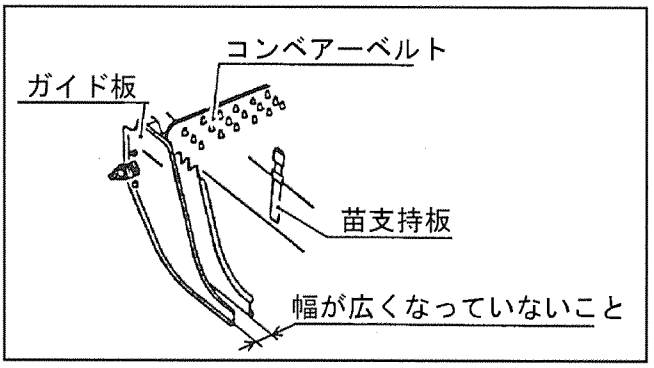
⚠警 告

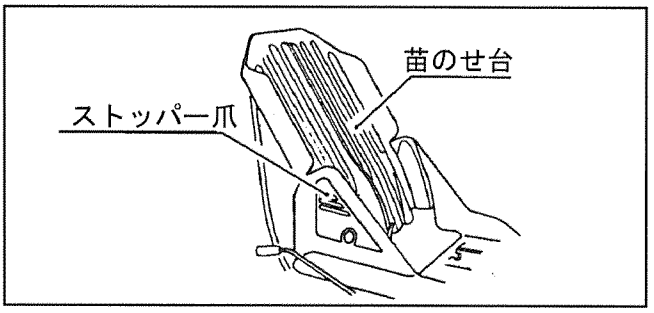
植付部の回転部・作動部に手を入れる場合は、必ずエンジンを停止してください。
これを怠ると大変危険です。

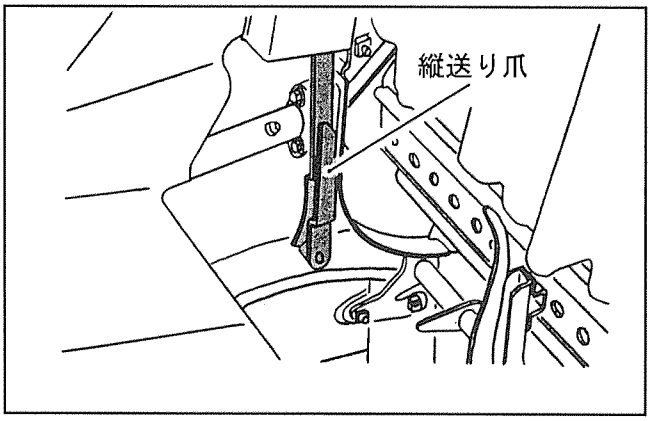
重要

- ●苗支持板を変形させないように注意してください。植付不調の原因となります。
- ●ほ場を変えるとき・休憩時・食事のときなどの前には必ず水洗いしてください。
- ●ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。
  （変形している場合は修正または交換してください）





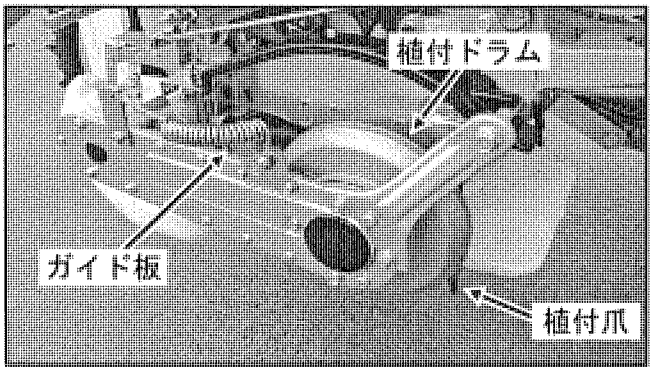




■安全クラッチが作動したとき

植付作業中、植付部が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチがはたらいていますので次の処置をしてください。

(1) ただちに主変速レバーを「中立」にして機械を停止します。
(2) 副変速レバーを「PTO」にし、植付部を上昇させ植付部固定フックを掛けて、エンジンを停止します。
(3) 植付クラッチレバーを「下」にし、「植付入」にします。
(4) 副変速レバーを「移動」にします。
(5) 植付爪・ガイド板等に石などがかんでいないか確認します。
(6) 植付ドラムを逆転方向に回して石などを取り除きます。
(7) その後、植付爪・ガイド板が変形していないか確認してから、エンジンを始動し主変速レバーをゆっくり前進方向に操作して、植付部が正常に作動することを確認して、植え付けを再開します。



警告

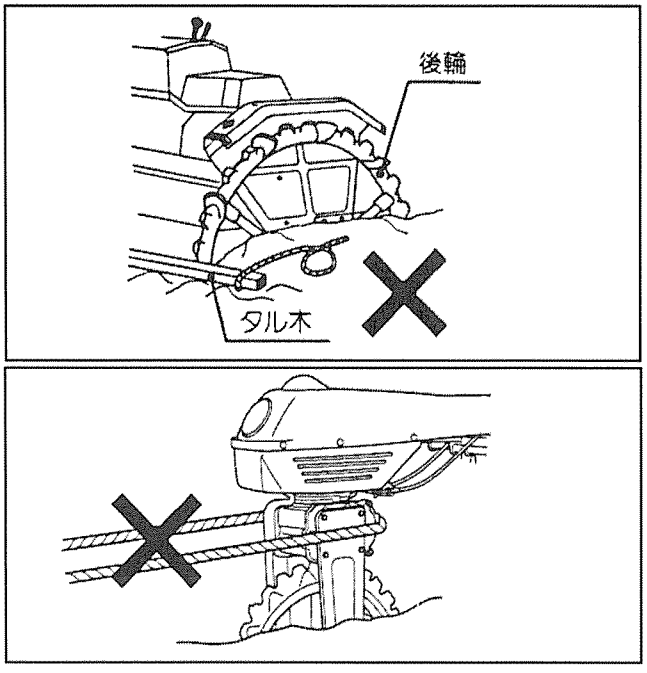
安全クラッチの確認時は、必ずエンジンを停止して行なってください。

重要

●植付爪やガイド板が曲がったり破損したときは、購入先に連絡して部品交換をしてください。

■湿田での脱出のしかた

(1) 予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
(2) 車輪に負担をかけないよう、植付クラッチレバーを「下」、油圧感度調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りているようにしておきます。
(3) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひきます。
(4) 主変速レバーを「低」から「高」に繰り返し操作して、ゆっくり自力で脱出させてください。



重要

●深いほ場で沈んで、田植機から異音がしたり、車輪がスリップして前進できなくなった場合は、絶対にトラクター等で引っ張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。

点検整備

定期点検

定期点検は、田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでも充分発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

⚠警告

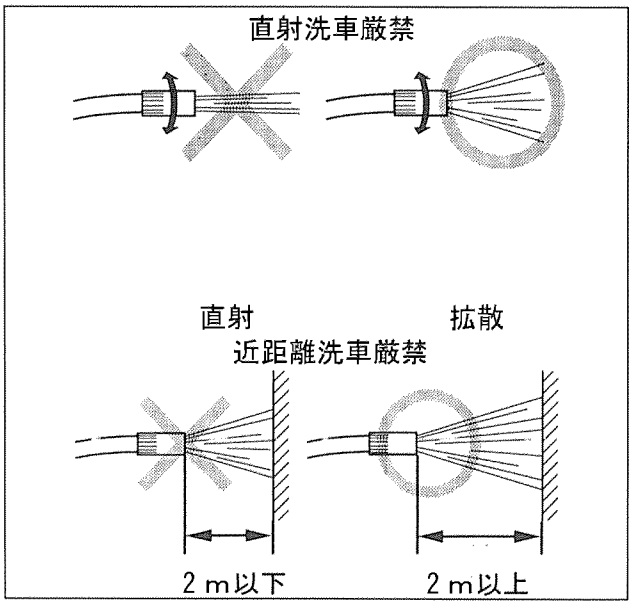
- ●各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めてから作業をしてください。
- ●取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込まれる恐れがありますので、点検後はカバー類を必ず取り付けてから作業をしてください。
- ●燃料・オイルの補給は火気厳禁で行なってください。
- ●植付部を上げた状態で作業を行なうときは、植付部固定フックレバーを「掛ける」にして植付部を固定して作業を行なってください。
- ●エンジンカバーを外すときは内部が充分冷え、やけどの恐れがないことを確認してください。
- ●燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。
- ●廃棄物をみだりに捨てたり焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- ●機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。
- ●廃油を地面へたれ流したり、河川・湖沼・海洋へ投棄したりしないでください。
- ●廃油・燃料・フィルター・ゴム類・その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。
- ●作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- ●ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴・保護メガネや手袋などを着用してください。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠注意

- ●機械を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、
- (1) 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
- (2) 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して障害を負う恐れがあります。
- (3) 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
  - 例①シール・ラベルの剥がれ
  - ②エンジン、電装部品、コネクタ内部等への浸水による故障
  - ③オイルシール等へのゴム類、樹脂部品等の破損
  - ④塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

<table>
<tr><th rowspan="2">点検箇所・項目</th><th rowspan="2">点検・処置</th><th colspan="6">点検・交換時期</th><th rowspan="2">参照
ページ</th></tr>
<tr><th>作業
前後</th><th>シーズン
前後</th><th>50
時間</th><th>150
時間</th><th>200
時間</th><th>2年
ごと</th></tr>
<tr><td colspan="9">エンジン部</td></tr>
<tr><td>燃料フィルタポット
（燃料フィルタ）</td><td>掃除・洗浄</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>54
☆</td></tr>
<tr><td>エアクリーナ
エレメント</td><td>掃除</td><td colspan="6">○：50時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除）
△：汚れがひどいとき</td><td>55
☆</td></tr>
<tr><td rowspan="2">点火プラグ</td><td>掃除</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td rowspan="2">55
☆</td></tr>
<tr><td>すき間調整</td><td colspan="6">○：500時間ごと</td></tr>
<tr><td>気化器（キャブレター）</td><td>掃除</td><td colspan="6">○：エンジン不調時など</td><td>☆</td></tr>
<tr><td rowspan="2">燃料ホース</td><td rowspan="2">バンド
締付け</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>△</td><td rowspan="2">56
☆</td></tr>
<tr><td colspan="6">（作業前点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの
締付け又は、交換）</td></tr>
<tr><td colspan="9">走行・操作部</td></tr>
<tr><td>オイルフィルター</td><td>—</td><td></td><td></td><td>▲</td><td>△</td><td></td><td></td><td>57
☆</td></tr>
<tr><td>変速ミッション
駆動ベルト</td><td>—</td><td colspan="6">△：磨耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき</td><td>56
☆</td></tr>
<tr><td>ブレーキペダル</td><td>点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>27
☆</td></tr>
<tr><td>主変速レバー</td><td>点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>27
☆</td></tr>
<tr><td>車輪</td><td>点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>58
☆</td></tr>
<tr><td colspan="9">植付部</td></tr>
<tr><td rowspan="4">押出し棒、苗受
ガイド板、苗支持板
縦送り爪、植付爪</td><td rowspan="2">掃除</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="4">48
☆</td></tr>
<tr><td colspan="6">△：汚れがひどいとき</td></tr>
<tr><td rowspan="2">点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="6">△：破損時、磨耗がひどいとき</td></tr>
<tr><td colspan="9">電装部</td></tr>
<tr><td>各配線コード</td><td>点検</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>58
☆</td></tr>
<tr><td colspan="7">△：破損時</td></tr>
</table>

重要

- 専門的な技術な特殊工具を必要とする場合及び、参照ページ欄に☆印のある項目については、購入先に連絡または整備工場で行なってください。
- 上表の時間は目安です。使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なりますので早めの点検をお願いします。
- 補給や交換の際は、ゴミや水など異物が混入しないよう注意してください。

■給油・注油点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
オイル	エンジン	補給・交換	作業前又は、作業後	●初回 …20時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 約0.6L オイルゲージの下限と上限の間	エンジンオイル API分類 SE級以上 10W-30	25
	変速ミッション	補給・交換	作業前又は、作業後	● 50時間ごと または 3年経過時	＊規定量 オイルゲージの範囲内 ●容量…約4.9L	みのる純正 HSTオイル または TFアグリコ (ヤナセ製油)	53 ☆
	植付ミッション	補給・交換	作業前又は、作業後	●1年ごと	＊規定量 各約1.4L	ギヤオイル #90	54
注油・グリス	各部	補給	適宜		適量	油・グリス	26

■燃料・オイルの点検・補給・交換

重要

●補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
　○エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5分以上経過してから行なってください。
　○ミッションケースは使用開始から50時間に満たない場合でも、3年経過後はオイル交換をしてください。
　○廃油は使用しないでください。
　○給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
　○使用するオイルは指定のものを使用してください。
●点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
●オイル排出時、田植機内にオイルが残る場合があります。その場合、規定量を給油するとオイルが溢れますので、給油時は油面を確認しながら慎重に行なってください。

警告

●燃料やオイルの補給中は火気厳禁です。
●エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災ややけどをするおそれがあります。

■燃料の排出

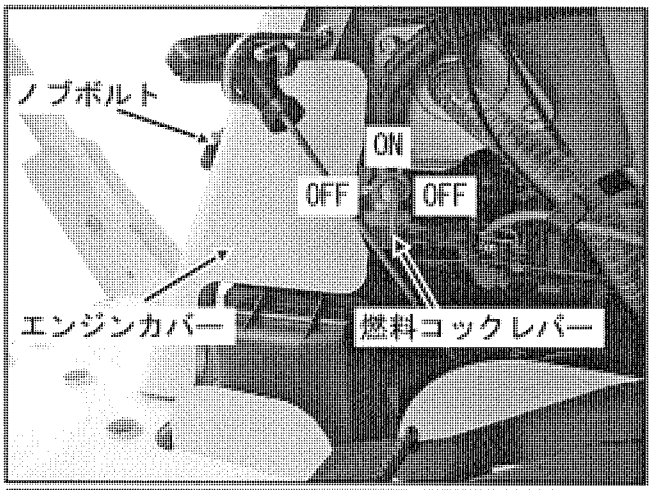
長期格納時や燃料の交換を行なうときは、燃料タンクのガソリンを排出します。

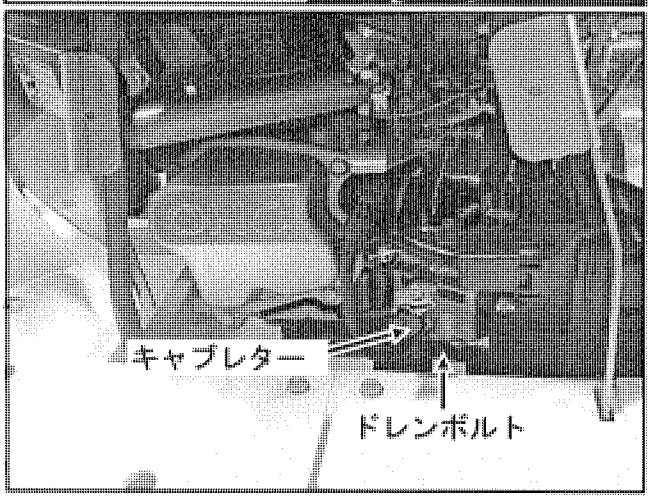
①燃料コックレバーを「ON」にします。

②ガソリンを受けるための鋼製の容器を準備したあと、ノブボルトを外し、エンジンカバーを外します。

③キャブレターのドレンボルトを外し、ガソリンを鋼製の容器で受けます。

④ガソリンを全て排出したら、キャブレターのドレンボルトとエンジンカバーを取り付けます。





■変速ミッションオイル

●点検・補給

(1) 植付部を下降させ、エンジンを停止します。

(2) 変速ミッション右側にあるオイルゲージで、範囲内に油面があるか確認します。

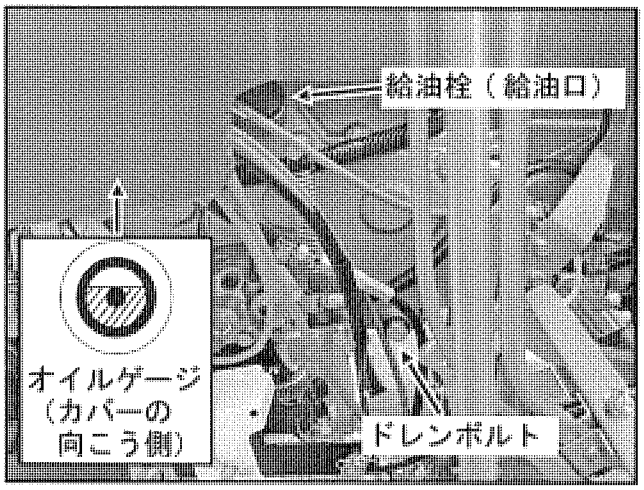
(3) 不足している場合は、ボルト４本を外し、ハンドルポストキャップを上にあげます。その後、ボンネットカバー後を上に持ち上げ、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに油もれのないことを確認してください。給油が終わったらボンネットカバー後を元通り取り付けてください。

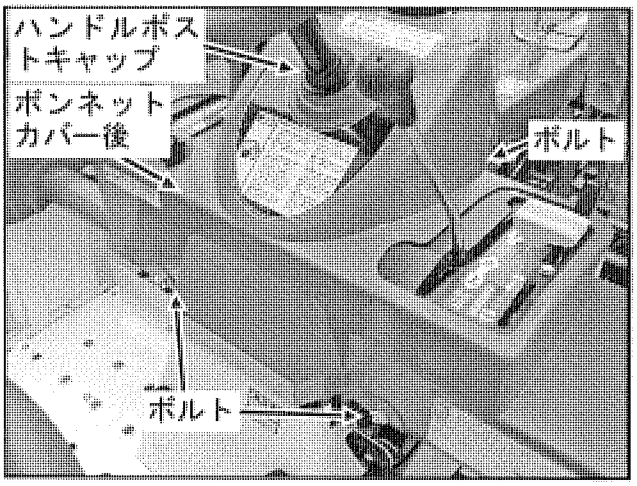
●排油のしかた

植付部を下降させた後、ドレンボルトを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

ドレンボルトを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。





重要

●給油したあとエンジンを約１分回転させて、再度点検を行ない不足しているときは、オイルを追加補給してください。

オイルの種類	オイル容量
みのる純正 HST オイル または TF アグリコ（ヤナセ製油）	約 4.9L

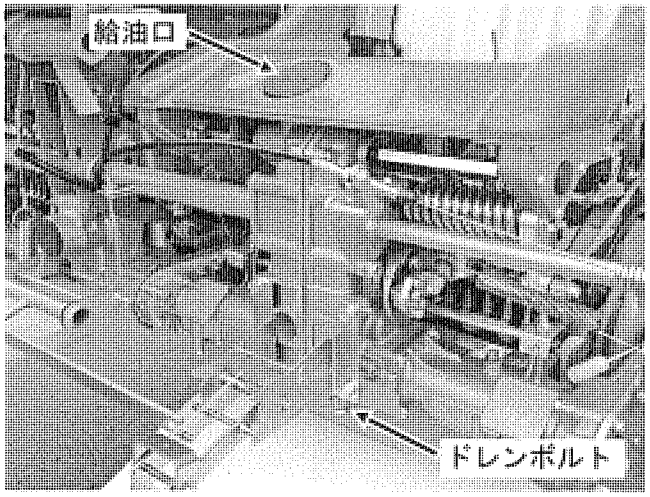
■植付ミッションオイル

●交換

①ドレンボルトを外してオイルを抜いてください。

②ドレンボルトを締め付け後、給油口から規定量給油してください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤーオイル　#90	約　1.4L

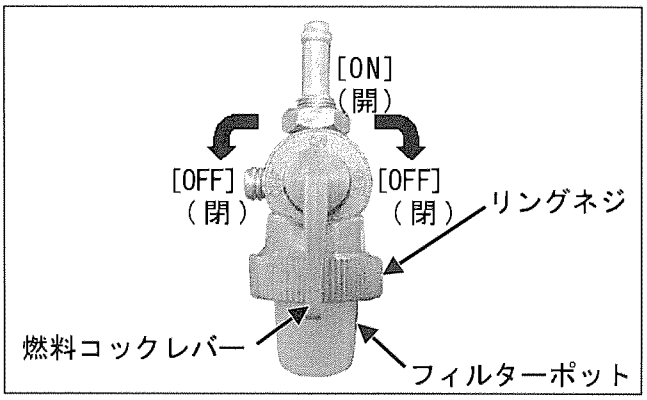


■燃料フィルターポットの点検・掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

⚠警告

点検・掃除中は火気厳禁です。



重要

●燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルターのエレメントの目詰まりが早くなったり、フィルター内に水が溜まりやすくなります。

●フィルターポット下部に水が溜まっているときは、早めに掃除又は交換してください。

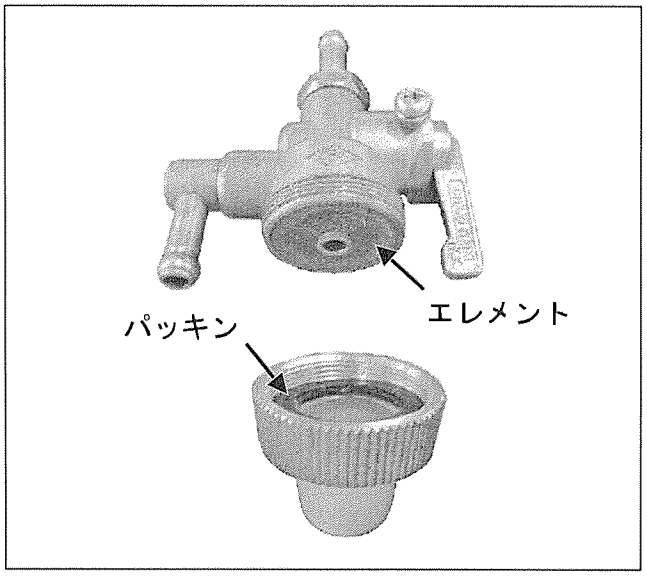
●点検・掃除

①燃料コックレバーを「ON」位置から「OFF」位置にします。

②リングネジをゆるめてポットを外します。

③エレメントを取り出してガソリンで洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき、汚れのひどい場合は交換してください。

④パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組み付けます。



重要

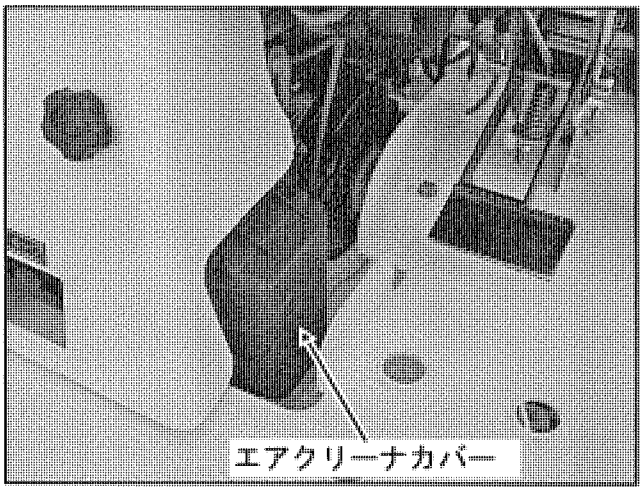
●エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また、なくさないでください。

●ゴミが燃料内に混入すると、故障の原因になります。

■エアクリーナエレメントの点検・掃除

重要

●エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前にかかさず行なってください。



●点検・掃除

①エアクリーナカバーを取り外します。

②エレメント(スポンジ)を取り外し、灯油又は家庭用洗剤で洗浄(もみ洗い)をします。このとき、汚れや破損のひどい場合は交換してください。

③エレメント(スポンジ)を乾燥させます。

④エンジンオイルに侵して固く絞ってから取り付けたあと、エアクリーナカバーを取り付けます。

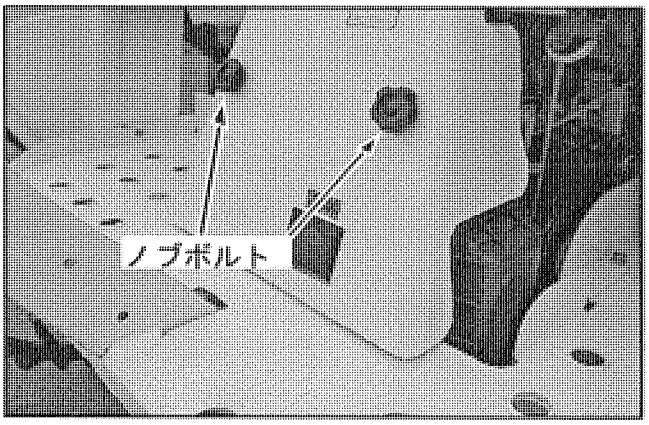
■点火プラグの点検・掃除・調整

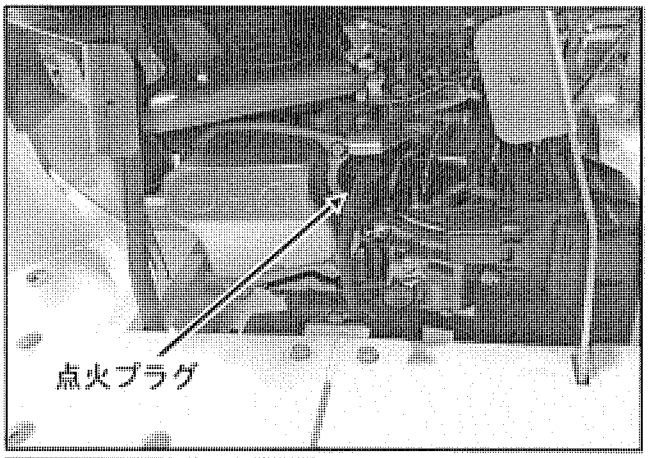
重要

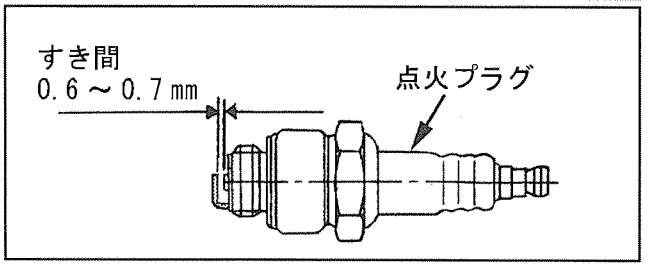
●点火プラグの電極が溶けて、すき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子(ガイシ)部が破損するとエンジンの不調の原因となります。

●点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良をおこすおそれがあります。

点火プラグ型式
BPR6HS(NGK)







●点検・掃除・調整

①ノブボルトをゆるめエンジンカバーを取り外します。

②点火プラグキャップを外し、プラグボックスで点火プラグを取り外します。

③ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、電極のすき間を確認し、異常があれば、すき間調整又は、点火プラグの交換を行ないます。すき間は0.6～0.7㎜に調整します。

■燃料ホースの点検・交換



⚠注意

燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。

●**点検**

エンジン・燃料タンク各部にあるホースを点検し、油もれが発生しているときは、ホースの交換やバンドを締め付けてください。

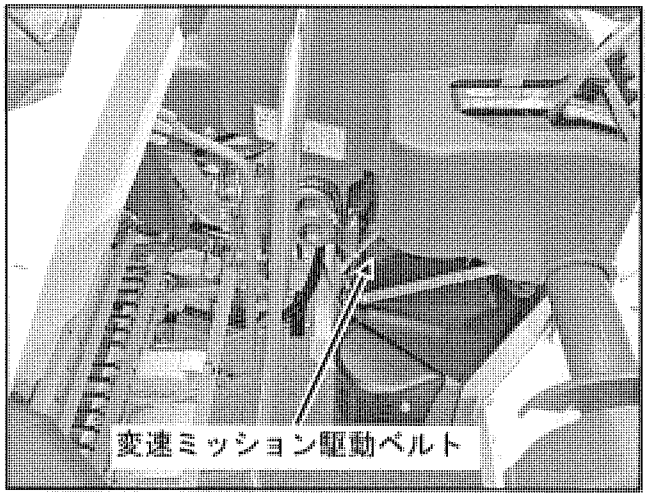
●**交換**

交換時の取り付け不良やバンドの締め付け忘れ、締め付け不足がないよう取り付けてください。

重要

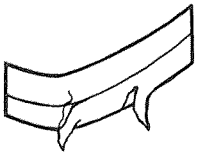
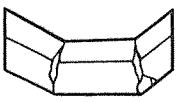
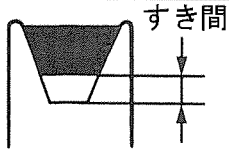
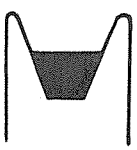
- ●油もれをしていなくても、２年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。
- ●交換時に各部にゴミが入らないように注意してください。
- ●交換を行なう時は、購入先に連絡してください。

■変速ミッション駆動ベルトの点検



●**点検**

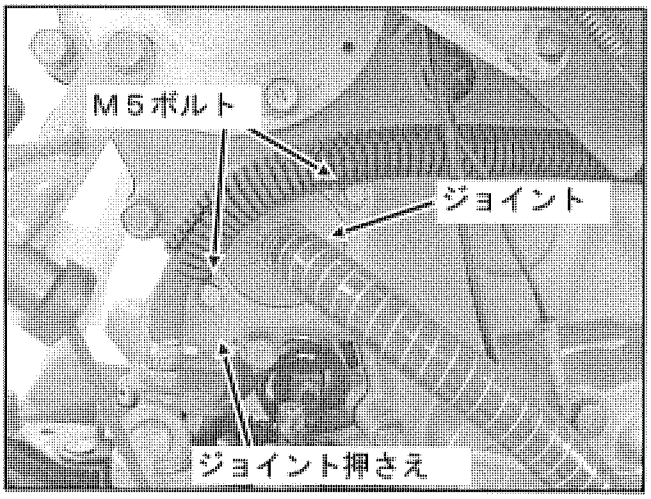
ベルトを点検するときは、ベルトの焼付きや磨耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ、ベルトの底部とプーリー溝部のすき間、ベルトの伸び（たわみ量）を確認して、異常があれば購入先に連絡してベルト交換を行なってください。

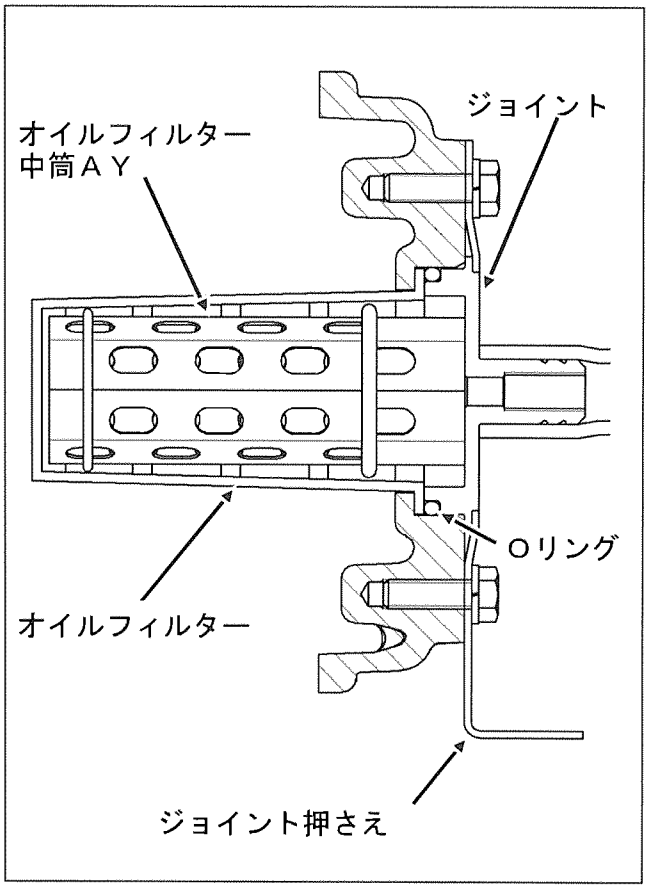
焼付きや磨耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
○	×	
		

■オイルフィルターの交換

●交換

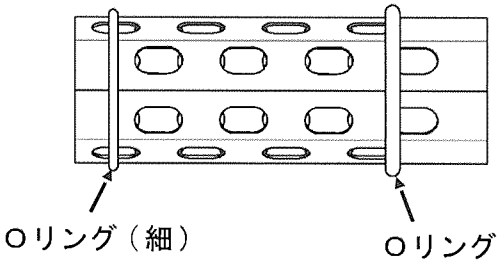
①植付部を下降させ、エンジンを停止します。
②変速ミッションオイルを排出します。
（53 ページ参照）
③エンジンカバーを外します。
④ M5 ボルト２本を外し、ジョイント押さえを外します。
⑤ジョイントを外します。
⑥オイルフィルター中筒ＡＹを取り出します。
⑦オイルフィルターを取り出します。
⑧新しいオイルフィルターの中に、オイルフィルター中筒 AY を挿入します。





重要

●オイルフィルター中筒 AY は、太いＯリングがジョイント側にくるように挿入します。
●Ｏリングが右図位置からずれていないことを確認してください。



⑨Ｏリングをジョイントの端部にはめこみ、ジョイントを取り付けます。
⑩ジョイント押さえを M5 ボルト２本で取付ます。
⑪オイルを補給し（53 ページ参照）、５分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、植付部を上昇させ、植付部フックで吊り下げエンジンを止め、再度油面が規定内にあることを確かめてください。

重要

●ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルターの目詰まりが早くなったり、変速ミッションの故障の原因となります。

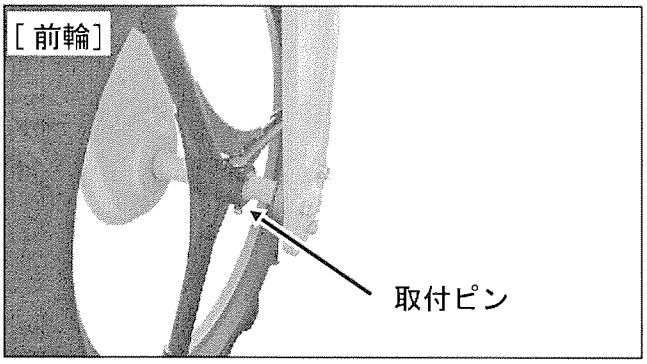
■車輪の点検

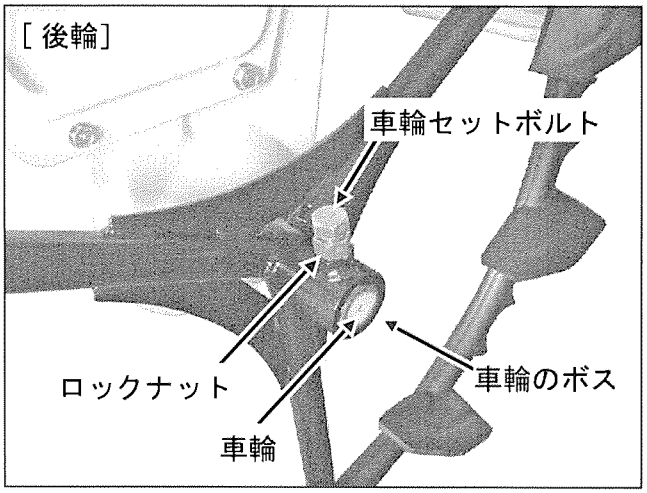
⚠警告

(1) 車輪セットボルトやナットに緩みがある場合や、車輪のボスと車軸にがたつきや摩耗、破損がある場合は、車輪が脱落し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。
(2) 車輪ゴム部が摩耗するとスリップを起こしやすくなるため、アユミ板の上などで脱輪して転倒する恐れがあります。

●点検

(1) 後輪はロックナットを緩め、車輪セットボルトを33～44N·m(330～450kgf·cm)で締め付けたあと、ロックナットを33～44N·m(330～450kgf·cm)で確実に締め付けてください。
(2) 前輪・後輪ともに車輪のボスと車軸のがたつきや摩耗、破損を点検します。車輪のボスと車軸に著しくがたつきがある場合や破損している場合は、ただちに購入先に連絡して交換してください。
(3) 前輪・後輪ともに車輪ゴム部の摩耗や破損(ひび割れなど)を点検し、著しく摩耗している場合や破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換してください。





■電装部の各配線コードの点検・交換

⚠注意

配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良による、漏電やショート（短絡）は火災の原因になります。

●各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ(端子)の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、販売店へ連絡して交換してください。

植付作業後の手入れ

植付作業終了後は、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の田植作業に備えてください。

■毎日の作業後

⚠注意

●掃除するときは、必ずエンジンを停止してから行なってください。
●燃料抜き取り時は火気厳禁。

(1) 平たんな場所に田植機を止めます。
(2) 水洗いをして機体各部の泥などを取り除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。(26 ページ参照)
(3) 格納場所に格納します。
(4) 植付部を上昇させ植付部固定フックを掛けます。
(5) エンジンスイッチを切ります。
(6) 駐車ブレーキを掛けます。

■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前に各部の点検・整備を念入りに行なってください。

●各部の掃除・注油と補修
機体を平たんな場所に止めて下記事項を行なってください。
○水洗い後、ゴミ・水滴を充分ふき取り、油をしみこませた布で清掃してください。
○各グリスの塗布箇所にはグリス、注油箇所には注油を行なってください。
○塗布したグリスや油が横送りベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
○植付爪の先端など、錆びやすい所にはグリスを塗ってください。
○各部のゆるみを調べ、増し締めを行なってください。

重要

●機体を洗う場合は、エンジンや電装品に水がかからないようにしてください。

●燃料

警告

燃料のガソリンを保管するときは、必ず専用の容器に保管してください。市販のポリタンクでのガソリンの運搬・保管は絶対にしないでください。（消防法で禁止されています）

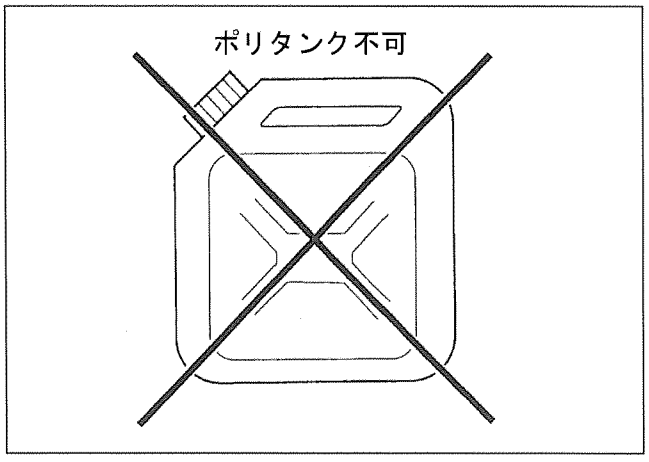
注意

燃料を排出するときは、エンジンやマフラーが充分冷えてから行なってください。火災が発生する恐れがあります。

来シーズンに備えて燃料タンク内（53ページ参照）およびフィルターポット内（54ページ参照）のガソリンを抜き取ってください。

重要

- ●燃料のガソリンは1ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内およびフィルターポット内のガソリンは抜き取ってください。
- ●燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず「OFF」位置にし、エンジンを動かす前に「ON」位置にしてください。



●各レバー・その他

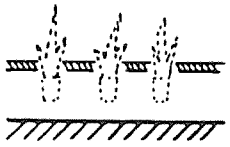
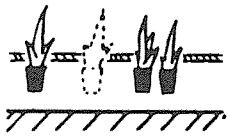
点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは植付部を下ろして下記事項を行なってください。

○駐車ブレーキを掛けてください。駐車ブレーキを掛けないで保管すると変速ミッション駆動ベルトが変形する恐れがあります。

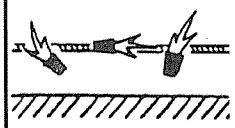
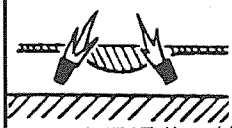
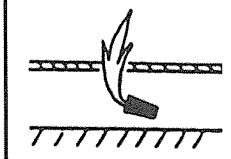
○ほこりよけのため、適当なシートカバーをかけて保管してください。

不調時の処置

●田植作業は、苗・ほ場・田植機の３拍子そろって初めて良い植付と高能率が得られます。
田植機の点検、苗・ほ場の良い条件作りに心がけてください。
●下記の原因以外については部品の消耗等がありますので、購入先にご相談ください。

不調内容	原因		処置
 連続欠株ができる	苗	○根張りが悪い。（ポットがくずれる） ○根が張りすぎている。 （硬くて抜けない） ○苗箱の表や裏に土が多く付いている。 ○重粘土の箱土を使用。 ○砂質土・火山灰土の箱土を使用。	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。 ○充分濡らす。 ○太苗用の苗受に交換する。 （注文部品） ○苗箱を洗う。 ○充分濡らす。 ○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。
	田植機	○縦送り爪（下）の油切れ。 ○押出し棒の元に根がたまっている。 ○苗受けに土や小石がつまっている。 ○苗箱のセット不良。 ○苗箱の角穴が雑草でふさがっている。 ○苗箱が破損している。 ○ガイド板に小石がつまって 安全クラッチが働いている。 （ミッションからカチカチと音がする） ○押出し棒の磨耗または調整不良。 ○縦送り爪の磨耗または調整不良。	○毎日注油。（P26 参照） ○根を取除く。（P48 参照） ○苗受をよく洗う。（P48 参照） ○ベルが鳴ってから確実に補給。 （P45 参照） ○雑草を取除く。（P38 参照） ○破損した苗箱は使用しない。 ○古くて壊れやすい苗箱は使用しない。（P38 参照） ○ガイド板につまった小石を取除く。 （P49 参照） （エンジンを停止して行なう） ○部品交換または調整。 ○部品交換または調整。
 欠株ができる （二株植えになる）	苗	○根張りが悪い。（ポットがくずれる） ○根渡りしている。	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。 ○根を切断する。
	田植機	○苗支持板の変形。 ○コンベアーベルトの上に土がたまっている。 ○コンベアーベルトの調整不良。 ○植付爪の調整不良。	○苗支持板の修正・交換。 （P48 参照） ○コンベアーベルトを洗う。 （P48 参照） ○タイミング調整。 ○タイミング調整。

不調時の処置

不調内容	原因		処置
 植付姿勢が悪い （浮き苗・ころび苗）	苗	○根張りが悪い。（ポットがくずれる） ○徒長苗。	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。 ○葉先を切断する。 ○植付速度を遅くする。
	ほ場	○ほ場が軟らかすぎる。 ○ほ場が硬すぎる。 ○ほ場に水が多すぎる。 ○ほ場が粘土質である。	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○植付深さを深くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 （P43 参照） ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 （P43 参照） ○水を少なくする。 ○植付速度を遅くする。 ○ほ場に水を入れる。
	田植機	○苗支持板の変形。 ○苗受に土や小石がつまっている。 ○ガイド板に泥がつまっている。 ○ガイド板の変形。 ○フロート後部が浮いている。	○苗支持板の修正・交換。 （P48 参照） ○苗受をよく洗う。（P48 参照） ○ガイド板をよく洗う。 ○ガイド板の修正・交換。 ○フロート姿勢の調節。（P43 参照）
 フロート通過後に植付けた苗が倒れる	ほ場	○ほ場が極端に軟らかすぎる。 （表土がトロトロで足跡もつかない状態）	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 （P43 参照）
	田植機	○フロート後部が沈んでいる。	○フロート姿勢の調節。（P43 参照）
 植え傷み苗ができる	苗	○根張りが悪い。 ○貧弱苗。	○植付速度を遅くする。
	田植機	○ガイド板に泥・異物がつまってガイド板幅が開いている。 ○ガイド板の変形。 ○苗支持板の変形・欠落。	○泥・異物を取除く。 ○ガイド板の修正・交換。 ○苗支持板の修正・交換。 （P48 参照）
フロートで泥を押す。		○油圧感度調節が適正でない。 ○ほ場が軟らかすぎる。	○油圧感度の調節を行なう。 （P43 参照） ○ほ場を硬くする。

■主要諸元

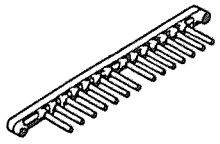
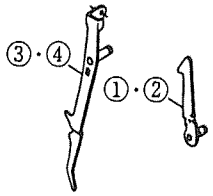
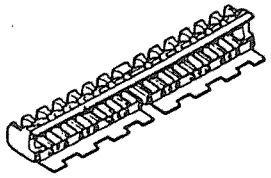
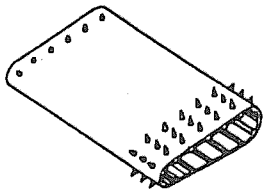
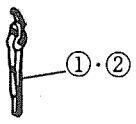
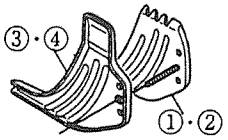
型式名			みのる RS-04
区分			共立 RS04
駆動方式			3輪駆動
機体寸法	全長（mm）		2080（作業時の寸法 2340）
	全幅（mm）		1340
	全高（mm）		1415
	最低地上高（mm）		325（植付クラッチ伝動ケース下部）
機体質量（重量）（kg）			277
エンジン	型式名		EX13
	種類		空冷4サイクル傾斜型ガソリンエンジン
	総排気量（L{cc}）		0.126{126}
	出力/回転速度（kW{PS}/rpm）		2.2｛3.0｝/3600（最大 3.2{4.3}/4000）
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量（L）		5.0（ゲージ付）
	始動方式		リコイルスターター式
走行部	かじ取り方式		1輪式
	車輪	前輪（mm）	クッション（550）
		後輪（mm）	ゴムラグ（750）
	輪距（mm）		後輪 1190
	軸距（mm）		1443
	変速方式		油圧式トランスミッション〔HST〕
	変速段数（段）		HST 主変速：前進6段・後進4段〔副変速：2段〕
植付部	植付方式		回転式強制植付け
	植付条数（条）		4
	植付条間（cm）		33
	植付株間（cm）		16、18、20、22、24、26、30（スリップ率 8%）
	植付株数（株/3.3 ㎡）		63、56、50、45、41、38、33（スリップ率 8%）
	植付深さ（cm）		1～4（4段）
	1株本数調整		播種量の調整による
苗の種類			ポット苗
葉令・草丈			4～5.5葉、8～25 cm
苗とう載数（箱）			6
作業速度（m/s）			0～0.75
作業能率（分/10a）			27～40
型式検査合格番号			――――
安全鑑定番号			――――

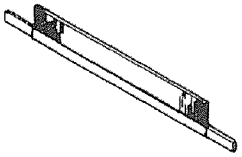
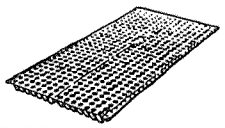
■標準付属品

次の部品が付属していますのでご確認ください。

○取扱説明書 ―――――――――――――― 1
○保証書 ―――――――――――――― 1
○安全運転説明確認票 ―――――――――― 1
○工具袋 ―――――――――――――― 1
　プラグボックス ―――――――――――― 1

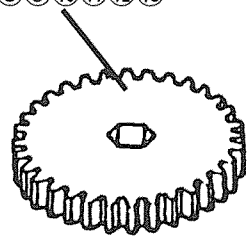
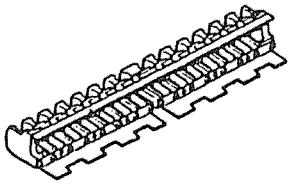
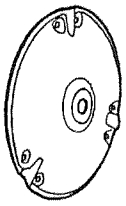
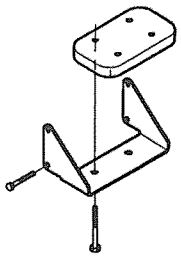
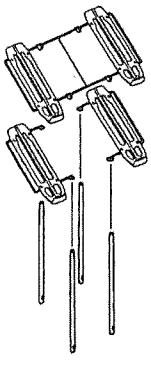
■主な消耗部品一覧表

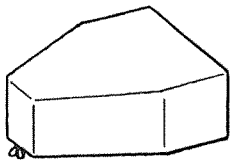
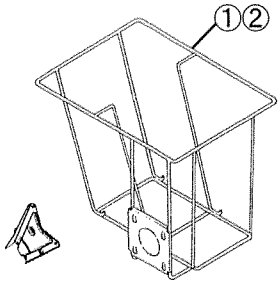
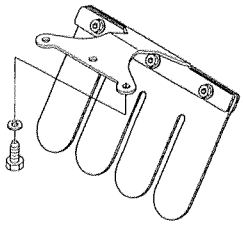
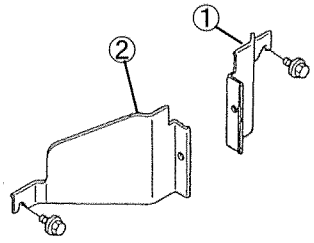
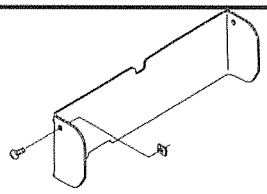
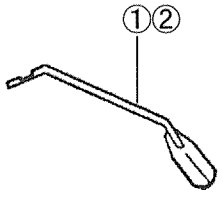
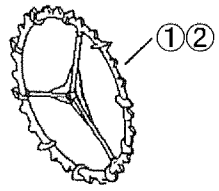
形　状	品　名	部品番号	備　考
	押出し棒座ＣＰ	X4-3118	破損、または磨耗した場合交換
	①縦送り爪下(左)CP ②縦送り爪下(右)CP ③縦送り爪上(左)CP ④縦送り爪上(左)CP	X4-3206(1)L X4-3206(1)R X4-3209(1)L X4-3209(1)R	破損、変形、磨耗した場合交換
	苗受ＣＰ	LPRH6-23401(1)	破損、変形、磨耗した場合交換
	タイミングベルト	LTP-3506(2)	破損、または伸びた場合交換
	苗支持板	LTP-3513(1)	欠落、または変形した場合交換
	①植付爪(左)AY ②植付爪(右)AY	LPRH6-24213(1)LAY LPRH6-24213(1)RAY	欠落、または変形した場合交換
	①ガイド板内(左)CP ②ガイド板内(右)CP ③ガイド板外(左) ④ガイド板外(右)	X4-4302(1)L X4-4302(1)R X4-4301(3)L X4-4301(3)R	変形、または磨耗した場合交換

形　状	品　名	部品番号	備　考
	土落しブラシCP	MRX8-22608(1)	変形、または磨耗した場合交換
エンジン	スパークプラグ	BPR6HS	エンジン不調時
	チョークレバー保持板	RS04-12305	チョーク保持力が低下したとき交換
	エレメント（エアクリーナー）	RN-277-32661-17	
エンジン支持部	防振ゴム	RS04-13110	亀裂、または剥離した場合交換
変速ミッション	みのる純正 HST オイル	――――――	50 時間ごとまたは 3 年経過時に交換
	オイルフィルター	RS04-52102	オイル交換のとき交換
ミッション駆動ベルト	Vベルト（AG6A）	VLB30-AG6A	亀裂、または磨耗した場合交換
燃料タンク	燃料パイプ上 CP	RS04-15201	破損時または 2 年ごとに交換
	燃料パイプ下	RS04-15202(1)	破損時または 2 年ごとに交換
各ワイヤー	――――――	――――――	作動が重くなったとき交換
	苗箱	――――――	10 年以上経過した古い苗箱は交換 角穴が破損した場合交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のものを準備していますので、用途に応じてご購入の上ご利用ください。
ご購入にあたっては機械の購入先にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず購入先で行なってください。

形　状	品　名	部品番号	備　考
①②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑫⑬ 	①替ギヤー 3 ②替ギヤー 4 ③替ギヤー 5 ④替ギヤー 6 ⑤替ギヤー 7 ⑥替ギヤー 10 ⑦替ギヤー 13 ⑧替ギヤー 14 ⑨替ギヤー 16 ⑩替ギヤー 17 ⑪替ギヤー 19 ⑫替ギヤー 27 ⑬替ギヤー 28	LT6-1415(1) LT6-9301 LT6-9303 LT6-9305 LT6-9306 LTD3-8201 LTD3-9104 LTD3-9103 X4-8205 X4-8206 X4-8208 RS04-91101 RS04-91102	特殊株間用 (39 ページ参照)
	苗受CP	LTP-9403	太苗用 (突起なし)
	前輪ホイルキャップ 390AY	RS4-94011AY	
	①前輪補助ウエート 10 AY ②前輪補助ウエート 20 AY	RM41-98010AY RM41-98000AY	10kg 20kg
	予備苗台 AY	RS4-92010AY	追加 2 段分

形　　状	品　　名	部　品　番　号	備　　考
	機体カバー	X4-8209	
	①空箱入れ（左）AY ②空箱入れ（右）AY	RS04-91200LAY RS04-91200RAY	
	前輪跡消し板 AY	RS04-91300AY	
	①防風カバー前（左）AY ②防風カバー前（右）AY	RS04-91400LAY RS04-91400RAY	
	防風カバー後 AY	RS04-91500AY	
	①線引きマーカー（左）CP ②線引きマーカー（右）CP	RS04-91051L RS04-91051R	
	①後輪 750 × 50（左）CP ②後輪 750 × 50（右）CP	RS04-91041L RS04-91041R	外径 φ 750 ラグ幅 50

索　引

	項目	ページ
あ	アクセルレバー	18
	あぜぎわクラッチレバー	21
	アユミ板の基準	5
	安全クラッチが作動したとき	49
	安全な作業をするために	1
	安全のポイント	1
	安全表示ラベル	8
い	移動・運搬のしかた	32
う	植え傷みの注意	12
	植えじまいのしかた	46
	植付株間の決めかた	39
	植付クラッチ（油圧）レバー	20
	植付作業の手順	41
	植付作業前の準備	39
	植付深さ調節レバー	21
	植付深さの調節のしかた	40
	植付部の水洗いのしかた	48
	植付部固定フックレバー	22
	植付ミッションオイル	54
	運転のしかた	28
	運搬中の固定のしかた	34
え	エアクリーナエレメントの点検・清掃	55
	エンジンオイルの点検と補給	25
	エンジンスイッチ	17
	エンジンの始動	28
	エンジンの停止	29
	エンジン番号	14
お	オイルフィルターの交換	57
	押出し棒	47,48

	項目	ページ
か	ガイド板	48
	替ギヤーの交換	39
	型式マーク	14
	空箱収納のしかた	45
き	給油・注油箇所の点検と補給	24
	給油・注油点検一覧表	52
く		
け		
こ	コンベアーベルト	42
さ	サービス資料	53
	サイドマーカー	23,41
	作業のしかた	36
	作業前点検	24
	座席の調節	23
し	湿田での脱出のしかた	49
	車輪の点検	58
	主変速レバー	17
	主要諸元	63
	使用上のポイント	10
	商品の保証	14
	上下送りバネ軸	11
	消耗部品一覧	65
す	筋付マーカー	22,41
	筋付マーカーの使い方	45
	ストッパー爪	48

索　引

	項目	ページ		項目	ページ
せ	製造番号	14	に		
	セットレバー	22,47			
	旋回のしかた	44			
	洗車時の注意	50	ぬ		
	センターマスコット	15			
			ね	燃料・オイルの点検・補給・交換	52
そ				燃料ゲージ	24
				燃料コックレバー	28,53
				燃料（ガソリン）の給油	24
た	縦送り爪	48		燃料の排出	53
	縦送り爪下	11		燃料ポットフィルタの点検・交換	54
				燃料ホースの点検・交換	56
ち	駐車のしかた	31	の	残り苗の取り出しかた	47
	駐車ブレーキレバー	21			
	注文部品の紹介	67			
	注油箇所	26			
	長期格納時	59	は	発進のしかた	30
	チョークノブ	19			
つ					
			ひ	非特殊自動車としての取り扱い	1
				標準附属品	64
て	定期点検	50			
	定期点検一覧表	51			
	点火プラグの点検・掃除・調整	55			
	点検整備	50	ふ	副変速レバー	18
	電装部の各配線のコードの点検・交換	58		不調時の処置	61
				ブレーキペダル	20
				フロート姿勢の調整	43
と	トラックへの積み込み・積み降ろし	33	へ	ペダル・レバーの点検	27
				変速ミッションオイル	53
				変速ミッション駆動ベルトの点検	56
な	苗受	48			
	苗支持板	48			
	苗支持板の調整のしかた	40			
	苗の準備	37			
	苗のせ台	42,48			
	苗の補給のしかた	45			
	ならし運転について	29			

索　引

	項目	ページ		項目	ページ
ほ	補修用部品供給年限について	14	ろ		
	保証とサービスについて	14			
	ほ場での植えかた	44			
	ほ場の準備	36	わ		
	ほ場への出入りのしかた	35			
ま					
み					
む					
め					
も					
や					
ゆ	油圧感度調節のしかた	43			
	油圧感度調節レバー	19			
よ	予備苗台	15,41			
ら					
り	リコイルスターター	16			

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示します。

(社)日本陸用内燃機関協会:陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体で、環境保全の重要性を考慮して小形汎用エンジンの排出ガス浄化のため自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp

株式会社やまびこ

〒198-8760　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel.0428-32-6181

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel.022-288-0511 (代)

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel.0428-32-1091 (代)

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel.052-502-4111 (代)

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田 566-159　　Tel.086-296-5911 (代)

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel.092-573-5361 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

（C）２０１３　株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。

RS04-99206